

跡ナキノ奇ニ驚キ、怪談ナキノ怪ニ愕ケリ、今ヤ奇跡ノ地ハ忽チ驚愕ノ地ト變シ、驚愕シ了テ又落膽ヲ生シ、落膽極マリテ又不信ヲ來セリ、

第二 亞刺伯人大ニ耶蘇教ヲ改革スル事

波斯軍ノ侵入ハ、危ハ則チ危、難ハ則チ難ナリト雖モ、之ヲ予ガ今將ニ説カントスルノ事變ニ比スレハ、耶蘇教ニ對シ南方ノ改革單ニ其開端先兆タルニ過ギズ、實ニ此大事變ハ、耶蘇教中ヨリ、其地方十分ノ九(亞細亞、亞弗利加、及ヒ、歐羅巴)ノ一部ヲ奪ヒ去レリ、

耶蘇紀元五百八十一年、夏、麥加府ノ駱駝隊、波士拉府(大馬士革)ノ南西里亞ノ境ニアリニ來着ス、其長亞武多禮不一姪ヲ携フ、年甫メテ十二、亞刺伯(カバ)寺(本)大和尚ノ姪ナリ、納士德教派ノ寺院、之ヲ遇スル尤モ厚シ、已ニシテ寺僧(カバ)比拉以爲ラク、彼ノ加巴ニ藏スル所ノ黒石ハ、コレ亞刺伯人所皈ノ本尊ニシテ、之ヲ圍繞スル所ノ偶像三百六十軀ハ、一年ノ日數ニ

象トルト云フ、コレ純然タル偶像教ナリ、宜シク之ヲ教化スヘシト、乃チ懇々童ニ教ユルニ、納士德教派ノ主論ト、其經歷スル所ノ酸狀ト、亞里斯度德理學ヲ以テシテ、且ツ之ニ論スニ、東方耶蘇偶像教ノ非ヲ以テス、童性敏捷、頗ル宗教ヲ好ム、其師ノ説ヲ聞ク毎ニ、佛然トシテ、東方耶蘇教ノ偶像行アルヲ憤リ、之ヲ改良スルノ志ヲ懷ク、其長スルニ及ンテ、一神學(暗ニ回々)ヲ指ス)ヲ布クニ方リ、上帝ノ聖子耶蘇ト稱セズ、馬利亞ノ子耶蘇ト稱シ、且ツ自ラ亞里斯度德理學ヲ主張スルニ至リシハ、其源實ニ是ニ胚胎セリ、此童ハコレ何等ノ人ツ、曰ク哈力比即チ馬哈默是レナリ、已ニシテ、馬哈默(ハカム)麥加ニ皈ル、赤貧家計ニ苦ム、麥加ニ一寡婦アリ、加的沙ト名ク、家頗ル富ム、加女、馬哈默ノ度、潤大ニシテ、容貌ノ優美ナルヲ愛スルヤ、密カニ婢ヲシテ、其志ヲ通ゼシメ、終ニ之ヲ迎ヘテ、良人トナシ、其西里亞地方ノ貿易ヲ一任ス、馬哈默亦其人ヲ知ルノ才アルヲ見ルヤ、深ク

評富貴
不去糟
練妻所
以獲人
心

之ヲ親愛ス、后馬哈默ノ權漸ク四方ニ加ハルコ及ノテ、一美婦アリ、愛シ
 阿ト名ク、一日馬哈默ニ謂テ曰ク、カチ加的沙已ニ老タリ、上帝妾ヲ以テ之ニ
 代ラシム、願クハ枕席ノ塵ヲ掃ハシ、妾尙少壯、豈彼ノ老婦人ニ勝ラザラ
 ノヤト、馬哈默肅然トシテ容ヲ改メテ曰ク、上帝何スレツ然ラン、宇宙豈
 一ノ彼レニ勝ルノ良配アラシヤ、我レ元貧窶ナリ、人我レヲ用ヒザルキ、
 彼レ我レヲ信用セリ、世我ヲ輕賤セシキ、彼レ我レヲ敬愛セリト、遂ニ其
 愛ヲ分タズ、琴瑟和樂ナルコト二十四年、カチ加的沙女死ス、此ニ於テ、馬哈默
 初メテ他婦ヲ納ル、
 馬哈默、カチ加的沙ニ婚スルノ後ハ、復家計ニ苦シムコトナシ、故ニ始メテ宗
 教ヲ研究スルノ閑ヲ得タリ、カチ加的沙ノ從弟ニ華拉那ナルモノアリ、伯希
 列人ニシテ、カチ耶蘇教ニ改宗シ、カチ頗ル耶蘇教ノ義ニ通ス、馬哈默之ニ就テ其
 經典ヲ亞刺伯語ニ譯述ス、カチ深義ヲ學ヒ、益共偶像行アルヲ嫌忌セリ、

此時ニ當テ、耶蘇教寺院ハ、僧侶ノ野心暴戾ナルニ因テ、漸ク壞亂ノ狀ヲ
 呈シ、其公會ヲ開クニ當テヤ、毎ニ諸ノ口實ヲ逞シテ、遂ニ其實主義ヲ顯
 ハストナシ、賄賂コレ行ハレ、汚行コレ熾ナリ、其西教ニ於ケルヤ、僧官
 ハ唯威利ヲコレ求メテ飽クヲ知ラス、故ニ其極、遂ニ干戈ヲ弄シ、鮮血ヲ
 流シ、以テ卑劣ヲ撰擧スルニ至ル、其東教ニ於ケルヤ、君子坦丁府應ノ權
 謀、遂ニ種々ノ教派ヲ分裂シ、迭ヒニ相呑噬セリ、其中尤モ有力ナル者ハ、
 曰ク、カチ亞里亞尼教派、カチ然レト、上帝ノ造物中ニ於テハ、カチ耶蘇ヲ以テ最上トス、
カチトノ、カチ說テ、カチ曰ク、カチ巴西兒教派、カチ巴西兒ノ教派ナリ、其說ニ曰ク、上帝ニ二子ア
カチ唱フ、カチ教派、カチ曰ク、カチ巴西兒教派、カチリ、一ナ、カチ耶蘇ト云ヒ、他ヲサタニエルト云フ、サ
カチタニエ、カチ性悖戾、其父ニ敵ス、父怒テ之ヲ下界ニ追フ、然レト、其暴戾太シ
カチキヲ以テ、カチ耶蘇ヲ降誕セシメテ、其權ヲ殺カシム、カチ耶蘇、サタニエ、カチルヲ罰シ
カチテ、カチ地獄ニ禁錮シ、其名字ノ語尾ヲ、カチ曰ク、カチ加爾波克烈教派、カチ第二世紀ニ起リ
カチ削リ、カチ單ニ之ヲサタト爲スト、カチ曰ク、カチ加爾波克烈教派、カチシ、カチ教派ニシテ、カチ耶
カチ蘇ヲ神トセサル一派ナリ、カチ派徒ハ物皆共有ス、カチ曰ク、カチ哥爾里的安教派、カチ文ニ

ルノ處女アリヤ、是等ノ説ヲ信スルモ、神怒ニ觸ル、ノ恐レナキヤ、神威
 ヲ輕シムルノ罪ナキヤト、沈思觀念之ヲ久フシテ、恍然悟ル所アルカ如
 シ、乃チ曰ク、嗚呼我迷霧今纔カニ霽レ、始メテ獨一眞神ノ正理ヲ得タリ
 ト、乃チ其隣人ト親友トヲ集メ、棕櫚樹ノ下ニ之ヲ演説ス、且ツ衆ニ告テ曰
 ク、予ハ將來身ヲ終ルマテ、當ニ之ヲ説クヲ以テ事トスヘシト、且ツ其演説
 ニ哥蘭アラビヤノ回々教ノ經典ニ、必ラス常ニ服膺スルノ語アリ、曰ク、予ハコレ獨一眞神
 説ノ説教使ナリト、又其指環ノ銘ニハ、神使馬哈默マハムドノ一句ヲ彫セリ、以テ
 其神使ニ自任スルヲ見ルヘシ、
 人若シ食ヲ斷ツコト久シクシ、心氣ヲ勞スルノ甚メシキハ、必ラス狂
 疾ヲ發シ、ノコトハ、醫ノ深ク知ル所ナリ、且ツ予各宗祖ノ宗基ヲ開クヲ見
 ルニ、皆チ必ラス神變不測ヲ以テ感シ、神妙靈異ヲ以テ命ス、恐クハ世界
 中、一宗教モ唯謙遜辭讓以テ之ヲ弘メタルモノアラサルヘシ、馬哈默マハムドモ

亦不測ノ感應ヲ受ケテ、益々修道ノ念ヲ固フセリ、或ハ空中ニ音アリテ遠
 鐘ノ如キヲ聞キ、或ハ奇異ノ人物眼前ニ出現スルヲ見、遂ニ一夕夢ミラ
 ク、天使朦朧トシテ其前ニ來現シテ曰ク、汝予ニ從ヒ來レト、乃チ麥加メッカヨ
 リ耶路撒冷エルサレムニ至リ、遂ニ天堂ニ上ル、已ニシテ第六天ヲ觀了リ、將ニ第七
 天ニ及ハントス、天使逡巡之ヲ導ク能ハス、依テ馬哈默獨マハムド敢テ進ムニ、
 只見ル紫雲飄飄トシテ上帝ヲ罩フ、終ニ進ンテ雲中ニ入ル、上帝ノ手其肩
 ニ觸ル、忽チ心畏レ氣震フ、夢乃チ覺ム、
 然レトモ其論一タヒ世ニ出ルヤ、駁論紛トシテ起リ、唯ニ其功ヲ見サル
 ノミナラス、却テ麥加偶像教徒ノ遂フ所トナリ、纔カニ逃レテ麥地那メッカニ
 至ル、同府ハ猶太教及ヒ納士德教派ネストリアンノ地ナリ、納士德派ノ住民、悉ク馬
 哈默ニ皈ス、居ルコト六年、僅カニ千五百人ヲ改宗セシム、偶ヒ費達爾アト阿士
 等ノ戰爭アリ、馬哈默初メテ、智辨ハ利刀ノ人ヲ改宗スルノ快捷ナルニ

若カサルヲ覺ル、己ニシテ曰ク、天堂ハ閃々タル利刀ノ影ニアリト、馬氏
ノ軍略其宜ヲ得テ、旌旗ノ向フ所、一人ノ之ニ敵スルモノナク、悉トク風靡
草偃ス、此ニ於テカ、偶像教、又跡ヲ亞刺伯ニ留メス、獨一眞神ノ説ト、馬氏
ノ神使タルコト、ハ、國人一般ノ所信トナレリ、
予ハ馬氏カ殺伐暴戻ノ事ヲ詳説スルヲ好マス、故ニ、其功成リ名顯ハル
ル、後、今ヤ將ニ死ナントスルニ際シテ、後人ニ遺シタル所ノ數言ヲ記
スヘシ、

馬氏己ニ獨一眞神説ヲ開立シ、麥地那ヲ覆シテ、麥加ニ詣ス、其駱駝ハ草
花之ヲ壯飾シ、粲然トシテ目ヲ奪フ、從者十一万四千人、旌旗天ヲ覆フ、其
將ニ聖市（麥加）ニ入ラントスル時、嚴然大呼シテ曰ク、嗚呼上帝上ニ在マス、
帝命ヲ奉スルノ臣此ニアリ、誰カ陛下ニ似ルモノアラシヤ、唯拜スヘキ
ハ陛下ナリ、唯崇ムヘキモ亦陛下ナリ、王國ハ唯陛下ノ有ナリ、誰カ能ク

陛下ト之ヲ共有センヤト、語了リテ自ラ其駱駝ヲ捧ケ、以テ上帝ノ犧牲
ニ供セリ、

加巴（回教）ノ高座ニ於テノ説ニ曰ク、嗟、參詣ノ聽衆諸君ヨ、予モ亦諸君ニ
均シキ一人ナルノミト、又嘗テ人ノ恐縮スル者アルヲ見テ曰ク、汝何ノ
恐怖スル所ソ、予ハ皇帝ニアラス、又王公ニアラス、唯牛肉ヲ食トスル（亞）
刺伯（女）ノ一男兒ノミト、

馬氏（麥地那）ニ皈リ、將ニ死ナントスルニ方テ、其教會衆ニ訣別シテ曰ク、
事物一トシテ上帝ノ意ニアラサルハナシ、緩急前後各、其命アレハ、人爲
ノ得テ之ヲ左右スヘキニアラサルナリ、予ハ將ニ予ヲ送リタル上帝ニ
還皈セントス、故ニ今將ニ別レントスルニ臨テ、諸子ニ最後ノ命令ヲ與フ
ヘシ、諸子願クハ互ヒニ相愛シ、相護シ、相規シ、以テ道心ヲ堅固ナラシメ
ヨ、以テ信行ヲ永久ナラシメヨ、予カ降生スルヤ諸子ノ爲メナリ、今長逝

スルヤ亦諸子ノ爲メナリト、

愛士阿女ノ膝ニ枕シ、而シテ其手ヲ水瓶ニ入レ、時々其面ヲ冷シタリシモ、
氣息漸クニ促迫シ、遂ニ復之ヲ爲ス能ハス、乃チ天ヲ望ミ、一聲高叫シ
テ曰ク、嗚呼上帝、願クハ予カ罪ヲ免ルセヨ、ソレ然リ、予今將ニ其膝下ニ
至ラントスト、

吾人ハ斯人馬氏ヲ尊敬セザルヘキヤ、其教ハ、今現ニ全球ノ人民三分一ノ
奉スル所ナリ、馬氏ハ已ニ其本國ニ行ハレタル、古來ノ像教ヲ撲滅シ了レ
リ、今ヤ其幼時修得セシ、納士德派ノ教義モ亦天理人心ニ合ハサルモノ
アルヲ以テ、亦之ヲ顛覆スルノ地ヲ爲セリ、哥蘭ノ首章初數葉ニ於テ、
西ト耶蘇トノ傳ヘタルコトヲ信スル由ヲ記セシモ、是レ唯一時其人ヲ
尊敬シタルノミ、永久不易、最上無比ノ尊信ハ、唯全能全知ノ上帝ニアリ、
耶蘇ヲ聖子トスルノ説、馬利亞ヲ聖母ト稱シテ禮拜スルヲ、及ヒ其木像

畫像ヲ莊嚴スルコトノ如キハ、氏ノ眼ニテハ、汚ラハシキ一種ノ像教ト
見ルノミ、故コカメテ之ヲ排撃シ、又三位一体説ヲ痛斥セリ、思ハニ馬氏
ハ三神アレハ、必ラス其体各別ナラサルヲ得スト、思考セシモノ、如シ
馬氏第一ノ主眼ハ、亞利伯ノ偶像教ヲ顛覆シ、傍ラ大ニ宗教ヲ改革シ、以
テ耶蘇教諸派ノ確執ヲ休メントスルニアリ、而ルニ君子坦丁府ニ於テ
ハ、馬氏ヲ以テ新教ヲ開宗スルモノトナセシハ、恰カモ異日羅馬ニ於テ
路得ルテヲ新教改宗人トナスカ如ク、唯之ヲ惡ムモノ、讒誣ニ出ルナリ、
馬氏ハ、苟モ獨一眞神説ニ牴觸スルモノハ、百事皆大ニ之ヲ嫌忌セリト
雖モ、亦未ダ神ヲ人ニ比例スルノ人タルヲ免レズ、其哥蘭所説ノ眞神ヲ
見ルニ、身心兩ナカラ太ダ人間ニ類セリ、然レモ後世ニ至テ、其遺弟等、此
ノ卑説ヲ改メテ、稍高尙ナル説ヲ作レリ、
前ニ記シタル回々教當初ノ性質ハ、先輩諸大家ノ久シク論定セシ所ナ

リ、沙維廉戎士ハ駱克ノ言ニ同シテ曰ク、回々教ハ唯上帝ヲノミ眞神ト
 ナシ、且ツ之ニ附スルニ嚴然侵スヘカラサルノ威想ヲ以テシテ、我救世主
 ヲ聖子トナスコト、聖父ト聖子ト同神ナル説トヲ擊破セシノミ、コレ
 回々教ノ我耶蘇教ニ異ナル所以ナリト、此説ハ專ラ以太利ニ流行セシ
 モノナリ、故ニ但丁（以太利有）ノ曰ク、馬氏ハ實ニ一小派ノ開祖ノミ、回々
 教ハ唯亞里亞（亞里亞）ニ派中ノ一小派ノミト、英國和瓦得里（神學者）ノ曰ク、回
 ヲ一ノ一小派ナリシト雖、數次ノ大戰ニ、希臘耶蘇教ヲ覆シ、踵テ亞細亞阿
 弗利加ヲ陷サレ、百事意外ニ効アリレヲ以テ、遂ニ最初ノ意思ニ満足セス、
 他ノ默示ニ據テ、別宗ヲ開立スルニ至リシナリ、
 馬氏ハ終身孜々トシテ、其本國ヲ征伐シ、專ラ之ヲシテ改宗セザムルコ
 トヲ勉メ、其末路ニ及ンテ、初メテ西里亞波斯ニ侵入スルノ餘勇ヲ得タ

リ、故ニ其内治ノ如キハ、毫モ之ヲ計畫スルヲ得ス、是ヲ以テ、其死スルニ
 及ンテ、諸將皆之カ嗣ダラシコトヲ爭フ、競争之ヲ久ラシテ、愛士阿女ノ父
 亞武別加爾（亞武別加爾）衆望ヲ收メテ之ニ嗣ク、之ヲ初代ノ回々教主、即チ神使ノ法
 嗣トナス、
 耶蘇教ノ流行ト回々教ノ宣布トハ、其狀勢實ニ雲壤ノ差アリ、彼レ耶蘇
 教ハ、其力以テ羅馬ノ偶像古教ヲ壓滅スルニ足ラス、故ニ其楚蔓ヲ謀ル
 ヤ、反テ之ト混同和合シ、偶像教ノ舊態ニ耶蘇教ノ新精采ヲ入レ、以テ其
 頭ヲ換ヘ、面ヲ改メシニ過ギズ、コレ前章ニ於テ、已ニ既ニ細論詳説スル
 所ナリ、而シテ回々教ノ如キハ、之ニ異ナリ、全ク古像教ヲ亞刺伯ニ撲滅シ、
 復之ヲシテ餘燼ナカラシム、故ニ馬氏及其繼統教師ノ説教ニハ、唯獨一
 眞神ヲ説クヲ以テ其要訣トシ、又敢テ像教ノ餘染ヲ帶ヒザルナリ、彼ノ
 黑隕石（天ヨリ墜タル石ニシ）及ヒ其周圍ノ偶像ノ如キモ、今復其痕跡ヲ

ルヲ見ザルナリ、然レモ吾人俗眼ヲ以テ之ヲ觀察スルニ、彼ノ哥蘭ヲシテ能ク世ニ流布セシメタルモノハ、其所論ノ主義コアラヌシテ、戰捷ノ力ナリ、若シ兵威以テ之ニ迫ルキハ、其主説ノ如何ニ拘ハラズ、忽地ニシテ夥多ノ敗民ヲ改宗セシムルヲ得ヘシ、

回々教ノ所論ノ如キハ、世人ノ熟知スル所ナレハ、更ニ此ニ贅言スルヲ要セス、只左ノ數言ヲ以テ充分ナリト信ス、曰ク、其説ノ天堂ニハ七階アリ、黒眸ノ臣妾之ニ充滿セリ、上帝ノ形狀ハ、之ヲ混同耶蘇教ノ所説ニ比スレハ、稍、嚴然トシテ侵スヘカラサルノ風姿アリ、然レモ是レモ亦一種ノ巨人幽靈ニシテ、恰カモ亞爾伯山ニ於テ、大陽ニ背テ行ク者ノ、雲間ニ瞥見スル巨人ノ如シト、願フニ神ヲ人ニ類似セシムルノ思想ハ、曖昧無智者ノ心ニ於テハ、到底避クヘカラザルモノニ似タリ、讀者若シ其詳説ヲ知ラント欲セハ、須ラク拙著「歐洲人智開達史」第十一章「哥蘭ヲ讀ム」ノ

評、大活
眼洞觀
達視

一篇ニ就テ之ヲ見ルヘシ、

亞武別加爾將ニ遠征ヲ試ミントスルニ當テ、公衆ヲ集メテ祈テ曰ク、最モ慈悲深キ上帝ノ名ニ於テ、予、亞武別加爾、眞實信徒ノ爲メニ幸福健全ヲ祈ル、上帝ノ慈愛ハ、卿等ノ上ニアリ、予ハ之ヲ至尊无上ノ上帝ニ祈リ、又神使馬師ニ對シテ之ヲ祈ル、予カ志ハ、眞實信者ヲ西里亞ニ派遣シ、以テ之ヲ不信者ナキノ地タラシムルニアリ、予ハ切リニ卿等ニ望ム、卿等ハ宗教ノ爲メニ戰爭スルハ、即チ上帝ニ報スルノ營ミナルヲ知ランコトヲト、

今ヤ軍人將ニ出發セントスルニ臨テ、教主、軍人ニ諭シテ曰ク、卿等軍人、正直慈善ヲ忘ル、コト勿レ、己レノ職務ニ忠實ナラサルコト勿レ、酒ヲ飲ムコト度ナシ、亂暴ナル言語ヲナスコト勿レ、祈禱ノ時限ヲ誤ルコト勿レ、而シテ勉メテ到ル所ノ人民ヲ厚遇セヨ、但其僧侶ハ之ヲ罰シテ寛假

スルコト勿レト、其指令長官ノ名ハ、阿暴^{アバウ}、痾倍陀^{カウバイダ}ノ身ニ存スト雖^レ、其實ハ次長^{カカ}加烈度^{カレツダ}之ヲ指揮セリ、
 第一ノ戦争^{カレツダ}已ニ酬^コシテ、殿シク城壁ニ肉薄セシキ、撒拉仙^{サハラセン}將^カ加烈度^{カレツダ}手ヲ揚ゲテ叫テ曰ク、嗚呼、上帝、此等ノ惡漢ハ、皆陛下ノ外^{サハラセン}ニ種々ノ偶像ヲ拜スルモノナリ、然レヒ吾人ハ唯獨^レ陛下アルコトヲ確信シ、陛下ノ外ニハ何等ノ鬼神ヲモ拜セサルナリ、且ツ吾人ハ陛下ノ爲メニ、神使^{カホシ}馬師^{マシ}ニ代テ、此等ノ偶像信者ヲ討勦スルモノナリ、陛下願クハ祐ヲ吾人ニ垂レヨト、又曰ク、誰カ此ノ清淨全能常住ノ上帝ニモ子アリト云フヤ、予ハ此クノ如キ偶像家ノ頭顱ヲ皮剝キセント欲スト、彼ノ耶路撒冷^{セラムサレム}府ヲ陷レタル回々教主^{カホシ}漢馬兒^{カンマエ}カ、羅馬ノ希羅危拉士^{セラムサレム}帝ニ贈ルノ書ニ云ク、至尊慈仁ナル上帝ノ名ニ於テ、十方世界ノ主宰ニシテ、而モ妻子ナキノ上帝ニ祈ル、云云ト、又撒拉仙^{サハラセン}人ハ、耶蘇教徒ヲ綽號シテ、アッソシエートルス^{アッソシエートルス}即

チ結合者ト稱セリ、是レ其聖父、聖子、聖靈、及ヒ聖母馬利亞ヲ、結合禮拜スルヲ以テナリ、
 若爾^{シユル}但河ノ東方ニ一盛市アリ、波士拉^{ホズラ}ト名ツク、コレ馬氏^{マシ}カ前キニ教育ヲ納士德^{ナシトク}派僧ニ受ケシノ地ナリ、今撒拉仙^{サハラセン}軍ハ陣ヲ該府ノ前面ニ布ケリ、抑、コノ波士拉^{ホズラ}府ト云フハ、羅馬國堅壁中ノ一ニシテ、結構頗ル堅シ、加フルニ旌旗風ニ翻リ、十字架ノ白旄^{ハタシ}天ヲ庇ヒ、整然トシテ侵スヘカラサルノ狀勢アリ、偶、其鎮將羅馬耶士^{ロマヤエシ}款^{クワン}ヲ敵ニ通シ、城門ヲ開ヒテ之ヲ請ヒ入ル、以テ西里亞^{シリヤ}國運ノ衰微ト、人心ノ零落トヲ推知スヘシ、事定マルノ後、羅馬耶士^{ロマヤエシ}其棄テタル所ノ人民ニ演說シテ曰ク、予ハ當ニ永ク交リテ汝等ニ絶ツヘシ、予ハ磔殺セラレタル人^{ヨハナ}（耶蘇）ヲ忌ミ、又之ヲ拜スルモノヲ忌ム、予ハ上帝ヲ撰ンテ我主トナシ、回々教ヲ撰ンテ我教ト定メ、回々教徒ヲ把テ、我兄弟姉妹ニ充テ、而シテ世人ノ罵々喋々、上帝ニモ家族アリト

説クニモ拘ハテス、真正ノ宗教ヲ立テ、眞實ノ門路ヲ開キシ、彼ノ馬氏ヲ推シテ我師ニ仰ケリト、波斯入寇ノ後ハ、小亞細亞西里亞巴勒斯坦等ニハ往々反ヲ謀ルモノアリテ、歡シテ撒拉仙人ニ連衡センコトヲ望メリ、是レニ由テ之ヲ觀レハ、波斯ノ勝利ニ因テ、耶蘇教徒ノ不信ニ陷リシ者、果シテ其幾十萬ナルヲ知ルヘカラス、故ニ羅馬耶士ノ如キハ、僅カニ其數十萬人中ノ一人ノミ、

波士拉府ノ北七十英里ニ大馬士革アリ、是レ西里亞ノ都城ナリ、撒拉仙軍ハ長驅シテ、終ニ此府ヲ圍ミ、且ツ之ヲ劫カシテ曰ク、汝等宜シク耶蘇教ヲ去テ、回々教ニ就クヘシ、然ラズンハ償金ヲ以テ其罪ヲ謝スヘシ、若シ二者其一ヲ肯セズンハ、我將ニ刀劍ヲ振テ汝等ヲ屠ラントスト、此時希羅危拉士帝、安底屋大馬士革ヲ距ルノ王城ニ在リ、此報ヲ聞キ、乃チ兵七萬ヲ遣テ之ヲ援ハシム、其圍一タヒ解ク、既ニシテ愛士那丁ノ曠原ニ戰ヒ

羅馬軍大ニ潰エリ、此ニ於テ、加烈度再タヒ黑鷲ノ白旄ヲ立テ、大馬士

革府ヲ圍ム、圍ムコト七十日ニシテ、遂ニ之ヲ拔ケリ、

亞刺伯史家カ此役ヲ記スルモノヲ見ルニ、撒拉仙軍人ハ、概テ裸カニテ戰ヒ、其狂暴殆ント狂人ニ類ス、一騎ニシテ馬ヲ陣頭ニ跳ラセ、遙カニ決戰ヲ敵陣ニ挑ムカ如キハ、當時敢テ奇トセサル所ナシ、加之、婦女子モ亦往々其隊伍ニ加リタレハ、其奇狀實ニ繪畫ヲ見カ如シ、

撒拉仙軍ハ里巴那士ノ雪嶺ヲ右ニシ、阿崙的士西里亞ノ河名ノ明河ヲ左ニ

シテ進ミ、北西里亞谷ノ都府巴別格ヲ拔キ、東方郊原ノ大市以米沙ヲ陷レヌ、希羅危拉士帝、自ラ大兵十四萬人ヲ將ヒテ、之ヲ以爾目ニ迎ヘ撃テ、直チニ其右翼ヲ衝ク、撒拉仙軍ノ旌旗大ニ亂ル、婦女子奮テ軍士ヲ鼓舞シ、勇氣復ク振フ、乃チ陣ヲ固フ、又羅馬軍ト戰ヒ、遂ニ大ニ之ヲ敗ル、羅馬軍人ノ之カ擒トナルモノ四萬人、死傷セシモノ其數ヲ知ラス、是ヨリ

後制勝者撒拉ノ向フ所、全國一人ノ敢テ之ヲ遮キルモノナシ、撒拉仙行軍ハ其進路若爾、但河ノ東岸ナルヲ以テ、其未ダ小亞細亞ニ達セサルノ前ニ、先ツ巴勒斯旦ノ諸大市ヲ降サ、バルチ得サルハ、固ヨリ論ヲ俟タサルナリ、然レモ其諸大市ノ中ニ於テ、愷撒里亞攻ト耶路撒冷攻トハ、孰レカ之ヲ先スヘキヤハ、諸將衆議ノ相合ハサル所ナリキ、故コ之ヲ狀シテ、回々教主ノ裁決ニ任セリ、教主ハ乃チ兵事ノ急務愷撒里亞ヲ措ヒテ、宗敎上ノ利益耶路撒冷ヲ取レリ、因テ直ニ之ヲ圍ム、市人波斯軍ノ暴逆ト、其救世主墳墓上ノ耻辱トヲ記憶スルヤ、死力ヲ奮テ之ヲ防禦ス、籠城四月ニシテ、法敎師長索富路尼亞士降ヲ城塙ニ表シ、市城ヲ教主面前ニ開與センコトヲ乞ヘリ、蓋シ前ニ大馬士革府ノ之ニ降ルヤ、撒拉仙將ノ中ニ之ヲ誤解スル者アリテ、大ニ無辜ノ市民ヲ屠レリ、今故ラニ教主ノ臨檢ヲ要スルモノハ、此等ノ暴行ナカラシメンカ爲メナリ、教主換馬兒乃

チ蜀黍、棗糧、器皿、水囊等ヲ赤駱駝ニ荷シテ、麥地那ヨリ來會ス、是ニ於テ、亞刺伯ノ回々教徒ハ、耶蘇敎ノ法敎師長ヲ隨ヘテ、聖府ノ門ニ入り、輒スク耶蘇敎ノ聖都ヲ領セリ、教主命シテ索羅門堂畔ニ回々寺ヲ建テシメ、遂ニ又麥地那ノ神使廟ニ皈レリ、
希羅危拉士帝以爲ラシ、此クノ如ク耶蘇敎ノ日々痿頓スルハ、職トシテ各派爭論ノ劇シキニ依ルナリト、故ニ外ニハ軍人ヲ以テ敵兵ヲ防禦シ、内ニハ諸敎派ヲ説諭シテ、爭論ヲ和睦セシメント欲セシモ、計畫已ニ運シ、又之ヲ奈ノヒスルヲ得ス、亞烈法已ニ陷サリ、安底屋亦彼レニ皈ス、撒拉仙人ノ小亞細亞ヲ蹂躪スルコト、恰カモ無人ノ境ヲ行クカ如シト雖モ、又之ヲ救フノ術ヲ得ス、希羅危拉士帝モ、纒カニ一身ヲ脱レテ蓬底ニ隠レ、辛フシテ其命ヲ全フスルコトヲ得ルニ至レリ、嗟乎、之ヨリ先七百年ノ古ニ於テ、彼ノ愷撒ノ良敵タリシ、大豪傑奔彪カ、降シテ以テ羅馬ノ附

評、使人
酸鼻者
何、宗教
之、藥、可
鑿、

庸國トナセシ西里亞モ、耶蘇教ノ根本地ニシテ、清淨無價ノ遺法物アル
ノ地ナリ、而シテ又希羅危拉士帝カ嘗テ波斯軍ヲ走ラセシノ地ナリ、今ヤ
全ク敵ノ手中ニ落ク、希羅危拉士帝ノ船、將ニ西里亞ノ岸ヲ離レテ、
君子坦丁府ニ逃レントスルキ、帝悄然トシテ、斜メナル丘岡ヲ眺メ、一聲
苦叫シテ曰ク、別後ノ平安ヲ祈ル、西里亞國ヨ、永世汝ノ安全ナルヲ祈ル
ト、
特利波里、推羅ノ侵入ハ如何、愷撒里亞ノ落城ハ如何、羅馬ノ海軍ヲ注禮
ト、
士奔多ニ退カシメシハ如何、撒拉仙人カ、里巴那士山ノ木材ヲ以テ、兵艦ヲ
製造シ、福尼士亞ノ水夫ヲ使役セシ形況ハ如何、西波拉士、洛德、西克禮士
ノ蹂躪ハ如何、世界七奇ノ一ナル巨人像ヲ、希伯來人ニ賣却セシ事、又希
伯來人カ七百頭ノ駱駝ヲ以テ、其真鍮ヲ運ヒシ景況ハ如何、教主ノ一隊
黒海ニ進ミ、遂ニ君子坦丁府ノ前面ニ出現セシ模様ハ如何等ハ、皆耶路

撒落城後ノ瑣事ナレハ、之ヲ詳記スルコトハ無用ナリト信ス、
嗟乎、耶路撒冷ノ落城ハ、即チ耶蘇教本山地ノ零落ナリ、當時ノ人以爲ラ
ク、軋轢シクル兩教ハ、各、其理ヲ主張シテ、之ヲ上帝ニ訟ヘ、以テ其天裁ヲ
仰ケリ、而シテ上帝ハ、回々教ヲ以テ其直者ト判シ、且ツ之カ褒賞トシテ、之
ニ耶路撒冷ヲ賜ヘリト、后、一時十字軍ノ之ヲ回復セシ事ナキニアラス
ト、雖モ、上、中古ヨリ、下、今日ニ至ルマテ、一千年ノ久シキ、概チ回々教徒ノ
手中ニ殘レリ、若シ費山丁ノ歴史家ヲ難スルニ、東方寺院(希臘)ノ零落ニ
就テハ、毫モ之ヲ記セシコトナキヲ以テセハ、彼將ニ答フルニ言ナカラ
ントス、中古(十字軍時代)西方寺院(羅馬)ノ痿靡振ハサルノ時ニ於テスラ、
若シ人ノ耶蘇教ハ、聖、彼得カ、僅カニ一遊ヲ試ミシノ風説ニ據テ、其都
城ヲ設置セリト云ハ、彼レ歴史家ハ必ラス怒髮帽ヲ衝テ、大ニ之ニ抵
抗セシナラン、然リ而シテ、耶蘇ノ生誕地、住居地、及臨終地等ノ諸名市ハ、之

評、痛論
耶蘇教
徒之醜
態、不遺
餘力

ヲ舉テ悉トク不信者ノ手ニ置テ、恬トシテ之ヲ顧ミサルモノハ、コレ果
シテ何ノ心ツヤ、然レモ、コレ唯費山丁ノ歴史家ノミ、獨リ此不面目事ヲ
庇隱スルニアラス、歐洲ノ耶蘇教記者ハ、其著述ノ歴史ト、宗教ト、理學ト
ヲ問ハス、皆毫モ其敵方ノ勝利ヲ記セサルナリ、其平常ノ所爲ヲ見ルニ、
隱ス能ハサルノ不善事ハ小事トシテ之ヲ記セス、又小事トシテ打消ス
能ハサルノ不面目事ハ、カメテ之ヲ庇隱スルナリ、

予ハ前ニ耶路撒冷落城ノ事ヲ記セシカ如ク、他ノ撒拉仙勝利(若シ地理
上ヨリ之ヲ云フキハ、歷山大王若クハ羅馬ノ領地ヨリモ廣キ土地ヲ回
回教國ノ版圖トセシ勝利)ヲ詳説スルノ餘地ヲ有セス、否、之ヲ詳記スル
ハ、本篇ノ大主眼ニアラサルナリ、然リト雖モ、尙茲ニ一言スヘキコトア
リ、何ソヤ、曰ク、マシヤニスム適實教(波斯ノ)ハ、其激動ヲ感スルコト、耶蘇教ヨリモ尙甚
シキモノアリ、カデシヤ加底西亞ノ役ハ、波斯ノ國運ヲ定メシ者ナリ、クテシヤ古的西豐ノ

強奪ハ、寶物王宮等ヲ撒拉仙軍ノ所有トナセシモノナリ、故ニ納哈辨度
役ノ勝利ヲ以テ、勝中ノ勝利中ノ利ト目セシモ、敢テ其理ヲキニアラサ
ルナリ、撒拉仙軍ノ一隊ハ、裏海ニ進ミ、他隊ハ南ノ方底格里河ニ傍ヒ、
爾西波里ニ進軍セリ、波斯帝ハ、嘗テ歷山大王カ、驕奢花麗ナル夜宴ヲ開
キシ跡ノ、今尙圓柱ト偶像アルヲ見ルノ舊都ヲ去リ、大沙漠ヲ横キリ、以
テ其身ヲ全フセント欲セシモ、敵ノ屋沙士河ヲ涉リテ之ヲ追撃スルニ
遇ヒ、遂ニ土耳其人ノ爲メニ殺サル、其太子支那ニ走ル、支那帝之ヲ舉テ、
其禁衛ノ將校ニ任セリ、撒拉仙軍ハ、益進ンテ屋沙士以西ノ諸州ヲ降シ、
其償金二百万金ヲ得タリ、支那帝北京ニ在リテ此ノ報ヲ聞クヤ、必甚々
安セス、乃チ使ヲ麥地那ニ遣ハシ、和ヲ教主ニ請ハシム、然レモ神使ノ旌
旗ハ、己ニ既ニ印度河ノ岸上ニ翻レリ、
西里亞ノ役ニ於テ、最モ其名ヲ轟カセシモノハ、撒拉仙ノ大將亞摩期是

レナリ、後、回々教主カ東北ノ征服ニ満足セス、西ノ方阿弗利加ヲ零セン
 一チ欲スルヤ、アラビヤ朝氏進テ埃及ヲ伐ツ、此ニ於テモ、亦改宗謀叛ノ人アリテ、
 大ニ撒拉仙軍ノ成功ヲ助ケリ、蓋シ埃及人皆以爲ラク、撒拉仙軍ハ雅各
 教派ヲ掃攘スルノ恩人タラン、是レ俱ニ以テ計ルニ足ルヘシト、乃チ欸チ
 回々教主ニ通シ、道路ヲ掃ヒ、橋梁ヲ修メ、軍食壺漿、以テ入寇ノ兵ヲ迎ヘ
 リ、抑埃及ノ耶蘇教徒ト云ハ、概シテ摩那費震多教派阿座那西亞士教派
 ノ語ニテ之ヲ云ヘハ、聖子ノ性質ヲ混雜シタル宗派ノ人ニシテ、其派ノ
 首領ヲ摩高加士ト稱ス、其唱フル所ノ黨說ニ曰ク、吾人ハ現世及ヒ來世
 ニ於テモ、決シテ希臘人ニ交ハラサルヘシ、又善人ハ決シテ費山丁朝ノ
 暴君ト、其招集スル所ノ查兒西唐ノ公會トニ服セサルヘシト、コレ其撒
 拉仙軍ニ和合スルノ容易ナリシ所以ナリ、
 上古法朝古代ノ埃都城ノ一ナル、面費士已ニ既ニ陷レラレ、亞勒山德黎

亞府亦攻撃ヲ蒙ル、然レモ、同府ハ其背面ニ大海ヲ帯ヒルヲ以テ、希
 拉士帝ハ數ニ援兵ヲ遣ルノ便ヲ得タリ、而シテ一方ニ於テハ、
 澳馬兒西里亞ノ老練兵ヲ以テ、交モ之ヲ攻メシム、夜襲ヲ以テ、
 リ、大將朗氏ノ如キモ、一度ハ敵ノ擒トナリシコトアリ、幸ヒニ一奴
 隸ノ機知ニ依テ、纒カニ其身ヲ脱スルヲ得、前後十五ヶ月ノ圍ニ
 由テ、全ク撒拉仙軍ノ手ニ落タリ、此間ニ兩軍ノ死傷者、通計二万三千人
 ナリト云フ、朝氏、澳教主ニ上ルノ書ニ、其富財ヲ計リシモノアリ、云ク、
 殿四千、浴屋四千、劇場四百、食用品ノ商店一万二千、及ヒ上貢民希伯四万
 ヲ有セリト、

噫、耶蘇教第二ノ大都府タル、亞勒山德黎亞府此府ハ耶路撒冷ニ次クノ
 聖地ニシテ、三位一體説、及ヒ馬利阿尼多教派ノ起リシ處、阿座那西亞士
 亞里亞士、及ヒ西里爾ノ生レシ地ナリ、亦耶路撒冷ノ覆轍ヲ蹈メリ、希帝

君子坦丁府ニ於テ此報ヲ聞クヤ、天ヲ仰テ痛哭シ、未タ一月ヲ經スシテ、
途ニ哀傷ニ殞落セリ、願フニ希帝ノ在世ハ、殆ント耶蘇教ノ痿頓ニ因テ、
其德ヲ汚セシモノニ似タリ、

夫レ亞勒山德黎亞府ノ君子坦丁府ニ於ケルヤ、獨リ信心ヲ堅固ナラシ
ムル爲メノ要地ナルノミニアラス、又百貨食糧ヲ供給セシムルノ地ニ
シテ、所謂費山丁朝ノ外府ナルモノナリ、故ニ大軍ヲ起シテ、之ヲ恢復セ
ント計リシコト、二回ニ及ヒタレモ、果スチ得ス、朝氏ハ亞勒山德黎亞府
ノ海ニ額ミ、敵兵ノ來攻スル極メテ容易ナルヲ見、此患ヲ絶ツニハ、唯猛
烈ナル一法(城砦ヲ毀ツ)アルノミトシテ曰ク、亞勒山德黎亞府若シ第三
回ノ攻撃ヲ受クルアラハ、予ハ本府ノ出入ヲ自由ナラシムルコト、猶ホ
青樓ノ如クナラシムヘシト、然ルニ朝氏ハ敵兵第三回ノ來攻ヲ待タス、
直ニ本府ノ城砦ヲ撤去シ、復タ攻守要害ノ地ヲラシメサリキ、

埃及己ニ撒拉仙ニ服スト雖モ、教主等ハ尙之ヲ足レリトセズ、阿土滿ハ
阿弗利加北面ノ海岸ヲ略セント欲スルヤ、其將亞伯達拉ニ精兵四万ヲ
與ヘテ、面費士ヨリ發シ、巴爾加沙漠ヲ經テ、特利波里ヲ圍マシム、然レモ、
軍中疫癘ヲ苦シムモノ多キヲ以テ、遂ニ埃及ニ軍ヲ旋ス、
爾後久シク干戈ノ聲ヲ聞カサリシカ、二十有餘年ヲ歷テ、阿克巴、尼羅河
ヨリ進ンテ大西洋ニ軍ヲ發シ、加那里諸島ノ前面ニ於テ、一鞭シテ其馬
ヲ海中ニ跳ラセテ曰ク、嗚呼廣大ナル上帝ヨ、若シ此海ニシテ、我行軍ヲ
妨ケズンハ、予ハ尙西方ノ異國ニ至リ、陛下ノ聖名獨一ナル事ヲ說教ス
ヘシ、若シ其人民之ニ從ハスシテ、自餘ノ諸神ヲ拜スルモノアラハ、予ハ
白刃ヲ閃カシ、其軀ヲ兩斷ニスヘシト、
然レモ右等ノ撒拉仙遠征ハ、當時地中海ヲ支配シ、悉トク其海濱諸市ヲ
領シタル、費山丁帝ニ對スルモ、唯其内地ノ騷亂ト云フヘシ、故ニ亞武

達馬歷(主)教ハ此等ノ海濱諸市ニ於テ最モ肝要ニシテ且ツ北亞弗利加ノ
大都府タル加爾錫士ヲ取ラント欲シ其將哈山ヲ遣ハシテ之ヲ零セシ
ム偶君子坦丁府ノ兵西々里及ヒ哥斯隊ニ合シテ城兵ヲ援クルニ會シ
一時其圍ヲ解クト雖モ未タ數月ヲ經サルニ後再タヒ之ヲ圍ミ遂ニ之
ヲ焚撃ニセリ

耶蘇教五大市中ノ三府即チ耶路撒冷亞勒山德黎亞府及ヒ加爾錫士ハ
已ニ敵軍ノ有ニ候セリ故ニ今ニシテ人其安危ヲ憂慮スルモノハ唯君
子坦丁府ノミ羅馬府ノミ君子坦丁府亦落城スルノ後ハ羅馬府ノミ唯
餘影ヲ留ムルヲ見ルナリ

夫レ加爾錫士ハ耶蘇教ノ沿邊ニ大關係アル者ニシテ加特立教風ヲ歐
洲ニ傳ヘシノ地ナリ神學ノ諸大家ヲ出セシノ地ナリ又聖澳額士丁ノ
誕生地ナリ

評、回教
極盛之
斷案

宇宙間ニ人史アリテヨリ以來宗教ヲ弘ムルノ廣且ツ速カナルモノハ
未タ回々教ヨリ熾ナルモノハアラス今其支配スル所ノ區域ヲ云ハハ
東ハ阿爾泰山ニ起リ西ハ大西洋ニ達シ中央亞細亞ヨリ阿弗利加ノ
西邊ニ至マテヲ領セリ
次ニ歐洲ヲ侵シテ安達兒西亞(即チ夜陰ノ領地)州ヲ零セシモノハ亞爾
瓦力度教主即チ是ナリ亞爾瓦力度教主ハ其將毋撒ヲ遣ハシ西班牙ヲ
征セシム此處ニモ亦二箇ノ助ケ多禮士ナル首牧師ノ改宗ト哥斯將根
入安ノ謀叛アルニ依テ撒拉仙軍大ニ便宜ヲ得タリ拜禮士(西班牙ノ一
安達爾西亞)ノ激戰漸ク酣ナル比兩氏ノ勸誘ニ依テ哥斯兵大半ハ撒拉
仙軍ニ降レリ是ヲ以テ西班牙王ハ身ヲ以テ逃レシモ敵ノ追撃ヲ受ケ
豪達克維爾河ニ溺死セリ
毋撒ノ副將ヲ多力ト云フ資質敏捷ニシテ且剛邁ナリ直チニ勇進シテ

多禮士ヲ零シ、更ニ此ヨリ北方ニ進軍シ、毋撒未ク到着セサル前ニ、己ニ
 西班牙ノ半島ヲ零了シ、哥斯ノ敗兵ヲシテ、遙カニ彼禮尼山ヲ越エテ、佛
 蘭西ニ逃レシメタリ、多力以爲ラシ、西班牙ノ役ハ唯我首途ノ血祭リノ
 ミ、我期スル所ハ獨一眞神ノ説ヲ宣揚シテ、以太利ニ侵入シ、君子坦丁府
 ヲ略シ、羅馬帝國ト耶蘇教トヲ滅ホシ、更ニ進ンテ亞細亞ヲ征服シ、而シテ其
 血劍ヲ杖テ、教主ニ大馬士革ニ謁シ、其血劍ヲ教主ノ階下ニ捧クルコト
 リト、然レトモ、不幸ニシテ上將毋撒ノ嫉妬ヲ受ケ、大ニ其逆遇スル所ト
 ナリテ、終ニ其志ヲ達セザリキ、其朋友ノ教主朝ニアルモノ、之ヲ聞テ大
 ニ憤リ、之ヲ復讐センコトヲ謀リ、教主ニ哀訴シテ、毋撒ヲ陣營中ニ捕ヘ、
 遙カニ之ヲ教主朝中ニ護送セシメ、公衆ノ面前ニ於テ之ヲ鞭笞シ、遂ニ
 毋撒ヲシテ愧死セシム、
 是ニ於テ、更ニ別將ヲ撰ンテ佛蘭西ヲ侵サシム、第一戰ニ於テ、駕命尼河

口ヨリ、羅以爾河口マテノ地ヲ零セリ、此處ニ於テ、撒拉仙大將阿武得拉
 滿、其軍ヲ分ツテ東西二隊トナシ、東隊ハ命河ヲ涉リテ、亞爾禮士府ヲ圍
 ム、耶蘇教徒力ヲ極メテ之ヲ援ケタリト雖、徒ラニ軍資ヲ費スノミニ
 テ、遂ニ其功ヲ奏セス、全ク敵軍ノ所有ニ皈セリ、西隊ノ行軍モ亦勇進長
 驅シテ、達爾唐(佛國)河ヲ横キリ、大ニ他ノ耶蘇教軍ヲ敗レリ、其軍人等ノ
 言ニ曰ク、吾人カ敵ヲ殺シタル數ハ、唯上帝ノミ當ニ能ク之ヲ算スヘシ
 ト、悉トシ中央佛蘭西ヲ蹂躪シ、以テ羅以爾河岸ニ達シ、其巨寺名刹ノ寶
 物ヲ奪ヒ去レリ、嗚呼其必用ヲ感スルコトナキハ、種々ノ不思議ヲ現
 シタル聖徒ノ像モ、誠ニ其必用ヲ感スルコト甚シキハ、毫モ其不思
 議ヲ行フヲ得サルナリ、
 能ク撒拉仙軍ノ侵入ノ要衝ヲ防禦セシハ、佛將查理馬兒底即チ是レナ
 リ、耶蘇紀元七百三十二年、大ニ藤兒ト波以克底兒ノ間ニ戰フコト七晝

夜撒拉仙將阿武得拉滿遂ニ乱軍ニ戰死ス、此ニ於テ撒拉仙勢ハ復住マ
 リ戰ツヲ得スシテ、退クコト若干里、佛軍益々迫マル、終ニ彼禮尼山ヲ越ヘ
 テ、本國ニ皈レリ、
 是ノ故ニ、羅以爾河ハ、西歐洲ニ回々教軍侵入ノ境界ナリ、及本曰、撒拉仙
 兵ノ勝ニ乘シテ、日巴拉大岩ヨリ羅以爾河ニ至ルヤ、其里程正ニ千里ニ
 超ヘタリ、若シ彼ノ兵ヲシテ、更ニ長驅スルコト千里ナラシメハ、波蘭土
 ノ境界ニ達シ、若クハ蘇格蘭土ノ山ニ至リシナルヘシト、
 回々教軍カ地中海ニ於テノ勳功ノ事、哥力太及ヒ西々里ヲ零セシ事、及
 ヒ其羅馬ニ攻入りシ事等ヲ詳説スルハ、予ニ於テ無用ノ業ナリト雖モ、其
 西々里ト以太利南部ニ侵入セシ事ハ、大ニ歐洲人智ノ發達ニ影響セシ
 モノナリ、
 世界何物ノ耻辱カ能ク羅馬侵掠ノ侮辱ニ勝ルモノソ、耶蘇紀元八百四

十六年、烏合ノ撒拉仙隊アリ、推伯河以太利有名ノ河ニシテ、其源ヲアペ
 十五英里ノ處ニ於テ沿テ羅馬ノ城壁下ニ出デタリ、然レモ、其隊寡少ニ
 シテ、能ク其城内ニ攻入ルノガナキヲ以テ、近村ヲ騷カシ、民家ヲ掠メ、彼
 得、法羅等ノ墳墓ヲ汚辱シ、彼得寺ノ寶物タル、銀卓此銀卓ハ、實ニ羅馬寺
 院ノ以テ羅馬寺院タル所ノ表號ナリヲ奪ヒ去リテ、遂ニ之ヲ阿弗利加
 ニ送レリ、嗚呼、假令羅馬府ヲ擧テ、之ヲ敵ノ手中ニ皈セシメタリト假定
 スルモ、人心上ノ影響ハ、之ニ過クルコトナカルヘシ、
 君子坦丁府ハ、既ニ數回ノ攻撃ヲ受ケ、其落城ノ運ハ己ニ極マリシト雖
 モ、唯暫ラク其餘影ヲ留ムルノミ、羅馬ハ醜ヲ万国ニ流スノミナラス、尙
 容易ニ償フヘカラサルノ大損害ヲ來セリ、小亞細亞ノ寺院ハ、皆悉トク
 毀破セラレ、他ノ許可ヲ得ニアラサレハ、耶蘇教徒中一人ト雖モ、耶路撒
 冷ノ墳墓ニ詣スルヲ得ス、索羅門堂ノ側ラニハ、聳然タル漢馬兒ノ回々

教寺アリ、亞勒山德黎亞府ノ城趾ニハ、巍然タルモスノカフメシ愍憐回々教寺撒拉仙將
 ガ殺戮ヲ縱マ、ニシテ后、聊カ愍憐ノ情ヲ起シテ、殘者ノ命ヲ宥セシ記
 念ノ爲メ、其地ニ立テタル寺アリ、加爾錫士ハ、壘々タル燒土ノ外、一物ノ
 眼界ニ遮キルモノナシ、今ヤ、忽然ト古來未曾有ノ一大教帝國ヲ顯出セ
 〇、其版圖ヲ云ハ、東ハ支那ノ萬里城ヨリ、西ハ渺茫タル大西洋ニ至リ、
 北ハ裏海ヨリ、南ハ印度洋ニ迄ルマデヲ領セリ、然リト雖、唯之ノミヲ
 以テ、其最盛ノ時トハ云フヘカラサルナリ、愷撒帝ノ繼嗣ヲ其都城ヨリ追
 ヒ、希臘半島ヲ侵掠シ、且ツ歐洲大陸ノ中心ナル耶蘇教帝國ト其強弱ヲ
 試ミ、鬱攸燒シカ如キノ沙漠ヲ横ギリ、有害恐ルヘキノ森林ヲ跋涉シ、地
 中海ヲ航シ、赤道ヲ經テ南方ニ赴ムキ、大ニ其教法ヲ弘通セントスルノ
 日、將ニ近キニアラントスルナリ、
 回々教ハ、未ダ其頂點ニ達セズト雖、モスノカフメシ教王ノ威權ハ、已ニ業ニ其最上点

丹津曰
 眞神無
 顔色

ニ達シタルナリ、然レハ歐洲ヲシテ幸福安全ナラシメタルモノハ、查理
 馬兒底三尺ノ劍ニアラズシテ、亞刺伯大帝國ノ内乱ナリ、安米以達朝ノ
 教主ハ、深ク人望ヲ西里亞人ニ得タリト雖、其他ノ人民ハ、大ニ之ヲ嫌
 厭ノ曰ク、彼レハ奪位弒逆ノ人ノミ、唯神使ノ親族ノミハ、誠ニ正統ノ教
 主ナルヘシト、黨説相合ハズ、遂ニ分裂シテ三党トナル、而シテ其党ヲ分別
 スルニ三色ヲ以テセリ、安米以達党ハ白色ナリ、福底買太黨ハ青色ナリ、
 而シテ阿巴塞達黨ハ黒色ナリ、此中阿巴塞達黨ハ、馬哈默ノ叔アッバス亞巴士ノ黨
 徒ナリ、此葛藤ニ依テ、第十世紀ニ於テハ、遂ニ回々帝國ヲ三分シ、各其朝
 ヲバグダダ格達改羅哥爾多瓦ノ三府ニ開クニ至レリ、此ニ於テ、回々教、政務ノ
 一致主義ハ、全ク雲散瓦解セリ、故ニ曰ク、耶蘇教國ヲ幸福安寧ナラシム
 ルモノハ、彼レ眞神ノ干涉ニアラズシテ、却テ其敵中撒拉ノ分黨ナリト
 ト、コレマデ亞刺伯人ハ、世界人智ノ發達ニ就テハ、大ニ尽ス所アリシト

雖^レ此、今已ニ此内亂アリ、加フルニ、土耳其^{トルコ}其ト鞬^ト鞞^トトハ、漸ク其勢力ヲ得テ、
 激^シ之ニ來寇スルアリ、故ニ漸次亞刺伯學風モ亦衰滅ニ屬セリ、
 今ヤ撒拉仙國ハ、三黨瓜ノ如クニ分レテ、内事はレ急ナリ、復他ノ歐洲ヲ
 顧ミルニ遑アラザルナリ、屋^{オウ}冷^{レイ}ノ歴史ニ云ク、撒拉仙將ノ勇ヲ養フヤ、一
 毫モ之ヲ仮サズ、一步モ之ヲ讓ラス、若シ歐洲ノ惣兵ヲ連合シテ、之ヲ窘
 困セシムルコトアラバ、己レ之ヲ思フコト、恰カモ其額ニ烙印セラレ、
 ガ如シト、人若シ希臘人ハ、何ガ故ニ此等ノ入寇人ヲ追ハザルヤヲ問ハ
 イ、其性質ヲ熟知スル人ニ對シテハ、左ノ答ヲ以テ充分ナルヘシト信ズ、
 曰ク、亞^ア臺^{タイ}朝將軍亞勒山德黎亞府ニアリ、而^{シテ}擧^メ葉^{エフ}亦^オ太^{タイ}馬^マ士^シ革^{カク}ニアリト、
 今撒拉仙人ノ傲設不遜ナル一例ヲ示サンニ、嘗テ羅馬^{ローマ}尼^ニ西^シ法^フ朝^{チウ}士^シ帝^{テイ}ヨ
 リ、哈^ハ倫^{レン}亞^ア爾^{アル}、拉^ラ士^シ幾^キ度^トニ挑^{チウ}戰^{ゼン}書^{ショ}ヲ贈^クリシコトアリシニ、之ニ與^リフル答^{コタヘ}書^{ショ}
 ノ略ニ云ク、博愛ナル上帝ノ名ニ於テ、公明正大ナル大將軍哈倫亞爾、拉

士^シ幾^キ度^ト、書^{シテ}ヲ羅^{ロー}馬^マ犬^{ケン}戎^{ジュウ}尼^ニ西^シ法^フ朝^{チウ}士^シニ與^{ヘテ}曰^ク、予^ラ士^シ幾^キ度^ト、不^レ信^ス心^ナナル
 母^ハヨリ生^レタル汝^ニノ書^ヲヲ一^ニ見^{セリ}セリ、予^ガ答^{フル}所^ハ、汝^ニ聞^{カシム}ヘカ
 ラズ、唯^ニ之ヲ見^{セシム}ヘシト、他日^{フリ}ヨ^ノ野^ニ於^テテ、流血河^ヲ爲^シ、狂
 火空^ヲ燒^キシハ、即^チ其^答ナリキ、
 一國ハ、時アリテ其奪ハレタル郡州及^ヒ其富ヲ復シ、兵燹後再^タビ舊觀ニ
 復スヘシト雖^モ、一^ダビ軍事ニ奪ヒ去^{ラレ}タル婦人ノ三^ハ、永久之ヲ俟
 復スルヲ得ザルナリ、阿^ア暴^{ボウ}痾^{コウ}倍^{ペイ}陀^タノ安^ア底^{テイ}屋^ウヲ畧スルヤ、直^チニ書^ヲ作^リ
 テ、之ヲ澳^{オウ}馬^マ兒^ニ聞^ス、澳^{オウ}馬^マ兒^其兵^卒ヲシテ、婦人ヲ得^{セシメ}ザルコトヲ
 諭^{シテ}曰^ク、西^シ里^リ亞^アニ於^テテ、若シ兵卒ノ結婚センコトヲ欲スルモノアラ
 ハ、悉^クトク其妻ヲ娶^{ラシメ}ヨ、加^{ヘテ}之^ヲ、方^メテ多クノ妻ヲ娶^{ラシメ}ヨト、蓋^シ
 回々教法ヲシテ、永ク相續繁榮ナラシムルモノハ、彼ノ多妻法、其滅ホシ
 タル國ニ於テ、妻女ヲ娶ル、關テカアリト云フヘシ、此クノ如キ夫妻ヨリ

生ヲタル子女ハ、皆其父ノ制勝者撒拉ナルコトヲ誇稱セリ、此政策ノ有効ナル証ハ、北亞弗利加ニ於テ之ヲ見ルヘシ、願ニ、事物ノ新法ヲ確乎不易ナラシムルモノハ、恐クハ此多妻法ニ若クモノナカルヘシ、未ダ二代ヲ終ラザル内ニ、有司ヨリ教主ニ奏セシモノアリ、曰ク、當地ノ子女ハ、悉トクコレ回々教徒ニシテ、又能ク皆亞刺伯語ニ通ズ、故ニ宜シク貢稅ヲ徵スヘカラズト、

教祖ノ回々教ヲ開キシ時ニ方テヤ、是レモ亦、上帝ヲ人ニ比スルノ宗教ニシテ、上帝ハ唯一種ノ巨人タルニ過ギズ、而シテ天堂モ亦、情慾ヲ恣ニスルノ宮殿ニ過ギザリシモ、其後少シク識量アル人ハ、此妄説ヲ破毀シテ、漸々合理ノ説ニ改メ、遂ニ現時瓦底干公會ニ於テ、正議確論トスルノ説ニ符合スルニ至レリ、阿爾駕坐里ノ云ク、上帝ノ聖智ハ、人智人心ヲ以テ、之ヲ推測スヘカラズ、上帝ノ性質ハ、人性ヲ以テ、之ヲ較知スヘカラズ、而シ

神威、神爲ハ、人爲以テ之ヲ比スヘカラズ、人威以テ之ヲ計ルヘカラズト、

第四章 南方諸州實學ノ復起

納士德派及ヒ希伯來人等亞刺伯人ヲノ理學ヲ研究セシムル事
 ○亞刺伯人宿命說ヲ變シテ世界組織ノ眞說ヲ得ル事○亞刺伯
 人大地ノ大小方圓ヲ知ル事○回々教主大書館ヲ建築シテ百般
 ノ實學ヲ保護スル事附 觀象臺建築ノ事○亞刺伯人數理ヲ擴張
 シ幾何三角量方ヲ改良スル事附 代數法發明ノ事○亞刺伯人希
 臘古代ノ數學、天文學ノ著述ヲ輯メテ之ヲ翻譯スル事附 亞里斯
 度德ノ販納法ヲ採用スル事○亞刺伯人許多ノ學校ヲ建築スル
 事附 納士德派ノ助ケニ依リ公立學校規則創立ノ事○亞刺伯人
 「アラビック」數字及ヒ算法ヲ用ユル事附 星辰ノ目錄ヲ製シ且ツ一々
 之ニ名クル事○亞刺伯人現今ノ天文、化學、物理學等ノ基礎ヲ拓
 ムル事附 農工業上大ニ改良ヲ與フル事

馬哈默ノ養子、回々教主ア亞黎言ヘルコトアリ、曰ク、予多年ノ經驗ニ據テ考フルニ、人ハ其兩親ニ似ルヨリハ、多ク其時勢ニ似ルモノ、如シト、コノ實ニ千古ノ智言ト云フヘシ、其容貌形体ハ、之ヲ胎生ノ父母ニ取ルト雖、其氣習ノ如キニ至テハ、抑之ヲ其郷党朋友ニ取ルモノ多シ、
 回々教將ア亞黎朝、埃及ア擊テ之ヲ夷ケ、以テ撒拉仙帝國ニ附屬セシム、時ニ亞勒山德黎亞ニ一希臘文法家アリ、其名ヲア我ト稱ス、苦學倦マス、故コノ人之ヲ費羅法那士ト綽号ス、言ハ、勞苦ヲ好ミスルノ義ナリ、ア亞黎朝之ト語リ、情交日ニ密ナリ、ア我亞勒山德黎亞府ノ文庫ヲア亞黎朝ニ乞フ、ア亞黎朝書ヲ作リテ、之ヲ回々教主ア澳馬兒ニ狀ス、ア澳馬兒之ニ令シテ曰ク、文庫ニ藏スル所ノ書籍、若シア哥蘭ア回々教ア即チ神勅ニ符合セハ、彼何ソ之ヲ望ム、今其乞ニ由テ之ヲ觀レハ、蓋シ皆異端ノ書ナラン、是レ即チ有害物ナリ、宜シク之ヲ破毀スヘシト、是ニ於テ、其文庫ヲ開キ、藏書ヲ府内ノ混湯職

ニ分與シテ、尽ク之ヲ焚カシム、薪料六ヶ月ノ久シキヲ保テリト云フ、其事實或ハ疑フヘキモノアリト雖、ア澳馬兒ノ此令ヲ發シタルヤ、決シテ疑ヲ容レサルナリ、其頑愚實ニ慙笑スベシト雖、コレ其接スル所ノ社會、皆固陋愚昧ナルノ影響ナリ、ア亞黎ノ確言實ニ信レル哉、
 熟案スルニ、コノ費羅法那士、ア我カ、請求シタル載籍ハ、ア德禮密王及ヒ彼兒我馬士國ナル、ア幼迷寧士王ノ文庫中ノ全書ニハアラサルヘシ、其故ハ、ア費羅法那士、ア拉德福斯王、文庫ヲ創立セシ以來、殆ント一千年ノ星霜ヲ閱ス、此間ニ入ア零愷撒ノ兵燹、其過半ヲ焚キ、ア亞勒山德黎亞府ノ法教師長、其殘物ヲ放散シ、又人ヲシテ之ヲ放散セシム、ア阿魯西亞士嘆ソ曰ク、日阿費拉ア聖、西里爾ア叔ア第阿多西王ヨリ、文庫破却ノ勅ヲ受ケシ後、二十年ヲ經テ、同館ノ全ク空虚ナルヲ見タリト、ア蹴テ思フニ、其久シキ一千年ヲ經ハ、假令ヒ一ノ災害ナシトスルモ、其全キヲ得ルモノ、殆ント稀ナラン、又費羅法那士、ア我ハ

其綽号ニ背カス、自ラ勞力ヲ以テ樂ミトスルモ、一人ノ微力豈焉ソツ五
十万卷ノ書籍ヲ看護スルヲ得ンヤ、又德禮密王及ヒ禮撒等カ、嘗テ國庫
ヲ傾ケテ、僅カニ維持シ得タルノ書籍ナレハ、文法家我ノ如キ、一匹夫資
力ノ企テ及ツ所ナランヤ、且、又之ヲ火スルノ時間ニ於テハ、未タ其藏書
ノ多少ヲ徵スルニ足ラス、夫レ薪料ノ種類ハ一ナラス、羊皮紙ハ、其尤モ
惡質ナルモノニシテ、楮穀紙等ハ、其尤モ良質ナルモノナリ、故ニ混湯職
ハ、他ニ薪料ヲ有スル間ハ、決シテコノ羊皮紙製ノ書籍ヲ焚用スルノ理
ナケハナリ、

彼ノ十字軍カ、三百万部以上ヲ藏スル、特利波里ノ文庫ヲ焚キシ如ク、澳
馬兒モ亦有害無益物トシテ、亞勒山德黎亞府ノ文庫ヲ破却シタルヤ、明
ラカナリ、十字軍ハ特利波里文庫ノ第一室ハ、可蘭ノミヲ藏セシヲ見、他
室モ亦同種ノ書ノミナルヘシト臆斷シテ之ヲ火ケリ、願フニ、以上二件

ハ、共ニ眞偽相半スヘシト雖也、其之ヲ火ニスルノ實事ハ、決シテ之ヲ覆
マヘカラス、若シ試ミニ他ノ執拗家ノ之ニ類スルモノヲ數ヘハ、今昔其
例ニ乏シカラス、彼ノ西班牙人ハ、貴重ナル亞米利加土人ノ書文集ヲ
之ヲ火キ、大教師希買尼士ハ、駕拉那太ノ衢街ニ於テ、夥多ノ古文翻譯ヲ
包含シタル、亞刺伯著書八万冊ヲ火ニセリ、

彼ノ歴山大王カ波斯國ヲ征伏スルヤ、希臘人ノ智識大ニ發達シ、遂ニ德
禮密王ノ世ニ及ンテ、理學ニ著シキ進歩ヲ取リシハ、予巳ニ第一章ニ於
テ之ヲ論セリ、今撒拉仙軍ノ結果モ、亦殆ント其同一ナルヲ見ルナリ、
回將亞羣朗ガ彼ノ文法家我ニ親密ナルノ事ハ、以テ亞刺伯人ノ氣象開
活ナルヲ兆スヘシ、加巴ノ偶像教ヲ去テ、馬哈獸ノ獨一神教ニ轉セシコ
トハ、コレ後將ニ其文學、理學ノ郊原ニ出テントスルノ階梯ナリ、予熟其
事蹟ヲ考フルニ、常ニ二箇ノ勢力アリテ、其進路ヲ左右セシニ似タリ、一

ニハ西里亞ナル納士德教派ノ干涉ニニハ埃及ナル希伯來人ノ干涉是レナリ、予ハ前章ニ於テ、己ニ略論セシカ如ク、納士德及ヒ其徒弟ハ、艱苦ヲ嘗メ、生命ヲ擲テ、以テ其獨一神說ヲ主張シテ、他ノ「オリンパス」ノ諸神ヲ痛破セリ、其言ニ曰ク、予輩ハ誓テコノ天堂ヨリ女王ヲ放逐スヘシト、其主說已ニ此クノ如クナレハ、其撒拉仙人ト相和スル、極メテ易シ、故ニ撒拉仙人モ亦頗ル之ヲ厚待シ、之ヲ推シテ要路ニ居ラシム、馬哈默特其軍ニ嚴令シテ曰ク、必ス納士德教派ノ人ヲ傷フルコト勿レト、神使（馬哈默特）及ヒ澳馬兒ハ、納士德教派ノ法主、日修亞巴士ニ約シテ、我、馬真ヲ舉テ、其學校ヲ監督セシム、后々回々教主、哈倫、亞爾、拉士幾度、亦其先例ニ依レリ、

耶蘇教一クヒ異教ニ混ゼシヨリ、希伯來人ノ之ヲ信スルモノ大ニ減ス、

而シテ其三位一體說ヲ唱フルニ至テハ、又之ヲ信スルモノナシ、夫レ西里亞及ヒ埃及ノ諸市ハ、悉ク希伯來人ノ巢窟ナリ、故ニ回將亞摩朝、亞勒山德黎亞府ヲ略セシ時ハ、單ニ此一府ニシテ、上貢民（希伯來人）ヲ於テハ、他教ノ民（コ）ヲ有スルコト、四万ニ及ヘリ、然レハ、數百年來ノ壓制苛遇ハ、偶々以テ偶像教ヲ嫌惡スルノ念ヲ熾コシ、益、獨一神教ヲ固信セシムルノ具トナレリ、故ニ希伯來人ハ、深ク交テ納士德教派ニ結ヒ、與ニ希臘、羅甸ノ理學書類ヲ、西里亞語ニ譯述シ、更ニ之ヲ亞刺伯語ニ再譯セリ、而シテ今ヤ納士德派徒ハ、馬哈族ノ兒童ヲ教育シ、希伯來人ハ其患者ヲ療シ、共ニ之ト交際ノ路ヲ開ケリ、爾來納士德教派ト希伯來人トノ二カハ、常ニ撒拉仙帝國ノ進路ヲ指針セリ、

コノ二カノ牽制ニ依テ、撒拉仙ハ其妄說ヲ攪破シ、風俗ヲ開化シ、思想ヲ高尚ニシ、其前ニ羅馬帝國ヲ蹂躪セシカ如ク、縱マ、ニ理學ノ平原ヲ馳

驅シ、回々教ノ妄説ヲ看破シ、遂ニ學術眞理ノ鹿ヲ獲タリ、
 撒拉仙軍ノ刀光閃々、能ク神威ヲ偶像教國ニ赫々タラシメタルモノハ、
 可爾ノ宿命説與ッテカアット云フヘシ、其説ニ云ク、誰カ其定命ヲ伸縮ス
 ルヲ得ンヤ、死ハ高塔ニ座スルモ之ヲ避クヘカラズ、天地未タ開ケサル
 ノ前、上帝既ニ各人ノ命數ヲ定メタリト、又亞刺伯人、譬諭ヲ以テ之ヲ述
 テ云ク、誰カ能其命數ヲ免レンヤ、運命ハ深夜ニモ其馬ニ鞭ツナリ、
 或ハ其寢床ニ眠リシ時、若クハ彈丸矢石間ニ奔走スル時、無常ノ天使ハ
 必ラス汝ヲ促スヘシト、又彼ノ賢明ナルア亞黎ノ曰ク、余ハ深ク信ス、人事
 ハ皆神意ニ因リテ、人爲ノ之ヲ奈ンヒスヘカラサルナリト、然レハ回々教
 徒ハ、悉ク其身ヲ神意ニ委テタルモノナリ、又自由意志ト宿命トヲ折中
 セシ説ニ云ク、之ヲ繪事ニ喻ヘンニ、圖案ハ一定シテ復々動スヘカラス、
 唯其綵色ヲ取捨スルヲ得ヘキノミト、又曰ク、吾人造化ノ力ヲ制セント

欲セハ、之ニ抵抗スヘカラス、其力ヲシテ互ニ相制セシムヘシト、
 此説ハ、能ク失望ヲ變シテ耐忍トナシ、人ヲシテ却テ希望ヲ厭倦セシメ、
 遂ニ撒拉仙人ヲシテ彼ノ大事業ヲ就ラシメタルモノナリ、其諺ニ云ク、
 失望ハ是レ不羈ノ人ナリ、希望ハ是レ奴隸ナリト、
 然ト雖モ、前後數回ノ戰爭ニ於テ、藥餌ハ能ク疼痛ヲ治スルハ勿論、危篤
 ノ痼疾ト雖モ療法其宜キヲ得ルモ、之ヲ甦セシムルコトヲ得ルヲ發
 明セシヨリ、希伯來醫ハ忽チア經典ヲ打破スルノ鉄錘トナレリ、是ニ於テ、
 回々教ハ其宿命説ヲ縮小シテ曰ク、一人ノ身上盛衰ハ、或ハ自ラ招クノ
 結果ナル者アリ、故ニ其進退動靜、或ハ其意志ニ隨テ、之ヲ計ルモ妨ケナ
 シ、然レモ、一國人民ノ興廢ニ至リテハ、則チ固ヨリ一人ノ能ク爲ストコ
 ロニ非ス、故ニ之ヲ自然ノ命宿命ニ皈セサルヲ得スト、
 此等ノ關係ニ於テハ、耶蘇教ト回々教トノ差異、一目ニシテ之ヲ見ルヘ

シ、耶蘇教ハ云ク、人事ハ皆造物者ノ干涉ニシテ、之ヲ制スルニ一定ノ法則アルニ非ス。故ニ危厄災難アラハ、即チ上帝ニ祈テ之ヲ除滅スヘシ、若シ尙之ヲ除攘スル能ハスンハ、則チ之ヲ聖子基督ニ乞ヒ、或ハ之ヲ聖母馬利亞ニ乞ヒ、或ハ之ヲ其徒弟、遺物、遺骨等ニ乞フヘシ、然ルモ尙其靈驗ヲ見ル能ハスンハ、則チ之ヲ其寺僧ニ依托スヘシ、若シソレ之ニ錢財ヲ擲テ、以テ其施物ニ供スルキハ、愈、感應ノ炳焉ナルヲ見ルヘシト、彼ノ耶蘇教徒ハ、人事ノ前路ハ、唯上帝ノ意、能ク之ヲ變易スヘキモノトナスコト此クノ如シ、而ソ回々教ハ、之ヲ造化不變ノ法則ニ因ル者トス、故ニ其祈禱ノ如キモ、耶蘇教ハ之ヲ將來禍福ノ爲メニシ、回々教ハ之ヲ從來保護ノ爲メニス、其印度ノ靜念修道法ニ代フルニ、祈禱法ヲ以テセシハ、則チ同シ、耶蘇教徒ハ以爲ラク、世界ノ進歩ハ皆偶然ノ成事ナリト、回々教徒ハ以爲ラク、是レ前事ノ因ヨリ生スルノ果報ナリト、又以爲ラク、諸ノ

思想ハ、其之ニ先ダツノ思想ヨリ起ル、史上時勢ノ變遷ハ、能ク之ヲ起スノ先事ヨリ來ル、人間各自ノ動靜ハ、亦之ヲ導クノ前因ヨリ生ス、上、邈乎タル太古ヨリ、而下、今日ニ至ルマテ、記録ノ載スルトコロ、未ダ一ノ偶然ナルコトアルヲ見ス、前滅後生皆順序アリ、故コ人事ハ之ヲ運命ノ鉄鎖ト云フヘシ、前環後環ニ接シ、前因後果ヲ招ク、一事之ヲ除グヘカラス、一物之ヲ加フヘカラス、初メ吾人ノ生ル、ヤ、自ラ之ヲ承認セシニアラス、故ニ亦無諾ニシテ(恐ラクハ其意志ニ反シテ)死セサルヲ得ス、夫レ然リ、故ニ吾人ハ、宜シク手ヲ束テテ、其宿命ノ來ルヲ待ヘシト、回々教ハ、各人ノ行爲ニ就テ、其說ヲ改メシ如ク、世界創造說ニ於テモ、亦其說ヲ轉移スルヲ見ルナリ、若シ彼ノ經典ノ說ニ依ルキハ、地ノ形チハ方平ニシテ、其周圍ニハ高山アリ、此高山ニ就テ二箇ノ効アリ、一ニハ、大地ノ平均ヲ保テ、二ニハ、能ク其天蓋(即チ蒼天)ヲ支フ、コノ蒼空ノ上ニ七階

天アリ、其最上天ハ是レ上帝ノ居處ナリ、上帝ハ其形甚々巨人ニ類ス、其帝座ノ左右ヲ見レハ、恰カモ、上古（アッシリア）西里亞帝座ノ如ク、羽翼巨牛ノ之ヲ護スルアリ、嗚呼、此クノ如キ、透明愛スヘキノ大建築ヲ爲ニ當テ、一ノ瑕疵アルヲ見ス、造化ノ巧妙大智實ニ奇ナル哉（ト）、此クノ如キノ説ハ、回々教ノミ獨リ之ヲ主唱セシニアラス、上古人智未タ開ケサル時、默示宗教家ノ頻リニ主張セシ所ナリキ、然ルニ有識ノ回々教徒ハ、夙ニ其説ノ非ナルヲ覺ルヤ、能ク之ニ代フルニ、理學ノ正義ヲ以テセリ、然レモ、是モ亦耶蘇教ニ同ク、初メハ大ニ其神勅家（神勅ヲ主張スル頑固党）ノ攻撃ヲ受ケタリ、嘗テ（亞爾、麻滿）亞爾、麻滿教主カ、深ク大地ノ圓形ナルヲ信スルヤ、其天文家及ヒ數學家ニ命シテ、地球ノ一度間ヲ測ラシメタリ、當時有名ナル宗教博士、多幾（多幾）歴典之ヲ罵テ曰ク、嗚乎、何者ノ惡教主カ、彼ノ似而非理學ヲ信シ、以テ我聖徒ヲ迷ハシム、看ヨ、彼レ早晚必ラス上帝ノ嚴罰ヲ

蒙ルヘシト、然リト雖、（亞爾、麻滿）亞爾、麻滿教主ハ、確ク執テ志ヲ遷サス、紅海々濱ト、其同子午線ナル、（西奈爾平原）西奈爾平原トノ、其相距ルコト一度ナル處ニ、各測量旗ヲ立テ、之ヲ測量シ、其距離二十萬（哈西賓多）哈西賓多（キュービット）（（哈氏ノ尺度）ハ氏ノ尺度ニシテ、我一尺五寸）ニシテ、全地球ノ周圍ハ、二万四千英里ナリト推步セリ、此説タルヤ、未ダ其實ニ的中セスト雖トモ、亦之ヲ距ルコト甚ダ遠カラサルナリ、然ノ氏以爲ラク、唯一地方ノ測量、恐クハ其正鵠ヲ過ラント、乃チ更ニ之ヲ（米）米所波太迷亞ノ格（富）富近傍ニ測ル、此時ハ其天文家ヲ分テ二隊トナシ、一隊ハ南方ニ測リ、他隊ハ北方ニ測ル、其答ハ、各之ヲ目スルコニ（キュービット）キュービットヲ以テス、若シ此（キュービット）キュービットヲ、彼ノローヤル、キュービット（ナラシメ）ナラシメハ、其答ハ一度ノ實距離ヨリ近キヲ、殆ント三分ノ一英里ナリキ、コレヨリ後、回々教主（亞爾、麻滿）亞爾、麻滿（ハ、益、大地ノ團圓ナルコトヲ確信セリ、彼ノ撒拉仙人民カ、其宗教ノ妄想ヲ攪破シ、意ヲ知識ノ開達ニ移セシハ、

實ニ神速敏捷ナリト云フヘシ、初メ馬哈默カ、其教ヲ各地ニ弘ムルニ當
 テヤ、アラブ經典ハ是レ無上ノ神勅、世界無比ノ聖典ナリト云ヘリ故ニ亦頗ル理
 學進路ノ一妨礙タリシト雖也、其死後未ダ二十年ヲ越ヘサルニ、西里亞、
 波斯、小亞細亞、埃及等ノ各地ニ於テ、經驗スル所ノ結果極メテ大ナリ、當
 時ノ回々教主亞黎ハ、自ラ率先シテ諸學課ヲ獎勵シタリ、六百六十一年
 安米以達朝ノ太祖モウハヤ纂業位ニ即ク、之ヲ第六代ノ回々教主トナス、教主大
 ヒニ政畧ヲ改革シ、公撰即位法ヲ廢シテ、血統相續ノ制ヲ定ム、又マダ麥地
 那府ヲ去テ、都城ヲ中央ナル大馬士革ニ遷シ、大ニ華麗ノ路ヲ開キ、妄信
 徒ノ迷夢ヲ喚醒シ、自ラ任シテ文學ノ率先者トナレリ、故ニ其三十年間
 ニ、文物駸乎トシテ進歩セシハ、實ニ吾人ナシテ吃驚讚嘆セシムルモノ
 アリ、前キニ波斯ノ鎮臺將官カ、謁チ第二代教主オハマ漢馬兒ニ乞フヤ、衛士ハ
 教主ノ乞丐ニ伍シテ、寺階ニ眠ルヲ見タリ、而シテ今ヤ、外國使節ノ信ヲ第

六代教主モウハヤ纂業ニ傳フルモノハ、花園屋ヲ繞リ、泉水庭ニ漂ヒ、其美麗名狀
 スヘカラサルノ瑤臺ニ引見セラル、ニ遇ヘリ、
 馬哈默ノ死後、未ダ一百年ヲ出サルニ、有要ナル希臘ギリヤ理學書ハ、之ヲ亞刺
 伯語ニ譯シ、神學的ノ思想ニ依テ、回々教ヲ害スルノ恐レアルモノ、即チ
 「オヤスセ」及ビ「イリヤド」詩卷ノ如キハ、之ヲ唯西里亞語ニ譯シ、以テ學
 者好奇ノ情ヲ慰メリ、彼ノ都城ヲバグダッド巴格達ニ遷シ、之ヲ一大首府トナシタ
 ル、アラブ亞爾滿武爾ハ、其在位間、耶蘇紀元七百五十三年ヨリ、七百七十五年ニ
 至ル、力ヲ尽シテ天文學ヲ獎勵シ、且、醫學校及ヒ法律齋ヲ建設シ、其孫哈倫
 亞爾拉士ハルーン紀元七百八十六年ハ、祖父ノ業ヲ續キ、普ク其領内寺
 院ニ命シテ、每寺必ラ一校ヲ開設セシム、然リ而シテ、アラブ亞細亞文學ノ最モ
 隆盛ヲ極メタルノ時ハ、實ニアラブ亞爾滿武爾在位、耶蘇紀元八百十三年ヨリ、八
 百三十二年ニ至ルノ間ニアルナリ、氏ハ巴格達ヲ以テ學術ノ北辰トシ、

之ニ建設スルニ、數百ノ大文庫ヲ以テシ、又之ニ招集スルニ、數多ノ學者ヲ以テセリ、

后、撒拉仙帝國ハ内亂屢起リ、遂ニ三分シテ鼎足ノ狀ヲナセリ、一ニハ、アラビヤ亞細亞ノ阿巴塞達朝、二ニハ、埃及ノ福底買太朝、三ニハ、西班牙ノ安米以達朝是レナリ、コノ三朝間ノ競争ハ、獨リ政治上ノミニ止マラス、遂ニ延テ文學ト理學上ニ及ヘリ、此分裂ノ後モ、好學ノ風ハ、依然トシテ變スルコトナシ、

撒拉仙帝國ハ、人心ヲ樂マシメ、或ハ之ヲ高尚ニスルノ文學ニ富メリ、故ニ中古其國人、之ヲ誇テ曰ク、凡ソ萬國ノ詩人ヲ惣計スルモ、未タ我國詩人ノ數ニ超ユヘカラスト、顧フニ其學術進歩ノ著キキ所以ヲ求ムルキハ、職トシテ其歐洲、希臘學風ニ從ハスシテ、アラビヤ勒山府、希臘學風ヲ依用セシニ因ルナリ、アラビヤ布拉多理學ヲ撰用セスシテ、アラビヤ亞里斯度德飯納法理學ヲ利用

セシニ因ルナリ、撒拉仙人皆以爲ラシ、學術ハ机上ノ空論、之ヲ進達スヘカラス、唯宇宙ノ實驗ノミ、能ク之ヲ開導スヘシ、然ラハ其要法ハ如何、唯經驗ト觀察トノミト、幾何及ビ數學ノ如キハ、之ヲ其推理ノ要具トナセリ、故ニ其機械學、水理學、并ニ視學等ノ著書ヲ見ルニ、必ラス實地經驗ト、器械試驗トニ據テ、之ヲ説明セシヲ以テ、其立論卓絶ニシテ、實ニ吾人ヲ利スルモノ少ナカラサルナリ、コレ其化學ノ開祖タル所以ナリ、コレ其解剖術、蒸騰法、溶解法、濾滓法等ニ用ユル諸器械ノ創作者タル所以ナリ、又コレ其天文ニ象限儀ヲ用ヒ、化學ニ量衡ヲ用ヒ、アラビヤ巴格達、アラビヤ西班牙、アラビヤ沙噴良等ノ天文諸表、及ヒ各殊重力諸表ヲ製シ、幾何三角術ヲ改良シ、代數法ヲ發明シ、算術ニ印度數法ヲ撰用セシ所以ナリ、

又撒拉仙人ハ、其諸文庫ヲ開設セント欲スルニ方テ、書籍ヲ集聚スルニ勉メタリト云フヘシ、回々教主即撒拉仙國王亞爾麻滿ハ、駱駝數百頭ヲ以テ、書

籍ヲ巴格達ニ運輸セリ、又希臘國第三世密查兒王ニ乞テ、君子坦丁府ヨ
 リ一文庫ヲ移ス、偶々其藏書中ニ、德禮密王ノ(數理組織天体論)アルヲ發見
 ス、乃チ勅ノ之ヲ亞刺伯語ニ譯セシメ、之ニ題ン(アルマゼスト)ト稱ス、其
 書籍ヲ集ムルコト、斯クノ如クソレ勤ム、故ニ改羅府ナル福底買太文庫
 ニハ、淨寫ノ美本十萬卷ヲ藏セリ、就中、六千四百卷ハ、唯天文書ト醫術書
 トノミナリ、而シテ其館則タル、改羅ニ住スルノ書生ニハ、自由ニ之ヲ貸與
 スルノ法ナリ、庫中ニ銀製ノ地球儀、及ビ青銅製ノ地球儀アリ、銅儀ハ德
 禮密王ノ所造ニ係リ、銀儀ハ其價三千「ゴルデン」シラウン「ナリト云フ、又
 西班牙回々教主ノ大文庫アリ、書籍六十萬卷ヲ藏ス、唯其書目ノミスラ、
 尙且四十四卷ノ多キニ至レリ、此外安達兒西亞ニ、七十餘ノ公立文庫ア
 リ、而シテ其私立ニ係ル所ノ者モ亦少シトセス、聞ク嘗テ布克帝禮ヲ厚
 フシテ某博士ヲ聘ス、然レヒ某博士ハ、其私藏書ヲ載スルノ車ヲ牽カシ

ムルニ、駱駝四百頭ヲ要スルヲ以テ、遂ニ之ヲ謝絶セリト、
 此等ノ文庫ニハ、必ラス皆騰寫譯述ノ一室ヲ備ヘリ、然レヒ、民間ニモ亦
 文庫ヲ開設シ、騰寫譯述ヲ以テ業トスルモノアリ、納士德教派ノ醫師、本
 安ハ、騰寫翻譯社ヲ巴格達ニ開キ、(耶穌紀元八百五十年)亞里弗度德、布拉
 多、非波格烈、駕連諸子ノ著書ヲ譯述セリ、又原著ノ如キハ、學校主任者ノ
 需メニ應ジテ、博士之ヲ著作スルヲ常トス、回々教主ハ、皆各、其史官ヲ置
 シナリ、又其稗史セ、サウセンド、アソデ、ウオン、アラビアン、ナイツ、エントル
 タインメント)ノ如キヲ見レハ、撒拉仙人ノ藻才ニ富メルヲ証スヘシ、其
 他、歴史、法學、政學、理學ノ諸書、及ヒ英雄義士ノ言行錄等ハ、一々之ヲ數フル
 コ違アラス、此等ノ著述ハ、其檢稿ヲ經ザルモ、自由ニ之ヲ上棗スルヲ得
 ルナリ、中世ニ及ンデ、唯神學書ノミ、檢稿官許ヲ經ルコアラザレハ、之ヲ
 上棗スルヲ得サルニ至レリ、又地理、統計、生理、歴史等ノ字書、及ヒ其大集

タル（モリサイクロペディア）百科字林大全（馬哈默、阿武、亞伯達拉著）等ノ書籍ニ乏シカラス、加之、撒拉仙人ハ、色墨汁（イロインキ）ノ製方、及ヒ書籍ノ表題ヲ金摺ニスル等ノ術ニ巧ミナリキ、

撒拉仙帝國ハ、其版圖、蒙古、鞏韌、波斯、埃及、西里亞（法土、摩洛哥、西班牙、及ヒ北阿弗利加、米所波太、迷亞若）シ地理上ヨリ之ヲ論スレハ、其大實ニ羅馬帝國ニ勝ル、ノ諸國ニ跨ル、而シテ其地至ル所トシテ、學校ノ設ケアラサルハナシ、且ツ其國境ニハ二箇ノ觀象臺、及ヒ中學校ヲ設置ス、其一ハ即チ沙噴良ニアリ、他ノ一ハ即チ西班牙ノ日拉多ニアリ、嘗テ幾奔（キツギン）此文物制度ヲ論シテ曰ク、各州獨立ノ一エミル（名）ハ、皆競テ同一ノ王權ヲ主張セリ、而シテ其競爭ハ、偶、沙噴良、布克ヨリ、法土、哥爾多瓦ニ至ルノ間ニ、大ニ學風ヲ布撒セリ、サルタン（サルカンド、ボク、ハイル、フエズ、コルダ、ウア）ノ國老、學校ヲ巴格達ニ建設スルカ爲メニ、一万余（千）「ダイナル」ノ年附ヲ以テ、金塊二十万ヲ寄贈セリ、コノ學校ニ於テ、多年

ノ間ニ教育セシモノ、上ハ王公ヨリ、下ハ庶人ノ子弟ニ至ルマテ、各種ノ人民、各六千人以上ノ多キニ上ホレリ、而シテ資金固ヨリ餘裕アレハ、貧生ニ給スルニ學資ヲ以テシ、教師ニ給スルニ至當ノ謝金ヲ以テス、其影響タルヤ、各市名ヲ求ムルノ富豪、若クハ奇ヲ好ムノ士人等、亞刺伯文學ノ著書ヲ謄寫シ、或ハ集聚スルモノ多キニ至ル（ト）而シテ其學校ノ監督タルヤ、或ハ納士德教派ノ人之ヲ監スルアリ、或ハ希伯來族ノ人之ヲ督スルアリ、其人種ノ何族ナルヲ問ハス、其宗教ノ何派ナルヲ論セス、苟モ學識ノ其任ニ堪ユルモノナランニハ、之ヲ採用スルニ吝カナラサルナリ、回々教主亞爾、麻滿、嘗テ詔ノ曰ク、抑學校ノ監督ナル者ハ、身チ人智開達ノ職ニ任シ、後覺ヲ薰陶シ、世道ヲ輔クル者ナレハ、コレ上帝最愛ノ臣ナリ、世若シ不幸ニシテ厥人ヲ得ザレハ、再タヒ頑愚固陋ノ世界ニ沈淪スヘシ、嗚呼其任タルヤ、亦大ナリト云フヘシト、

抑、學校ニ大試験法ノ行ハレシハ、改羅ノ醫學校ヲ以テ嚆矢トナス、改羅ノ醫學、一タヒ此例ヲ置シヨリ、世間沛然トシテ之ニ倣ヘリ、是ニ於テカ、侯缺者ハ、唯其實力ヲ以テ醫學ニ登第スルヲ得タリ、而シテ歐洲ニ醫學ノ建設アルハ、撒拉仙人カ、之ヲ伊太利、撒勒爾納ニ建設セシヲ以テ、其濫觴トナシ、觀象臺ノ造立モ、亦其西班牙、塞維爾、ニ造立シタルモノヲ以テ先鞭トナス、

撒拉仙人、學專風潮ノ結果ヲ詳説スルハ、豈此一小冊子ノ能ク盡シ得ル所ナランヤ、當時古學大ニ行ハレテ、新學亦其緒ヲ開ケリ、先、其數學ニ就テ之ヲ論セハ、遙カニ印度ノ算法(是レ世界無比ノ發明ニシテ、其法タル、數字ニ各、一定ノ價ヲ名ツケ、十數ヲ滿位トシテ之ヲ採上ケ、其位置ニ依リテ又別名ヲ目シ、之ヲ算スルニ極メテ簡易ナル一定ノ規則ヲ以セリ、爾後、算術上ノ便ヲ得シ、一々勝テ之ヲ數ヘ難シ)ヲ取用シ、近ク底阿、豐多

トノ代數ヲ開發ス、馬哈默、弁、冥撒ハ二次方程式ノ解ヲ加ヘ、漢馬兒、弁、伯刺比武ハ三次方程式ノ解釋ヲナセリ、又弁、冥撒ハ(球体三角論)ヲ著シ、亞爾、巴格波達的ハ(陸地測量論)ヲ作レリ、(此測量論ノ如キハ、其論頗ル卓絶タルヲ以テ、或ハ之ヲ前ニ紛失シタル、郁哥力度著書ノ寫本ナルヘシト疑ヘリ)且、撒拉仙人ハ、嘗テ用ヒ來リシ直線ヲ廢シ、之ニ代ユルニ正絃線ヲ以テシテ、現時三角術ノ体裁ヲ爲シ、以テ遂ニ一科ノ學術トナセリ、若シ其天文學ニ就テ之ヲ曰ハ、星辰ノ目錄ヲ製シ、星宿ノ圖ヲ撰ミ、(其亞刺伯名稱ハ、今尙天文學ニ於テ之ヲ用ユ)大陽大陰ノ精表ヲ頒布シ、晝夜平分點ノ先進ヲ定計シ、年歲ノ期限ヲ定メ、黃道ノ傾斜ヲ量レリ、加之地球ノ周圍ヲ測定センカ爲ニ、其一度間ヲ測量スルアリ、(前コ已ニ之ヲ説ケリ)又天文器械ヲ完全センカ爲メニ、日晷、漏壺等ヲ發明スルアリ、(振子ヲ時辰儀ニ用ユルモ亦其發明ナリ)彼、有名ナル拉巴、禮士ノ如キハ、亞爾

巴的格尼士（撒拉仙）天文家（星學論）ヲ尊重シ、以文入尼（耶蘇紀元一千年埃及）國哈建王ノ天文學者（摘要）ヲ研究セリ、蓋シ其摘要ハ、コレ其（亞爾、滿武）爾以來ノ兩蝕、二至、晝夜平分、遊星接着、恒星隱沒等ノ觀察ヲ含包スルニ因ルナリ、（此觀察ハ、最モ社會事物ノ理ヲ顯ハス燈光ナリ）

若シ其經驗理學ニ就テ之ヲ曰ハ、化學ヲ創製シ、其最要劇藥（硫酸、硝酸、亞爾格兒）ノ如キヲ發明シ、更ニ化學ヲ以テ醫學ノ實地ニ配用シ、始メテ鑛物ノ説明及ヒ藥法ヲ公布セリ、其器械學ニ於ケルヤ、概テ墮體ノ規則ヲ定メ、明カニ重力ノ性質ヲ解シ、能ク器械力ノ説ヲ知レリ、其稱水學ニ於ケルヤ、諸物各殊ノ量表ヲ製シ、各體浮沈ノ議論ヲ著セリ、而シテ其視力學ニ於ケルヤ、能ク物光達眼（物光眼睛ニ來リ觸レテ初メ）ノ正説ヲ探テ、眼光達物（眼睛ノ光リ外物ニ達シテ）希臘説ヲ排斥シ、日光線ノ反射、曲折ノ理ヲ格知ス、而シテ彼ノ（亞拉全）如キハ、大氣ヲ通過スルノ光線ハ

彎弧線ナルヲ發明シ、之ヲ証スルニ、日月出沒ノ前後ニ於テモ、尙之ヲ見ルヲ得ルヲ以テセリ、

此クノ如ク學術ノ活潑ナルコトハ、遂ニ工業殖産ノ事ニ影響シテ、大ニ其面目ヲ一新セリ、即チ農業ニハ、水利、牧畜、肥料用法、及ヒ耕作方等ノ改良アリ、又米作、砂糖、糊精製法等ノ傳習アリ、織工ニハ、生糸、木綿、及ヒ羊毛ノ製造アリ、漉職ニハ、西班牙革、摩洛哥革、及ヒ紙等ノ製造アリ、而シテ鑛業ニハ、堀開術、及ヒ鍊金術ノ改良アリ、又「トレード」利刀ノ名作アリ、

又詩歌音樂ノ僻アル撒拉仙人ハ、多クハ其閑ヲ風流音事ニ委テ、象棋ヲ歐洲ニ傳ヘ、又之ニ教フルニ稗史ト、之ヲ愛スルノ風致トヲ以テセリ、而シテ其稍、文學ニ類スルモノニ於テハ、人事無常、有爲轉變、背宗ノ成果、世界ノ生住滅等ノ事ヲ論スルヲ以テ、其樂トナセリ、就中、吾人カ尤モ驚嘆ニ堪サルモノハ、是ク正シク今時ノ新説ナリト誇稱スルモノ、即チ彼ノ醇

化説等ノ如キモ亦己ニ古代撒拉仙學校ニ行ハレタルコト是レナリ、加
 之、彼等ハ吾人カ敢テ企テ得サルノ点ニ達シテ、能ク其醇化説ヲ無機物、
 即チ礦物ニモ及ホセリ、故ニ其鍊金術ノ礎則ヲ見ルニ、即チ金屬天然ノ醇
 化法ナリ、アムカカシニ亞爾加日尼第十二世紀ノ著書ニ云ク、普通ノ人、若シ究理學者
 カ、金ハ礦物ノ至熟点ニ達シタルモノナリト云フヲ聞カハ、彼レ必ラ
 ス誤解シテ思ハシ、金ノ其体タルヤ、初メハ一箇ノ鉛ナリシカ、漸クニシ
 テ錫トナリ、銅トナリ、銀トナリ、終ニ變シテ金トナルナリト、コレ未ダ理
 學者ノ意ヲ得サルモノト云フヘシ、抑理學者ノ此言ヲ吐クヤ、其意ハ人ハ
 動物ノ至熟体(靈長)ナリト云フノ意ニ異ナルコトナシ、人ハ動物ノ至熟体
 ノ語、豈牛變シテ驢馬トナリ、荷馬トナリ、猿狙トナリ、終ニ醇化シテ人ト
 ナルノ謂ヒナランヤト、

第五章 靈魂説ノ軋轢附流轉還滅ノ説

歐洲人靈魂説○靈魂ハ形体ニ類似スル事

亞細亞地方理學ノ説○吠吠論及ヒ佛法ニ於テハ流轉還滅ノ説
 シ主張スル事附爾後希伯來人及ヒ亞刺伯人モ亦之ヲ主張セシ事
 ○以利日那ノ書中ニモ亦流轉還滅ノ説アル事

流轉還滅説ト勢力ノ交關係論ト一致符合ノ事○身体ノ生死
 ト精神ノ始終ト並行兩立ノ事○人間ノ本性ハ比較生理學上ニ
 基ヒテ論定スルノ緊要ナル事○亞比朗士學派之ニ因リテ起リ
 西班牙西々里ヨリ耶蘇教國ニ蔓延スル事

亞比朗士學派困難ノ歴史○回々教徒該派ニ抵抗スル事○猶太
 教會對峙スル事○法王該派ヲ破滅セント企ツル事○西班牙ニ
 於テ教法裁判所創立ノ事○教法裁判所該派ノ徒ヲ苦シメシ事

附其結果影響ノ事○希伯來人及ヒ母兒人斥逐ノ事

歐洲中ニ亞比朗士學派破滅ノ事○其後瓦底干公會果斷ノ事
 希臘及ヒ羅馬ニ流行セシ異教ノ説ニ據レハ、凡ソ人ノ靈魂ハ、其形体ニ
 相類似シ、之ト俱ニ變化シ、之ト俱ニ發育ス、故ニ勇者ノ黃泉ニ至ルヲ得
 タルモノハ、容易ニ其親友舊故ヲ識別セリ、是レ其容貌衣服、毫モ變更ナ
 キヲ以テナリト、往古ノ耶蘇教ノ如キハ、之ヲ信スルヲ最モ甚シク、且ツ善
 人ニ天堂ノ賞アリ、惡人ニ地獄ノ罰アリ、來世ニ於テモ亦今世ニ異ナル
 ヲナシ、其朋友ト相會シ相話スルヲ得ルモノト信セシナリ、コレ朋友親
 屬ニ永訣シタル、悲泣哀傷ノ心ヲ慰撫スルニ便ナリ、
 靈魂形体ヲ離レシヨリ、大審判日ニ至ルノ間、其所在如何ノ問題ニ就テ
 ハ、論説一ニ足ラス、甲ハ曰ク、墓邊ニ呻吟スルナリト、乙ハ曰ク、空中ニ
 哭泣飛行スルナリト、就中、大衆ノ信ヲ得タル説ニ曰ク、彼ノ聖、彼得ハ天

門ノ監守ナレハ、固ヨリ之ヲ開閉スルノ權アリ、故ニ撰ンテ其善者ヲ入
 レ惡者ヲ退クト、果シ然ラハ、其容拒如何ハ、實ニ大審判ノ豫審ニシ、或ハ
 彼ノ大審判ヲシテ、全ク无効ニ屬セシムルヲアラン、故ニ駁論紛々、一ノ定
 説アルヲ見ス、降テ格勒格力、日格烈達ノ時ニ至リ、始メテ煉獄ノ説起リ、
 大ヒニ人心ヲ收聚ス、是ニ於テカ、死靈休息所ノ建築始メテ落成セリ、
 幽魂往々娑婆世間ニ出現スルトノ説アリ、是レ古來歐洲人ノ智愚共ニ
 信セシ所ナリ、凍雲暗淡、北風稍ニ嘯クノ時ニ當テ、老幼爐ヲ圍テ坐シ、説
 者アリ、聽者アリ、半ハ喜ヒ、半ハ懼レ、殆ト冬夜ノ長キヲ忘レシモノハ、多
 シハ幽靈ノ怪談ナリキ、古代羅馬ノ通説ニ據レハ、積善ノ者ハ、死後直チ
 ニ屋神トナリ、積惡ノ者ハ、死後螟蛉猿狙トナリ、其善惡相半スルモノハ
 迷鬼トナルト云ヘリ、世人ノ言ヲ以テ、信ヲ置クニ足ルモノトセハ、冥鬼
 ハ墓碑ノ近傍ニ集ル者ナリト云ヒ、或ハ古城暗室ニ隱在スルモノト云

ヒ、或ハ寂然タル月夜ニ彷徨スルモノト云フカ如キハ、往古ヨリ今時ニ至ルマテ、其証枚舉スルニ追マアラサルヘシ、
 以上ノ諸説ハ、專ラ歐洲地方ニ流行セシモノナリ、而シテ亞細亞地方ニ行ハレ、殊ニ學者社會ノ尊信ヲ得タル説ハ、大ニ之ト異ルモノアリ、故ニ第十六世紀ニ當リ、法王之ヲ排セシト雖モ、猶之ヲ撲滅スル能ハス、現ニ今歐洲ニ於テ、密ニ其説ノ流行スルヲ極メテ隆ンナリ、遂ニ法王ヲシテ、公然之ヲ再排セシムルニ至レリ、瓦底干公會ノ如キモ、亦該説ノ陰布ヲ防クカ爲ニ、之カ處置ヲ議決ス、其ノ第一條ニ曰ク、靈魂ハ、神質(或ハ佛性ト譯ス)ノ流轉セルモノナリ、而シテ此神質ナルモノハ、其發育ト顯象トニ依テ、一切萬物ニ變スルモノナリ、等ノ説ヲ信スル人アラハ、本會ハ之レヲ擯斥スヘシト、以テ該説蔓布ノ隆ンタルヲ見ルヘシ、故ニ予ハ、今此有力説ノ性質、及ヒ其履歷如何ヲ搜索スルハ、尤モ怠ルヘカラス、義務ナルヘキヲ

信ス、

夫レ上帝ノ性質如何ノ説ハ、必ス多少其影響ヲ、人靈ノ性質如何ニ及ホスモクナリ、東洋亞西亞ハ其神似人ノ教ヲ立テサルカ故ニ、靈魂流轉還滅ノ説アルハ、當然ノ理勢ナリ、
 吠吠神學ハ、万物ニ周遍スルノ精氣ヲ以テ、之カ基礎トナセリ、其説ニ曰ク、無上心ハ、コレ宇宙唯一真正ノ神ナリ、此神ヤ、人ノ靈魂ト同性ニシテ、相異ナルヲナシト、吠吠及ヒ、メニユ一教ハ、靈魂ハ、元來周遍智ヨリ流轉セルモノニシテ、終ニマダ還滅スヘキモノナリト説キ、又靈魂ニハ、形体アルコトナシ、周遍智ハ、手之ヲ觸ヘカラス、眼之ヲ見ルヘカラス、然レモ、花麗愛スヘク、怡々樂ムヘキノ有形世界ハ、皆唯真神(精氣即チ)ノ影子ナルノミト教ヘリ、
 吠吠ハ、遂ニ佛法ト變シテ後、大ニ信ヲ人種ノ過半ニ得タリ、佛法ハ其真

如法性ノ理アルヲ談シテ、眞如ノ外ニ、神人ノ事物アルヲ説カス、其眞如ノ理タルヤ、最大ノ力用ヲソナヘ、一切ノ諸法ハ、皆此眞如ノ理ヨリ縁起スルモノトス、然レドモ、其力用ハ、之ヲ諸ノ事物ト縁起スルノ後、始メテ其力用アルヲ覺ル、又流轉還滅ノ説アリ、曰ク、諸ノ人類等、皆ナ最初一点ノ无明アリテ、眞如ノ理ヨリ迷ヒ出テ、遂ニ復眞如ノ理ニ還ル、人若シ諸法ノ流轉還滅ヲ疑バ、請フ燭火ヲ以テ之ヲ譬ヘン、未ダ火ヲ點セサル前ハ、即チ諸法ト縁起セサルノ前ナリ、己ニ點シ盡シタル後ハ、再ヒ眞如ニ還リタル後ナリ、正シク火ノ點燈セシハ、吾々人類ト迷ヒ出タル位ナリ、抑、吾人ヲシテ迷ハシメタルモノハ、煩惱我執ナリ、此煩惱我執ハ、死ト共ニ絶滅スヘキニアラス、是レ轉生ノ説アル所以ナリ、然レモ、道ヲ修スルニ從ヒ、漸次我執ノ熱ヲ滅シテ、終ニハ眞如ノ理ニ皈適シ、涅槃ノ域ニ達スルコトヲ得ヘシ、是レ即チ法性ノ理ニシテ、全ク事處時ノ想ヲ

絶ス、又是レ寂滅爲樂ノ境ニシテ、各人迷ヲ起サ、ル以前ノ境ナリ、彼ノ燭火滅盡セシ後ノ境界ト全ク一般ナリ、此クノ如ク、眞如ト吾人トノ皈一不二ヲ證スルヲ以テ、无上ノ最大幸福トスルナリト、
 此説ヲ以テ、歐洲東部ニ弘通セシハ、亞里斯度德氏ヲ以テ元祖トナス、故ニ世人或ハ氏ヲ以テ、之カ教主ト云フニ至レリ、而シテ該説ノ最モ隆盛ヲ極メシハ、中古亞勒山德黎亞府ノ學校ヲ以テ第一トス、加里額拉ノ時代ニ當テ、希伯來人スロイロ以羅ハ、此流轉説ヲ以テ、其理學ノ基礎トナシ、波羅底那士チナスハ、之ヲ靈魂説ト奉スルニ止マラス、又之ヲ以テ三位一体説ヲ説明セリ、曰ク、太陽、光線ヲ分發シ、光線(物体ニ感觸スレハ)熱ヲ分發スルカ如ク、聖父、聖子ヲ發生シ、聖子、聖靈ヲ湧出スト、氏ハ此説ヲ擴充シテ、遂ニ一種ノ修法ヲ案出シ、入定ノ法ヲ定メテ、大源魂ニ還入スル修法ヲ教ニ、入定ノ時ニ於テハ、靈魂ハ全ク自他ノ感情ヲ失ス、法爾費來氏モ亦同ク

上帝ト飯一還滅センヲ求メリ、氏ハ殆兒國ノ産ニシテ、學校ヲ羅馬ニ
 開キ、大ニ耶蘇教ノ駁説ヲ著セリ、可西伯士及ヒ聖、日羅羣之カ辨駁ヲ著
 セリト雖也、未タ其効ヲ見サリシカ、第阿多士悉ク氏ノ著書ヲ燒クニ及シテ、
 纔ニ其説ヲ止ムルヲ得タリ、法爾費來氏常ニ自己ノ不徳ヲ歎シテ曰ク、
 予カ師、波羅底那士氏ハ、六十年間、六度入定シテ、其神ヲ感見セラレタリ、
 然レモ、予ハ八十六年間、纔カニ一度入定シタリト、不路格羅士氏ハ、此流
 轉説ヲ基礎トシテ、完全ナル神學ヲ開ケリ、蓋シ、其還滅ノ方法ヲ講究シ、
 其還滅スル順序ハ、人死スル後、直チニ靈魂ニ還滅飯入スルモノナルガ、將
 タ暫ク其我執ヲ任持シ、漸クニシテ再ヒ之ニ飯入還滅スルモノナルヤ
 ヲ、深ク熟慮潜思セリ、

以上ノ諸説ハ、亞勒山德黎亞府希臘人ヨリ、直チニ撒拉仙ノ理學家ニ傳ハ
 リ、埃及落城ノ後ハ、國民ヲ擧テ、悉ク上帝似人説及ヒ靈魂似体説ヲ廢捨セ
 シムルニ至レリ、亞刺伯學益、盛ニシテ、其体裁大ニ具備スルニ從ヒ、此
 流轉還滅説モ、亦大ニ其信奉者ヲ増加セリ、希伯來人、一タヒ此先例ヲ置
 キシヨリ、回々教モ亦其在來ノ上帝似人説ヲ廢シ、古來殿堂帳内ノ神人
 ヲ逐ヒ、宇宙周遍ノ大智ヲ以テ、之ニ代ラシメ、且、忽然其成立ヲ得タルモ
 ノニシテ、永世不朽ナルモノアルヲ想像スルハ、決シ人心ノ能ハザル所
 ナレハ、靈魂ハ无始曠劫ヨリ現シテ、尽未來際永劫ノ無終マデモ、存在ス
 ヘシト信スルニ至レリ、故ニ希伯來人ハ、回々教ノ妄信ヲ闢クニ、與ッテカ
 アリト云フヘキナリ、亞刺伯ノ學史ニ於テ、希伯來ト撒拉仙トハ、常ニ相併
 立シ、西里亞並ニ埃及ノ政史ニ於テモ、亦同シク其併立スルヲ見ルナリ、
 西部歐洲ハ、實ニ此兩族ニ依テ、其理學ノ思想ヲ導キ、漸クニシテ、亞比朝士
 學説ニ上達スルヲ得タリ、該學ハ、實ニコレ理學回々教ナリ、歐洲人ハ、皆
 以爲テク、亞比朝士氏ハ、此等異端説(理學)ノ教主ナリト、故ニ耶蘇教妄信

家ハ、大ニ氏ヲ厭惡セリト雖也、何ソ知ラン、氏ハ唯僅カニ其編輯人、注釋家タルニ過キササルヲ、氏ノ著書ハ、其線路ヲ左右ニ分テ、大ニ耶蘇教國ヲ進擊セリ、其一ハ、西班牙ヨリ南佛ヲ經テ、上伊太利ヲ進擊シ、大ニ異教者ノ數ヲ増殖シ、其二ハ、非勒得力第二世ノ保護ニ依テ、西々里ヨリ那不勒及ヒ南伊太利ヲ征伏セリ、

歐洲ニ於テ、此智識上ノ大進擊ニ先チテ、東方學派ノ沸騰時代トモ稱スヘキノ一事アリ、予ハ其一例トシテ、今茲ニ我、以利日那氏(耶蘇紀元八百年)ノ說ヲ抄出セント欲ス、氏ハ元英國ノ産ニシテ、深クアリス亞里斯度德ノ理學ヲ信シ、亦之ヲ人ニ教ヘ、該理學開師ノ誕生地ニ行脚シ、且當時西班牙ノ馬哈大教授修學僧官ノ主義ト同シク、理學ト宗教トノ混同ヲ勤メシ人ナリ、

亞那士多西亞士氏カ查理日窩兒士ニ贈ルノ書ニ、氏ノ奇才ヲ稱讚セシ

モノアリ、曰ク、斯クノ如キ地球ノ偏地ヨリ來レル、蠻野鳩舌ノ人ニシテ、其事物ノ理ヲ解スルノ明瞭ナル、又之ヲ他國語ニ翻譯スルノ巧妙ナルハ、實ニ驚嘆スルニ堪ヘタリト、氏カ著述目的ノ如キハ、既ニ前ニ說クカ如ク、理學ト宗教トノ混和ニアリ、然レモ、其著述ハ、遂ニ僧官ノ惡ミヲ受ケ、之カ焚棄スル所トナル、氏ノ著書中、尤緊用ナルモノハ、之ヲ「デ、ヂビシ」ノ、ネチニールト號シ、

以利日那氏ハ、總テ有情ハ、各、其先ニ生住シタル有情ヨリ生ストノ定説エリヲ以テ、理學ノ基礎トナセリ、其說ニ曰ク、眼以テ之ヲ見ルノ世界ハ、即チ是レ活世界ナレハ、必スシモ、之ヲ生スヘキノ先物ナカラザルベカラス、コノ先物ハ、即チ是レ神ナリ、此神ハ、即チ是レ万物ノ造作者ナリ、又是レ万物ノ保護者ナリ、予輩目視耳聽ノ境ハ、實ニ千差万別ナリト雖也、一トシテ、是神ヨリ分出セル力用ヲ以テ、其性ヲ任持セラレサルハナシ、故ニ、

若シ之カ方用ヲ舉テ、其大源ニ還皈セシメハ、万物忽然トシテ消滅スヘシト、斯クノ如ク、氏カ神ヲ以テ宇宙不斷ノ保護者トナシ、維持者トナスノ点ハ、希臘學ニ所謂世靈ナル者ニ符合シ、一箇人各自ノ壽命ハ、是レ宇宙即チ世靈ノ一部分ナリ、

若シ一朝コノ任持力ヲ物体ヨリ取去ラハ、万物皆其本然ノ大源ニ還皈スヘシ、即チ万物皆上帝ニ還入スルナリ、斯クノ如ク、万物皆其源ニ還滅シテ已マサレハ、遂ニ有形世界ハ、悉ク心識ニ還皈シ去ルヘシ、故ニ曰ク、肉身ノ死ハ、唯諸物還元ノ順序ノミト、今聲音ハ、空氣中ニ生シ、空氣中ニ住シ、又空氣中ニ滅ス、万物モ亦若干ノ時ヲ過去テハ、終ニ還滅ノ時來ルヘシ、此時ニ於テハ、万物即チ上帝、上帝即チ万物ニシテ、上帝ノ外ニ一物アルヲ見サルナリ、

上帝ハコレ万物ノ元始ナリ、又原因ナリ、現存物及ヒ己既物ハ、皆實ニ上帝ヲ以テ製シタルモノナリ、上帝ニ於テ製セシモノナリ、又上帝自ラ之ヲ製セシモノナリ、故ニ上帝ハ、又万物ノ以テ之ニ皈適スルノ結局ナラサルヲ得ス、(中略)今造化ヲ通論スルニ、四重ノ義アリ、神聖世界ニ於テノ二(元始ト大終)ト、有形世界ニ就テノ二(原因ト結果)トナリ、故ニ上帝ノ外ニハ、一物ノ以テ不朽ナルモノアルコトナシ、

以利日那氏ハ、人靈ノ周遍智ニ皈入スルヲ名ケテ「ゼオシス」若クハ「デイエリヒケ」トシ、フヒケト云フ、言コ、ロハ、上帝ニ還皈スルナリ、靈魂モシ周遍智ニ還入スレハ、永ク過去ノ經驗ヲ忘レ、其心身相包合セサルノ前ニ復皈スルナリ、故ニ氏カ、耶蘇教寺院ノ惡ミニ逢フハ、又其理ナキニアラサルナリ、

現時、吾人カ諸力ノ交關、及コネクション保藏ト稱スルノ説トハ、多少ノ相違アルヘシト雖トモ、方用ハ不滅不朽ノモノナリトハ、嘗テ印度人中ニ起リシ確説

ナリ、世界ノ堅固牢鞏ナルハ、益々該説ヲ固フスルニ足レリ、若シカニ増減アルヲ許サハ、世界ノ秩序ハ持ツヘカラス、是ヲ以テ、宇内ノ力ハ不増不減ノモノナリトハ、科學上ノ實事ナリ、世人カ力ニ増減アリト思フハ、唯其分配ノ狀ヲ異ニスルニ由ルナリ、

夫レ人靈ハ、一箇ノ活潑質ナリ、今之ヲ無一物ヨリ新造セハ、世界中、一新カヲ増スナリ、朝ニ一人ヲ生シ、暮ニ一人ヲ生ス、一人生スルゴトニ一ノ新魂ヲ與ヘハ、力ノ増加モ、亦制限アルヘカラサルナリ、

且ツ敬神家ニ在テハ、醜事トスヘキモノアリ、何ソヤ、曰ク、大自在力ノ上帝ハ、精虫、初メテ飽帶ニ合スルノ際、之カ靈魂ヲ新造セサルヲ得ス、果シテ然ラハ、上帝ハ色慾姪事ノ後見人ナルコト是レナリ、

人ハ魂身ノ二物ヨリ成レリ、故ニ心法微細ナリト雖モ、身体(色法)ヲ以テ之ヲ比量スルキハ、多少其理ヲ知ルヲ得ヘシ、夫レ肉身ハ、吾人周圍ノ物質

ヨリ成レリ、故ニ一息永ク盡シルキハ、各其原質ニ皈ス、吾人物質部、即チ肉身ノ生死、已ニ斯クノ如シ、コレ豈吾人カ精神部、即チ靈魂ノ生死ノ形狀ヲ示スノ、天意ニアラサルヲ得ンヤ、

回々敎記者中、尤モ有カナル阿爾、駕坐里耶蘇紀元千零十年撒拉仙ノ理學者ノ曰ク、上帝ハ其光明一片ヲ取テ、以テ人靈ヲ造ル、故ニ人ノ死スルヤ、其靈必ス上帝ニ還皈ス、汝其体ノ死ヲ見テ、靈魂ノ死ト思フコト勿レ、汝ガ初メテ來生セシ形体ハ、今日ノ形体ニアラサルナリ、果シテ然ラハ、唯ニ形体ノ死ヲ以テ、何ソ靈魂ニ及ホスヲ得ンヤ、汝カ靈魂ハ旅客ニシテ、世界ハ一夕ノ旅館ナリ、厭フヘキハ風雨ノ生涯、欣フヘキハ上帝ノ隱宅、一タヒ上帝ニ還皈スルヲ得ハ、永劫無盡ノ休息ヲ得、苦痛ヲ去リテ歡樂ニ入り、怯弱ヲ去リテ強壯ニ入り、疑危ヲ去リテ深知ニ入り、以テ吾人カ、嘗テ之ヨリ化現セシ所ノ大源ナル、光明壽命及ヒ面目ノ大源ニ入ルノ

清樂ヲ取ルヘシト、

石ハ其物質常ニ同形量ナルカ故ニ、或ハ不朽ナルヲ得ヘシト雖モ、動物ニ至テハ則チ然ラズ、体ハ外物ノ供給ヲ仰テ、纔カニ其消耗ヲ補フニ過キス、故ニ其形体ハ、之ヲ物質ノ河流ト云フヘク、或ハ之ヲ瀑布、燃火ニ比スヘシ、前時組織ノ物質ハ、後時組織ノ物質ト異リ、人其軀ヲ相續任持スル所以ノ者ハ、唯供給ヲ外物ニ仰ケハナリ、然レモ、相續亦限アリ、早晚長睡不起ノ期ニ會フヘシ、

夫レ心理學ハ大難問ナリ、今ヤ之ヲ論スルニ當テ、若シ其着眼ヲ一局ニ限ラハ、到底理學上ノ義ヲ得ル能ハス、故ニ苟モ事實ノ以テ依ルヘキアラハ、悉ク之ヲ利用スヘシ、吾人ハ達士加底士ト共ニ、動物ノ魂ト人ノ靈魂トハ、同性異級ノモノニハ非ルヤ否ヲ察シ、人間ノ智根ヲ論スルカ如ク、又蟻蟲ノ智根ヲ論セント欲ス、若シ夫レ比較心理學(動物ノ心理ト人類ノ心理ト

ヲ比較ス)ニ依テ、之カ光明ヲ求メスンハ、將タ何ニ依テ、我カ人類ノ心理學ヲ究メンヤ、

貌羅地(英國)ハ、深ク眼ヲ事物ノ理ニ注キ、且ツ以爲ラシ、動物ノ心ハ、必ス

將ニ人心ニ同シカルヘシ、彼ノ犬ノ善惡ヲ識別シ、其邪惡ヲ爲スヤ、彼ノ自ラ其罪ヲ知ルハ、世人ノ熟知スル所ナラスヤ、家畜類ハ、多クハ理非ヲ辨スルノ才ヲ有シ、其目的ヲ達スルニ當テ、至當ノ術ヲ施スノ識ヲ有ス、象及ヒ猿狙等カ、有心故造ノ奇談ハ、勝テ之ヲ數フルニ暇アラス、人或ハ云ハン、彼等ハ人ニ接近スルヲ以テ、纔カニ其行爲ニ倣フノミト、果シテ然ラハ、至ク人ニ接スルコトナキ、野獸ニ同性アルハ、何ソヤ、但シ其類異ナルモ、其量其性亦從フテ同カラス、故ニ犬ハ其社會ヲ愛シ、其飼主ヲ敬スルノ智アレモ、猫ハ唯其家ヲ愛スルニ過キサルナリト、

高、勸門多氏言ヘルコトアリ、曰ク、博物家、若シ蟻ノ神經質ハ、其勉強、順序

機智、親愛、膽畧、ノ心府ナルヲ覺ラハ、誰カ其精微ナルニ驚カサランヤ、願
 フニ、コレ數世ノ醇化ヲ經テ、漸ク今日ノ黠ニ達シタルモノナラント、又
 虎^{ヒョウ}氏ノ珍説アリ、曰ク、子、若シ一箇ノ蟻ノ動作ヲ觀ヘ、子ハ、彼レカ次ノ
 作業ヲ先見スルヲ得ヘシ、蟻モ亦其秩序ヲ考ヘ、其理非ヲ辨スルノ智ア
 ルナリト、又曰ク、蟻ノ巢窟ヲ建築スルヤ、亦其監督官アリテ常ニ巡監シ、
 若シ之カ速成ヲ思フテ、其工ノ密ナラサル所アレハ、蟻官ハ忽チ之ヲ毀
 テ、堅牢ニ再營セシムト、是レニ由テ之ヲ觀レハ、蟻ハ自動機ニアラサル
 ヤ必セリ、且ツ蟻ノ數月分襟ノ舊友ニ遇フ見ルニ、其狀恰カモ無事ヲ祝
 スルモノニ似タリ、其ノ鬚毛ヲ動カスハ、正ニ是レ談話ヲ爲スモノナリ、
 獨住蟲ハ短命ニシテ、其子ヲ育スル能ハスト雖モ、社會蟲ハ長生シテ、能
 ク其子ヲ教導ス、小蟲彼レカ如キモ、能ク日、ニ十八時乃至十六時間ノ勞
 カニ堪ルハ、豈勉強ト耐忍トノ軌範ニアラスヤ、人ニシテ其能力ヲ役ス

ルコト、四五時間以上ナルモノハ、殆ント稀ナリ、豈小蟲ニ對シテ、赧然タ
 ラサルヲ得ンヤ、
 結果ノ相同キハ、原因ノ同シキヲ示シ、動作ノ相同シキハ、機關ノ齊シキ
 ヲ証ス、彼露國ノ「インカス」社會法ト、小蟲ノ社會法トハ、之ヲ大ニシテハ、
 社會ノ組織、之ヲ小ニシテハ、私人ノ行狀、細大ノ事、一トシテ相同シカ
 ラサルモノナキヲ見レハ、蜂蟻等ノ小蟲ニモ、餘師アルヲ見シ、諸君若シ
 尙之カ詳説ヲ得ント欲セハ、請フ拙著「歐洲人智開達史」(原名、インタルレ
 ロアメント、オ)第九章ヲ見ヨ、
 達士加底士氏ノ曰ク、小蟲ハ皆自動機ナリト、予ハ將ニ之ヲ左案ノ如クコ
 修正セントス、曰ク、小蟲ハ其内臓ノ織緯ト神經核(一ニ結節ト名ツケ、下
 フナ)ノ効用中、唯感覺ヲ輸達スルノ働キトノミニテハ、皆一ノ自動機タ
 ルニ過キスト、

五官ヨリ送り來ルノ感痕ヲ任持スルハ、コレ柔軟神經物質機能中ノ一
 ナリ、神經核（即神經系結節）ハ、素ヨリ該柔軟神經物質ヨリ成ルモノナレハ、之ヲ
 一種ノ記簿機ト云フモ妨ケナシ、而シテ彼ノ感痕ナルモノハ、時根（時ノ元
 フ）ヲ神經機ノ作用中ニ導キ、以テ永シ其痕跡ヲ消セサラシム、故ニ若シ
 彼ノ感痕ナキハ、感覺ハ唯刹那ノ反働ノミニ止マルヘシト雖也、今ヤ
 彼ノ感痕アルヲ以テ、感覺ハ能ク其久キニ耐ヘ、以テ新舊ノ感覺、相交關
 シテ生スルノ諸要果ヲ呈スルナリ、
 思想ハ獨リ起ルモノニアラス、必ス其先進ノ物ニ因テ來ル、前念過去ニ
 落謝セサレハ、后念得テ現在前スルコトナシ、若シ甲乙二人ノ心、同一機
 ナルモノヲシテ、同一ノ場合ニ臨マシメハ、其起ス所ノ思想モ、亦互ニ
 相同シカルヘシ、
 小蟲ノ神經核ハ、能ク其普通神經、及ビ耳目、鼻官ノ感覺ヲ貯藏ス、是レ其

小蟲ノ自働機ニ勝ル、所以ナリ、
 夫レ中央神經ハ、其動物ノ高卑ニ拘ラス、必ス皆大ニ含密形狀（酸化法）ニ
 關スルモノナリ、人若シ其動脈血ノ供給ヲ減スルキハ、精神ハ衰ヘテ其
 機能ヲ退フスルヲ得ス、若シ之カ供給ヲ止ムルキハ、全ク其機能ヲ失フ
 ヘシ、若シソレ之ニ反シテ、酸化窒素呼吸ノ度ヲ増スルハ、大ニ其機能ノ
 活潑ナルヲ見、是レ休息、睡眠等補療法ノ發生ニ必要ナル所以ナリ、
 吾人外物ノ理會ヲ爲ントスルニ方テ、必テスニ大思想ノ以テ之ニ伴フ
 モノアリ、何ソヤ、時ト處トノ思想即チ是レナリ、故ニ、人生レテ、神經機尙
 未ク完全セサルニ及ソテ、豫メ之カ準備ヲナス、眼根ハ處ニ機官ナリ、耳
根ハ時ノ機官ナリ、觸覺ガコノ二官ニ依テ、其力ヲ精密ナラシムルハ、其
 利勝テ之ヲ數フヘカラス、
 予ハ今茲ニ一例ヲ舉テ、小蟲ノ神經核ハ、必ス其感痕ヲ留ムルヲ證セ

ント欲ス、今封蠟ヲ以テ、夏猶寒カラントスルノ剃刀ニ點シ、之ニ加フル
 ニ口氣ヲ以テシ、其乾クニ及ンテ、再三之ヲ拭フキハ、之ヲ精視スレハ復
 其ノ痕跡アルヲ見ス、然レハ、口氣再ヒ之ヲ吹クキハ、其痕跡顯然トシテ
 庇フヘカラス、又之ヲ藏スルコト數月ノ久シキヲ經テ、再ヒ之ヲ試ミル
 ニ、其顯然タルヲ前ニ同シ、
 區々ノ無機体モ、尙其感痕ヲ留ムルコト、此クノ如シ、況ンヤ其機能ヲ主
 トルノ神經核ニ於テオヤ、人事ハ皆必ス、其影子(無表)ヲ留メテ過去ニ落
 謝ス、人其影子アルヲ知ラサルモノハ、之ヲ見ルノ法ニ精シカラサルナ
 リ、彼ノ寫眞術ノ如キハ、即チ彼ノ影子ヲ見ルノ法ナリ、ソレ寫眞ナルモ
 ノハ、人物ノ艶、景色ノ美、宛然トシテ其眞ニ接スルガ如シ、然レハ、玻璃ニ、
 銀鏡ニ、若シ之カ藥ヲ施サレハ、敢テ其影子ヲ留ムル(無表色ヲ)トナシ、
 是レニ由テ之ヲ觀レハ、吾人幽室ノ動作モ、暗夜ノ行業モ、悉トシ其影子

ヲ留ムルヤ必セリ、
 鳥聲夢ニ入リテ春眠覺メ、突然眼ヲ開テ光体ヲ認ム、復ヒ兩眼ヲ閉テ且
 ヅ沉思スレハ、尙影幻ヲ暗暝ノ裏ニ見ル、世人若シ之ヲ疑ハ、請フ試ミ
 ニ、兩眼ヲ密閉スルヲ數時ニシテ開キ、牖窓ニ懸ルノ暖帳、若クハ木葉ノ
 如キモノヲ一見シ、然ル後、急ニ其他ヲ顧ミ、其影幻ヲ曖昧模糊ノ中ニ
 認ムルヲ、或ハ二三分ノ長キニ及ヒ、漸クニシテ消失セン、然レハ、其影幻
 タルヤ、恰カモ吾人ノ虚ニ乘スルモノ、如ク、若シ眼睛ヲ定メテ、之ヲ諦
 視セント欲スレハ、影幻忽然トシテ消失スルナリ、
 此クノ如ク、感痕ノ網膜上ニ相續スルノ久シキヲ見ハ、以テ外物ノ柔軟
 神經物質ニ感印スルノ短カラサルヲ証スルニ足ルヘシ、顧フニ其狀ハ、
 恰モ寫眞ノ生、住、滅ノ如クナルヘシ、予嘗テ墨ノキ其哥ノキニテ板取セシ寫眞ヲ、
 數月ノ後、紐育ニ於テ施藥發表セシモノヲ見シニ、山容ノ巍峨タル、烟態

ノ模糊タル、光線ノ明暗、物件ノ遠近、毫モ其眞ヲ遺スコトナク、皆顯然トシテ其鏡面ニ現出セリ、

五官ヨリ得ル所ノ感痕ハ、網膜ニ於テハ短促ナリト雖也、腦髓ニ於テハ永久ナリ、之ヲ名ケテ記憶ト云フ、抑此記憶ハ、吾人カ嘗テ眺望ノ快ヲ取リタル景色ヲ畫キ、吾人カ嘗テ苦樂ヲ分チシ事件ヲ記シ、其生物死者ヲ細寫シタル額巻ヲ集メシ、一種ノ書畫展覽館ト云フモ可ナリ、或ハ之ヲ書籍ノ文字ニ比スヘク、(文字ノ形狀ト、其記シタル事物トノ相似サルカ如ク、感痕ト其事物トモ、亦相似サルナリ)又之ヲ尤モ微妙ナル密畫ノ眞景(針耳大ノ壙所ニ、一家眷族ヲ寫シテ、顯微鏡ニアラザレハ、之ヲ見ル能ハサルモノ)ニ比スヘシ、

五官部位ノ感痕ハ、五官各、其職ヲ盡シ、順次ニ其感ヲ新ニスルキハ、一々之ガ影幻ヲ現セサルコト、譬ヘハ、網膜ニ留マル影幻ノ、日光中ニ於テ現

セサルカ如シ、然レモ、五官其機能ヲ止メシ時、或ハ心身疲勞セシ時、或ハ痛苦必迫ノ時、或ハ命將ニ終ラントスル時、或ハ熟睡安眠スルノ時ニ、其影幻ノ再ヒ現顯スルヲ見ルナリ、吾人生命三分ノ一、即チ睡眠ノ時ニ方テ、五官ハ、其機能ノ鈍澁ヲ示シ、身体ハ全ク熟睡スト雖也、常夜不眠ノ心王アリテ、嘗テ集聚スル所ノ寫眞ヲ調合シ、以テ一箇ノ大畫圖ヲ組織ス、此畫圖ヲ名ケテ夢ト稱ス、

天、此クノ如キノ機能(心法)ヲ、人類ニ附與スルカ故ニ、彼ノ野蠻蒙昧ノ民ト雖也、時トマテ、夢幻ニ明媚ノ山水ヲ想像シ、或ハ之ヲ最上無比ノ歡情ニ結合スルコトアリ、此構想架空ノ畫ハ、以テ野蠻人ヲシテ、其將ニ往生セシトスル來世ノ反景ナリト、思ハシメサルヲ得サルナリ、又時トシテハ、其存命ノ時ニ、好愛若クハ惡憎シタル死者ヲ夢ミルコトアリ、コノ野蠻未開ノ民ニシテ、奚ソソ之ヲ靈魂不死ノ確証トカサハルヲ得ンヤ、現時ト

尤モ開ケタル社會ニ於テスラ、尙此等ノ感覺ヲ除却スルヲ得ザルノミナラズ、或ハ感ヲ未開ノ先人ニ同シフスルコトアリ、吾人生活ノ改進ハ、毫モ機官天然ノ感覺ヲ變スル能ハサルコト、猶其病思疾苦ヲ絶ツ能ハサルカ如シ、洋ノ東西ヲ問ハズ、人ノ智愚ヲ論セス、苟モ心アルモノハ必ラス記憶アリ、記憶ハ其關與シタル事件ノ記号ヲ藏スルノ器械ナリ、此器械ヤ、外物ノ關涉スルコト多キハ、寂然トシテ音ナシト雖モ、安眠若クハ病患ノ時ニ方テ、外物ノ之ニ影響スルモノ甚キハ、忽然トシテ其運轉ヲ始メ、以テ種々ノ戲劇ヲ演スルナリ、此時ヤ、人ノ之ヲ信スルニ尤モ適スルノ時ナレハ、易々之ヲ信シテ疑ハサルナリ、此機械ハ、自家ニモ亦來世ノ警戒ヲ加ヘ、卑賤者ニモ亦未來ノ安慰ヲ與ヘ、敢テ其人ノ智愚ト貴賤トヲ撰バサルナリ、且、造次ニモ必ス其人ニ密接シ、頓沛ニモ必ス其人ニ昵近シ、毫モ外物ノ之ニ障礙スルヲ許サ、ルナリ、故ニ浸潤ノ

久シキ、遂ニ前ニ得ル所ノ來世必有ノ証據ニ加フルニ、妄想架空ノ奇因ヨリ聚メタルノ權力ヲ以テシテ、不知不感ノ境ニ於テ、人ヲシテ靈魂ノ不死ト來世ノ必有トヲ信セシムルニ至レリ、小蟲ノ唯自動機ニ異ナル所以ノ者ハ、其管テ受ケシ所ノ感痕ニ依テ、其動作ヲ左右セラル、ニ因ルノミ、其生漸ク高等ナレハ、其感痕モ亦益鮮明ナリ、從テ其記憶モ亦彌、完全ナリ、然レトモ、外物ト、神經核上ノ感痕トノ相似サルハ、譬ヘハ、兩電信局間ニ通スル記號ト、電信局ヨリ其受取人ニ送達スル語句ト異ルカ如ク、又書籍ノ字句ト、其證明スル所ノ風光動作ト相似サルカ如シ、動物若シ此感痕記憶ヲ有セサレハ、將タ何ヲ以テ之ヲ自動機ニ撰バンヤ、漢乎タル開闢以來、此機官順次ニ醇化シ、發育漸ク密ニシテ、智力彌々増進ス、人類ノ如キハ、其畜積尤モ充分ナルヲ以テ、均シク新舊ノ感ヲ喚

起シ、廣ク古今ノ經驗ヲ熟察シ、更ニ道理ヲ以テ其動作ヲ支配スルナリ、動物若シ其腦漿ニ貯フルノ感覺ヲ以テ、他ノ同種族ノモノニ傳フルノ能力ヲ有セハ、コレ其最要的ノ進歩ヲナセシモノナリ、コレ孤獨生活ヲ去テ、交際生活ニ遷ルノ証ナリ、上等小蟲ハ、鬚振ヲ以テ之ヲ爲シ、人ハ談話ヲ以テ之ヲ爲スナリ、上古野蠻草昧ノ時ニ當テ、人ハ唯其言語ヲ以テ之ヲ相傳ヘ、綴カニソ甲代ノ思想技藝ハ、以テ乙代ノ思想技藝ニ影響セリ、然リト雖モ、傳説ノ効能、己ニ其際限アリ、談話ノ利益、豈其區域ナカラシヤ、交際ヲ便ニスルハ、談話乃チ可ナリ、文明ヲ進歩セシムルニ至テハ、談話未タ可ナラス、是ニ於テカ、中古ニ文字ノ發明アリ、大ニ腦中ノ感記ヲ擴メ、且ツ之ヲシテ不朽ナラシメ、一人ノ思想ハ、以テ永ク之ヲ全世界ニ傳フルヲ得、是ニ至テ、初メテ文明ノ端緒ヲ開ケリ、事物ヲ記スルノ文字ナクシハ、世得テ獨リ開化スルコトナシ、

心理學上ヨリ之ヲ論スレハ、出版ノ發明ハ、大ニ吾人ニ有益ナルモノナリ、而シテ出版術ハ、記録即チ文字法ノ進歩セシモノニ外ナラス、永ク人ノ思想ヲ流布シ、世ノ文明ヲ進メ、吾人人類ヲシテ、四海兄弟、万国比隣ナラシムルモノハ、獨リ此ノ出版術ノ能スル所ナリ、
以上神經ノ感覺、感記、及ヒ其影響ヲ零論セシ數節ハ、拙著「人類生理論」ヨリ抄出セシモノナリ、讀者其詳説ヲ知ラント欲セハ、乞フ其本論第一卷第十四章「インヂェルス、グエシヨ、オル、セレブラル、サイト」及ヒ第二卷第八章ニ就テ之ヲ視ヨ、
理學上、人類ノ心理學ニ通達セントスルニハ、單ニ比較心理學(動物ノ心理ヲ以テ人類ノ心理ニ)ノ一路アルノミ、精神ヲ比較スルハ、極メテ難事ナリト雖モ、實ニ其眞理ニ達スルヲ得ルノ一良法ナリ、
日耳曼ノ先哲云ヘル言アリ、曰ク、石ハ精神ノ厓ルモノナリ、動物ハ精神

ノ夢ミルモノナリ、而シテ人ハ精神ノ寤覺セシモノナリト、果シテ先哲ノ言ノ如キカ、然ラハ、一大精神ノ宇宙ニ充塞スルモノアルコアラヌヤ、形体己ニ他物ヨリ變生ス、靈魂豈他魂ヨリ來現セサランヤ、形体ハ死ト共ニ其源ニ皈ル、靈魂亦豈還滅セサランヤ、果シテ然ラハ、吾人ハ理學ノ真理ニ從ヒ、宇宙ハ不變堅牢ナリトノ思想ニ戾ラス、能ク吾人々間ノ成リ立チヲ説明スルヲ得ベシ、

撒拉仙人モ亦東方諸國ノ例ニ從ヒ、此大精神ヲ名ケテ大活智ト稱ス、其說ニ曰ク、譬ヘハ雨滴ノ海水ヨリ來テ、又之ニ還ルカ如ク、靈魂モ亦大活智ヨリ流轉來現シテ、遂ニ又之ニ還入スルナリ、此大活智ハ、即チ是レ上帝ナリト、以テ撒拉仙人中ニ流轉還滅說ノ盛ナルヲ証スヘシ、

已ニ前ニ論スルカ如ク、此流轉還滅說中ノ一ハ、釋迦牟尼佛、巧妙ナル法ヲ以テ、之ヲ印度ニ擴演シ、以テ佛教ノ大法則ヲ包括セリ、而シテ他ノ一說

佛譯ニハ、他ノ一說ハ、亞比朗士ノ勢力ヲ以テ、撒拉仙ニ弘宣セリトアリ

ハ、亞比朗士氏之ヲ撒拉仙ニ弘宣ス、然レモ、其勢力ハ稍、甲ニ劣レリ、願フニ歐洲人ハ、該說ノ本師ヲ見スシテ、唯亞比朗士氏ヲ見ルモノ、如シ、何トナレハ、氏ヲ以テ該說ノ教主ト爲セハナリ、但シ回々教徒ハ、乃チ然ラス、唯氏ヲ以テ亞勒山德黎亞理蠻說ノ擴張者、即チ亞里斯度德氏ノ註解者トナスニスキス、左ノ數節ハ、真、勒南氏ノ著書「ヒストリカル、エッセイ、オン、アペルロイスム」(亞比朗士學)中ノ抄録ナリ、以テ撒拉仙人ノ思想ノ前節所論ニ相似タルヲ見ルヘシ、云ク、

該學派ノ所說ニ曰ク、人若シ死スレハ、其智源即チ靈魂ハ、世靈(活智)若クハ世心(名附ク)即チ上帝ニ還入シテ、又別立スルモノニ非ラス、蓋シ靈魂ハ、其初メ彼レ(上帝)ヨリ流轉來現セシモノナレハナリ、抑、コノ世靈即チ活智ト云フハ、其体不造不壞ニシテ、又無始無終ノ物ナリ、故ニ、一私人ノ靈ノ増減ニ因テ、其増減ヲナスヘキニアラス、世靈

ハ全ク物体ニ異ニシテ、宇宙ニ周遍充塞スル靈氣ナリ、コノ獨一活智、即チ唯一理致ハ、正ニ是レ亞比朗士學派ノ骨目ニシテ、又頗ル回々教ノ極意、獨一神ニ符合セリ、人靈即チ分智ハ、世靈ヨリ流轉セシモノニシテ、或ハ之ヲ人心ト稱ス、倉卒之カ見解ヲ下スルハ、人心ハ形体ト共ニ死亡消滅スルモノニ似タルモ、若シ活眼ヲ開テ之ヲ見レハ、大ニ之ニ異ニシテ、人心ハ其大源ニ還入スルヲ知ルベシ、一人死スルルキハ、一魂其源ニ還ル、一魂還滅シ終ッテ一魂又還滅ス、終ニ萬靈還滅シ尽セハ、宇宙間唯一靈智ノ殘留スルヲ見ルノミ、生命ハ一私人ノ私有ニアラズ、實ニ天地ノ公有物ナリ、人ノ目的ハ、活智即チ理致ニ皈適シ、安樂靜穩ヲ得ルニアルナリ、之ヲ人靈最第一ノ幸福トナス、亞比朗士學派ノ以テ佛教ニ異ナル所以ノ点ハ、甲ハ人魂ハ死後直チニ世靈ニ還滅スルモノト説キ、乙ハ漸ヲ以テ纒カニ還入シ、以テ涅槃無爲ヲ証スト教

ユルニアリ、

古來世界ノ総理ニ就テ二説アリ、第一説ニ云ク、神アリ人魂ヲ製ス、故ニ人魂ハ不死ナリト、第二説ニ云ク、無形智、即チ不可思議ノ上帝アリテ、人魂ヲ流出轉現シ、又之ヲ還滅セシムト、有情ノ元始ニ就テ、又二説アリ、甲ハ云ク、上帝、空無一物ヨリ之ヲ創製スト、乙ハ云ク、前存ノ形体ヨリ發生スト、前説ハ〔創世記〕（耶穌教經典ノ第一ノ卷ヲ云フ、）ノ所論ニシテ、後説ハ醇化論ノ所説ナリ、

理學ノ方向ハ、印度、支那、其他東洋各國ニ於ケルカ如ク、亞刺伯人中ニモ亦同一ノ方向ヲ取リ、物質勢力ノ不滅ヲ以テ其根據トナシ、人体ノ宇宙物質ヨリ來現シテ、死后復之レニ還皈スルカ如ク、人心モ亦圓滿大智即チ上帝ヨリ流轉シ來テ、又之ニ還滅シ去ルヘキノ理ヲ説ケリト

既ニ流轉還滅説ニ就テ、理學上ノ要点ヲ詳説セリ、今聊カ之カ歴史ヲ説カント欲ス、舊史ヲ繕ヒテ之ヲ案スルニ、抑、流轉還滅説ハ、西班牙ノ亞刺伯人之ヲ歐洲ニ導キ、漸クニシテ其學者社會及ビ其他ニ傳播セリ、初メ、西班牙ハ實ニ之カ焦点トナリテ、大ニ布教弘宣セラレシト雖モ、后、遂ニ言フニ忍ヒザルノ慘狀ニ陷キレリ、

回々教主ノ西班牙ニアルヤ、前苑ニ百花ノ爛熳タルアリ、後樓ニ美人ノ窈窕タルアリ、金衣玉食、亞細亞ノ富豪ヲ極メタリト云フヘシ、其市街ニハ燈臺アリ、敷石アリ、其家屋ニハ壁畫アリ、毛氈アリ、九夏三伏ノ日ハ暑熱ヲ銷スル爲メニ、管ヲ花床ニ伏セ、以テ香風ヲ引クアリ、嚴冬五寒ノ夜ハ、寒冷ヲ避クル爲メニ、煖爐ヲ室ニ設ケ、以テ温暖ヲ取ルアリ、其他混堂アリ、文庫アリ、食堂アリ、又清水泉アリ、水銀泉アリ、而シテ其都鄙ヲ云ハス、宴席ニハ、必ス琵琶三絃ノ舞樂アリ、撒拉仙ハ乃チ然ラス、當時其比隣諸

州ハ、上ノ如ク、鯨飲牛食、乱舞狂蹈以テ、日子ヲ消セシト雖モ、撒拉仙ハ飲酒ヲ禁シ、狂舞ヲ停メ、唯嚴肅清閑ヲ尙ヒ、風韻ハ或ハ現時ノ歐洲ニモ超ヘタリ、彼ノ安太留西亞ノ清光掬スヘキ月夜ニ方テ、或ハ軍談ヲ前圍ニ聽キ、或ハ理論ヲ後圍ニ諍フ、蓋シ其意以爲ラク、若シ今世ニ於テ、充分ノ果報ヲ受ケテ了ラハ、未來世ニ更ニ何物ヲ受ケンヤ、今世ノ苦勞ハ、是レ未來世ノ安樂ヲ求ムルノ因ナリ、未來世ノ安樂ハ、勞力後直チニ來ルモノニ非ラス、吾人ハ浮生ノ苦難ヲ忍ソテ、來世ノ歡樂ヲ欣フモノナリト、第十世紀ノ回教々主哈建第二世ハ、安太留西亞ヲ以テ世界ノ極樂トナセシ人ナリ、氏ハ又大ニ財ヲ擲テ理學ヲ振起シ、宮中ニ製本所ヲ設ケテ、謄寫生、及ヒ綴冊家等ヲ扶持ス、又亞細亞、阿非利加ノ諸大首府ニハ、悉ク書籍購求委員ヲ派遣シテ、衆書ヲ集聚セシム、故ニ、其文庫ニ藏スルノ書籍ハ、無慮四十万冊ノ多キニ及ヘリ、其人才ヲ登庸スルヤ、其產地ノ東西ヲ

問ハス、其奉教ノ彼我ヲ論セズ、苟シモ才識アルモノハ、悉ク之ヲ用ユ、後
ナ羅馬法王タリシ及爾伯德氏、并ニ耶蘇教ノ高僧、彼得、日、別、禮、武、爾、氏
等ノ如キモ、始メ皆哈建教主ノ拔ク所タリ、彼得ノ曰ク、哈建教主ハ、野蠻
不列顛ノ如キ國ヨリモ、尙其天文家ヲ拔擢セリト、以テ人才ヲ拔クノ偏
ナラサルヲ見ルヘシ、

此時ニ方テ、亞細亞、阿非利加、西班牙ノ回々教妄信者ハ、其學者ヲ敵視ス
ルノ氣焰漸ク熾ニシテ、就中、我コソ金剛信者ナレト自稱スル人ハ、回々
大教主亞爾、麻滿氏ヲ大惡王ナリト誹謗シ、其靈魂ノ冥罰ヲ蒙ランコト
ヲ思ヘリ、蓋シ亞爾、麻滿氏ハ、亞里斯度德氏及ヒ希臘ノ異端書籍ヲ取テ、
普ク之ヲ人民ニ頒布シ、且ツ大地ハ球狀ナリ、予ハ其周圍ヲ測量スルヲ
得ルトテ、大ニ天堂地獄ノ說ヲ破セシ人ナレハナリ、

時ニ亞爾、麻滿爾ナルモノアリ、密カニ回々教主ノ位ヲ窺窺ス、今愚民ノ

氣焰益熾盛ナルヲ見テ、忽チ身ヲ投メ其首領トナリ、哈建教主ノ太子ヲ
貶シテ其位ヲ奪フ、更ニ令シ哈建文庫ヲ開キ、其理學書ハ悉ク之ヲ路傍
ニ焚キ、或ハ之ヲ殿中ノ池水ニ投セリ、亞比朗士翁モ亦叛宗ニ坐セラレ
テ、西班牙ヲ追ハル、翁ハ耶蘇紀元一千百九十八年ニ死ス、是ニ於テ、宗教
徒ハ再ヒ實學ヲ壓シテ、滔々タル回々教界ハ、悉ク實學ノ仇敵トナレリ、
故ニ理學家ニシテ、能ク之カ刑戮ヲ免ル、者ハ千人中尙其一アルヲ見
ザルナリ、甚シキニ至テハ、斬罪ニ處セラレシモノアリ、顧フニ、回々教徒
中、往々ニ僞信者ノ多キヲ見ルハ、職トシテ此ニ因スルナリ、
亞比朗士學派ハ、密カニ以太利、日耳曼、英吉利ニ逃レ入り、大ニ佛蘭西斯
教派ノ喜フ所トナル、又巴理府ニ於テハ、其大學校ヲ以テ之ガ焦點トナ
シ、大ニ識者ノ信ヲ得タリ、然レモ、一利一害ハ世事ノ免レサル所ニシテ、大
ニ佛蘭西斯教派ノ敵手タル、達美尼格教派ノ爲メニ嫌忌セラル、其嫌忌

スルモノ、説ニ云ク、コレ人ノ品位ヲ毀ヒ、宿命論フナダリムス、万物各、避クヘカラサ
 説ニ誘惑シ、吾人々智ノ發達ヲ妨クルノ説ナリ、彼レ世界ニ唯一ノ周遍
 智アリト云フハ、聖賢ノ明德ヲ貶シテ、庸人愚者ニ均シカラシムルモノ
 ナリ、嗚呼何物ノ痴漢カ、彼得ノ聖靈ハ、入達士ジューダスノ惡魂ト同等ナリト云フ
 ヤ、亞比朗士ハ創世、天命、神託、三位一體、蘇生、及ヒ不死説ヲ破シ、祈禱、供物、
 禮拜ノ利益ヲ疑難シ、唯安樂ヲ以テ無上最勝ノ福トナスナリト
 當時、世界第一ノ智族タル希伯來族モ、亦大ニ亞比朗士學派ヲ喜フノ勢
 アリ、其大著述家、馬以母尼底士マイモニデス氏ノ如キハ、尤モ之ヲ信奉シ、其門下博ク
 之ヲ四方ニ播布ス、妄信固陋ノ希伯來人、見テ大ニ之ヲ怒リ、從來氏ヲ稱
 讚シテ、博士中ノ鷲、大聖人、西州ノ泰斗、東國ノ晃耀ナリトシ、古今氏ニ勝
 ルモノハ、唯摩西アルノミト云ヒシニモ拘ハラズ、今ハ翻然トシテ氏ヲ
 謗テ曰ク、彼レハ亞伯拉罕ニ背キ、創世記ヲ捨テ、神威ヲ掠奪シテ、之ヲ畏

敬セズ、上帝ハ空無ナリ、之ヲ祈ルモ其益ナシ、豈何ソ世界ノ保護ニ關ラ
 ノヤトノ悖戾説ヲ吐キ、以テ破神家ヲ教唆スルノ惡漢ナリト毀譽ノ反
 覆亦甚シカラスヤ、加之門多、希里亞爾佛蘭西南部、佛蘭佛蘭西南部、一市街、
 多禮士上ノ回々教會ハ、悉ク氏ノ著書ヲ火ニセリ、
 法耳的難王エハダ及ヒ依撒伯女王ノ強兵、西班牙ノ亞刺伯領ヲ零スルヤ、羅馬法
 王ハ其機ニ乘シ、直ニ亞比朗士派ヲ斷滅セシメ、之ヲ企圖シタリキ、
 以諾森ビシロツ第四世耶蘇紀元千二百四十三年初メテ地方卑涉ノ裁判所ノ外、
 新ニ教法裁判所ト稱スル裁判所ヲ、以西、日、及ヒ南佛蘭西ニ設ケ、以テ異
 教ヲ裁判セシム、卑涉等見テ喜ビズ、以爲ク、是レ我權限内ニ蠶食スルナリト
 ト、又俗王ハ該裁判所ヲ以テ、己ガ政權ヲ擴張スル具トナサント欲ス
 レ、法王之ヲ肯セザリキ、
 佛蘭西南部ノ裁判所ハ、其効豫想ノ外ニ出テ、頗ル異教ヲ壓スルヲ得タ

リ、故ニ更ニ之ヲ亞拉岡(西班牙ノ一州ナリ)ニ開キ、專ラ猶太教ヲ撲滅スルコトヲ以テ之ニ任セリ、

昔時維西哥斯族ノ希伯來人、即チ猶太教徒ヲ治ムルヤ、法令極メテ寛大ナリキ、然レモ維西哥斯族ノ一朝亞里亞尼教ヲ(耶蘇教中ノ一派ニシテ、耶蘇ハ人類中ニ於テハ、最上ノ人ナリト雖モ、既ニ其聖父ノ所造ニ係ル故)去テ、耶蘇教熱信者トナルニ亦聊カ聖父ニ及ハサル所アリト云フモノ)ニ及ンテ、其之ニ接スルコト甚タ苛酷ナリ、結局之ヲ貶シテ奴隸トナス、故ニ撒拉仙軍入寇ノ時、希伯來人カ之ニ内應セシハ、固ヨリ異シムニ足サルナリ、希伯來族ト亞刺伯人トハ、同シクコレ亞細亞人ニシテ、共ニ均シク亞伯拉罕ヲ祖トス、加之、其奉スル所ノ宗教モ、亦同シク獨一神教ナリ、コレ其主人公維西哥斯族ヲシテ、怒ラシメシ所以ノモノ歟、撒拉仙政府ノ希伯來族ヲ治ムルヤ、極メテ寛仁ナリ、故ニ希伯來族ハ富豪博識ヲ以テ宇宙ニ聞フ、或ハ夥多ノ小中學校ヲ開テ、亞里斯度德學派

ヲ起シ、或ハ遠ク世界ヲ遊歴シテ、貿易ノ利益ヲ收聚ス、中古歐洲ノ醫師及ヒ銀行ハ、獨リ該族ノ專ラニスル所ナリキ、故ニ當時醫師、若クハ會計家ノ王宮ニ出入スルヲ見ルニ、一トシテ該族ノ人ニアラサルハナシ、其他算術、美術及ヒ天文ヲ研究シ、亞豐蘇表ヲ製シ、德加馬ヲシテ周航セシムルノ原因タリ、故ニ第九世紀ヨリ第十三世紀ニ至ルノ間ハ、該族ハ歐洲文明ノ泰斗ト云フヘシ、

那瓦爾(西班牙ノ州名)ノ僧侶等、希伯來族ノ博識ナルヲ嫉ミ、愚民ヲ教唆シテ之ヲ敵視セシム、希伯來族其暴ヲ避ケンカ爲メニ、或ハ僞テ耶蘇教徒トナル、加丁留(西班牙ノ一部ニシテ、第十)朝ニ駐劄スル法王ノ使節ハ、人民ヲ煽動シテ教法裁判所ノ復立ヲ要求セシメ、希伯來人ノ貧者ハ、之ヲ陪ルニ其教祭禮ニ於テ、子弟ヲ犠牲ニ供セリト云フヲ名トシ、其富者ハ、之ヲ坐スルニ亞比朗士學派ノ信徒タルヲ口實トシ、併セテ之ヲ磔殺セリ

依撒伯女王又其寵僧達美尼格教派達耳野馬太ヲシテ、教務局ノ設立ヲ
 法王ニ乞ハシム、法王之ヲ好ミシテ、耶蘇紀元一千四百七十八年九月、異
 教禁止ノ勅詔ヲ發シ、且教法裁判所ノ設立ヲ認可ス、其創立ノ初年、二千
 人ヲ安太留西亞ニ烙殺シ、數千ノ屍骸ヲ撥キ、之ヲ郊外ニ燻キ、一万七千
 餘人ヲ獄ニ下セリ、故ニ老幼相率テ逃ル、モノ、幾十萬ナルヲ知ラス、後
 ナ達耳野馬太、自ラ加斯丁留並ニ禮昂(西班牙ノ)一大都府(西班牙ノ)ノ大判事トナルニ及ン
 テ、暴威益々甚シ、人ヲ坐スルニ其實ヲ覆ヒ、法ヲ案スルニ其條ニヨラス、猥
 リニ拷問ヲ以テ口供ヲ追取シ、巧ミニ偽仁ヲ示シテ傍聽者ヲ籠絡ス、被
 告ヲ訊問スルハ洞窟ニ於テシ、以テ苦聲ヲシテ外ニ漏ラセバ、シム、若
 シ伴坐傍聽人アルキハ、温言ヲ以テ之ヲ審理ス、陽ニ慈仁ノ假面ヲ懸ク、
 而シテ其服罪者ノ遺族ハ、之ヲ放任シテ路傍ニ死セシム、郎連德氏ノ教法
 審判史ニ曰ク、達耳野馬太及其同僚ハ、人ヲ烙殺スルコト一万二百二十

屍ヲ燒クヲ六千八百六十、而シテ人ヲ懲罰スルヲ九万七千三百二十一ナ
 リト、殘忍モ亦極マレリト云フヘシ、其他希伯來教典若干卷ヲ破毀シ、亞
 細亞文學六千冊ヲ撒(撒拉滿加)一市街(西班牙ノ)ニ於テ火ケリ、此等ノ虐政尙恕ス
 ヘシト雖也、彼レ法王政府カ、莫大ノ黃金ヲ貪リテ、教法裁判ヲ免ル、ノ、
 特赦狀ヲ販賣セシニ至リテハ、口伐筆誅セントスルモ、尙口筆ノ汚レン
 コトヲ恐ル、ノ、賤術ト云フヘシ、

前記ノ虐術其効ヲ誤マリ、改宗スルモノ殆ント稀ナリ、達耳野馬太ニ
 怒リ、耶蘇紀元千四百九十二年、三月三十日ヲ以テ、未タ洗禮ヲ受ケサル
 希伯來族ハ、老幼男女ヲ問ハス、貴賤貧富ヲ論セス、當七月限りニ、當國ヲ
 退去スヘシ、若シ本國ニ潛伏復歸スルモノアラハ、首ヲ斬テ其罪ヲ治メ
 シ、家産諸器具ハ、之ヲ賣却スルモ妨ケナシト雖也、物品若シハ、貿易券
 ヲ以テスルノ外、之ガ代金ヲ受領スルヲ得ス云云ノ令ヲ頒布セリ、嗚呼

數世祖先ノ故國ヲ追ハル、希伯來族ノ困難、果シテ如何ツヤ、市場ハ物
品山積スト雖トモ、一ノ購求人アルコトナシ、宜ナル哉、コレ等ノ物品ハ、
七月ヲ過レハ、無代價ヲ以テ自由ニ購求スルヲ得レハナリ、街衢ニハ、西
班牙僧侶ノ窮民將ニ號泣ノ聲ヲ以テ、空中ニ轟カントスルノ窮民、即希
伯來族ヲ譏謗スルアリ、其狀恰カモ猛虎ノ病羊ヲ驅ルカ如シ、當時西
牙國ノ局外人民スラ、尙且、彼等カ薄命ヲ悲ムモ、達耳野馬太ハ敢テ之ヲ
顧ミルコトナク、更ニ左ノ一命ヲ嚴達セリ、

今般希伯來族、追放申附候ニ付テハ、何様ノ事有之候共、慙憐相加ヘ候
儀、堅ク不相成候事、

是ニ於テ、希伯來族ハ、或ハ難ヲ佛蘭西ニ逃レ、或ハ食ヲ以太利ニ求メ、或
ハ縁ヲ土耳其ニ尋ヌ、而シテ其一小部分ハ、遠ク英吉利ニ走レリ、其以太
利ニ至ル者ノ如キハ、航海中熱病ヲ發シテ、之ヲ那不勒以國ノ一ニ傳染

セシメ、該府民ノ之ニ死スル者三千餘人、大ニ以太利半島ニ禍セリ、
耶蘇紀元一千五百〇二年二月、紀費爾府モ（當時西^レ班牙）母兒士族追攘
令ヲ發セリ、其令ニ云ク、

- 一 加^カ斯^カ丁^カ留^カ王國及ヒ禮^レ昂^カ王國ニ住居候母兒士族丁年以上ノ者ニシ
テ、未^レマ洗禮ヲ受ケサル輩ハ、當四月限り、當國退去申附候事、
 - 一 諸道具類ヲ賣却候事ハ、可爲勝手儀ニハ候得共、其代價トシテ、金銀
ヲ受取候儀ハ、堅ク不相成候事、
 - 一 一回々教國へ移住スル儀、決シテ不相成候事、
- 右ノ條々堅可相守候、若シ違背有之ニ於テハ、屹度死刑可申附候條、此
段豫メ布告候事、

是ニ由テ之ヲ觀レハ、母兒士族ハ、希伯來族ヨリモ尙一層ノ苛遇ヲ蒙リ
シモノナリ、母兒士族ハ、實ニ回々教國ニ行クノ自由ヲ失ヘリ、西^レ班牙ノ

丹津曰、予輩皇國臣民、記此一節、不忘則庶幾不損我國威。

耶蘇教徒ハ以爲ラク、母兒士族己ニ上帝ヲ信セサルノ大罪アリ、故ニ我政府ハ之ヲ殺戮スルノ權アリト、暴戾モ亦甚シカラズヤ、
嘗テ母兒士族ノ世ヲ治ムルニ方テ、耶蘇教ヲ遇スルヲ極テ厚シ、今ヤ耶蘇教徒ハ、德ニ酬ユルニ仇ヲ以テス、嗚呼之ヲ何トカ云ハンヤ、且ツソレ觀
拉拿太(西班牙中ノ一州ニシテ)ノ地タルヤ、政教自由ノ約ニ因テ、之カ屬領タルヲ肯セシ地ナリ、然ルニ、君牧師希買尼士第二世依撒伯女王ノ國師ノ教唆ニ因テ、一朝此約束ヲ破毀シ、八百年來ノ古國ヨリ、回々教徒ヲ追フニ至ル、信義ヲ犧牲(無力)ニ尽スモノナシトハ、是ヲ之レ謂フ歟、
耶蘇、回々、摩西、三教ノ安太留西亞ニ鼎立セシハ、コレ亞比朗士學派、即チ亞利伯理學ヲ發育スルノ好機會ナリキ、其狀恰モ、前キニ羅馬カ、其新屬國ノ諸神ヲ集メシキ、諸神其靈ヲ失ヒシモノニ髣髴タリ、亞比朗士氏ハ世人初メ之ヲ呼ンテ、回々教徒トナシ、次ニ耶蘇教ノ信者トナシ、次ニ猶

太教ノ門徒トナシ、遂ニ無信ノ徒トナセリ、
〔ゼ、イハラスチング、ゴスバル〕并ニ〔デー、ツリビユース、インボストリビユス〕ノ二書ハ、中古ニ有名ナル異端書ナリ、其中、インボストリビユスハ、或ハ及爾伯德法王ノ撰ト云ヒ、或ハ第二世非勒得力玉ノ著ト云ヒ、又ハ亞比朗士氏ノ著ナリト云フ、孰レカ其是ナルヲ知ラス、但シ耶蘇教徒ハ、偏ヘニ之ヲ亞比朗士氏ノ著書トナスナリ、氏ノ著書ハ、第十三世紀ノ初メ、
密查兒蘇格之ヲ翻譯シテヨリ、大ニ歐洲耶蘇教國ニ流布ス、然レモ、歐洲ニモ亞細亞ノ如ク、前ニ其說ナキニアラス、予ハ己ニ以利日那氏カ熱心之ヲ主張セシ事ヲ記セリ、
抑、彼ノ流轉還滅ノ說ハ、人智進歩スルニ從フテ、自然ニ發生スルノ說ニ非ラス、獨リ亞里斯度德氏ノ卓見、能ク之ヲ發明シタルモノナリトシテ、上等社會ハ大ニ之ヲ稱讚シタリ、(第十二世紀ノ希伯來族ハ、其教祖亞里

斯度德氏アルヲ知ラス、唯其中與亞比朗士氏ヲ以テ、之カ教祖ト誤認セリ、格羅士底多、羅伯氏、羅及、倍根氏(共ニ英國ノ高僧ナリ)、及ヒ斯比那撒氏(葡萄牙)ノ如キハ、大ニ之ヲ尊奉ス、從フテ耶蘇教國ノ改宗者頗ル多シ、故ニ第四世歷山法王(耶蘇紀元一千二百五十五年)阿爾伯多士(馬格那)、(達美)教派(學)ニ命シテ、(駁周遍智論)一部ヲ著セシメ、靈魂原質ノ如何ヲ論シ、不生不滅ノ光明ヲ、靈魂トナスノ分智說ヲ辨難セシム、然レモ、尤モ巧ニ、唯一周遍智論、非天道說、駁創世記等ヲ辨駁セシハ、(聖藤馬士)亞幾那士(達美)尼格教派(徒ニシ)ニ如クモノナシ、此亞全格、達哥德(即チ聖藤馬士)名ヲ亞全格、達哥德ト稱ス、ニ如クモノナシ、此亞全格、達哥德(士)亞幾那士(勝利)ハ、皆ニ達美尼格教派ノ諍論ニ著名ナルノミナラス、佛稜(以)太利(ナ)及ヒ擺沙(亦以)太利(ノ)繪畫ニ於テモ、亦高名ナリ、此等ノ市府ニ於テハ、達美尼格教派ノ教唆ニ因テ、各戶皆大審判日、或ハ地獄ノ畫卷、若シツハ、壁畫ヲ藏ス、此ノ卷軸等ニハ、概チ亞比朗士氏ノ像ヲ模寫ス、擺沙ニ一畫

アリ、其圖亞比朗士、亞里亞士及ヒ馬哈獸ノ三氏ヲ寫シ、之レヲ耶蘇教敵(ノ)集像ト題セリ、又聖藤馬士(カ)亞比朗士氏ヲ投倒セシノ圖アリ、人、聖藤馬士氏ノ勳功ヲ稱スルモノハ、常ニ亞比朗士ヲ以テ必須ノ材料トナス、(ユ)レ皆達美尼格教派ノ教唆スル所ナリ、第十六世紀ニ至テ、亞比朗士氏ノ像ハ、漸ク跡ヲ以(太)利(畫)ニ絶テリ、然レモ、氏ノ所說ハ、第十七世紀ニ至テ、猶ホ巴若亞府(北)以(太)利(ノ)一市街ニシテ、威(納)斯(ノ)西二十英里ニアリ、(大)學校ニ盛ナリキ、聖藤馬士氏ノ時ニ方テ、歐洲耶蘇教徒ノ、亞比朗士學派ニ入ルモノ少ナカラス、氏以爲テ、亞比朗士學派ハ、其不信ナルヲ回々教ヨリモ甚シト、故ニ唯耶蘇教徒ノ、該學派ニ入ル者多キノ一事スラ、以テ氏ヲシテ憤怒セシムルニ足ル、況ンヤ自派ノ敵手タル、佛蘭西斯教派ノ、該學派ニ傾向スルノ情勢アルニ於テ、尤モ危險ナル學風ノ開祖トナシ、三教上ニ有害(詩)ハ、亞比朗士氏ヲ以テ、尤モ危險ナル學風ノ開祖トナシ、三教上ニ有害

ナル事ハ、之ヲ悉ク、亞比朗士氏ノ罪ニ皈シ、且、宗教ハ世ニ少補ナキニア
 ラスト雖也、事實決シテ信スヘキモノニアラスノ一句ハ、之ヲ亞比朗士
 氏ノ所言ト判セリ、又維也納ノ公會ハ、亞比朗士氏ノ著書賣買禁止令ヲ
 發シ、苟モ耶蘇教ノ徒ヲラソモノハ、決シテ之ヲ讀ムヘカラサル旨ヲ布
 告セリ、達美尼格教派ハ、教法裁判所ノ甲冑ヲ粧ヒテ、大ニ歐洲耶蘇教國
 ヲ橫行シ、當時ノ不信者ヲ以テ、悉ク亞刺伯理學ノ所爲ニ皈シ、頗ル之ヲ
 駁撃セリ、然レモ、巴里及北以太利等ノ佛蘭西斯教派ハ、大ニ亞比朗士學
 派ニ助勢シタレハ、宗教上ノ戰塵ハ、一時歐洲ヲシテ騰騰タラシム、
 以上述フル所ハ、亞比朗士學派ノ、西班牙ニ起リテ、歐洲ニ侵入セシモノ
 、零史ナリ、外ニ第二世非勒得力王羅馬帝王第四ノ保護ニ依テ、西、西里
 島ヨリ侵入セシモノアリト雖也、其勢力第一隊ニ及ハサルヲ遠シ、此非
 勒得力王ハ、其著書「西西里問答」ニ於テ、世界ハ不朽ナル乎、靈魂ノ性質ハ

如何等ノ諸問ヲ揚ケ、以テ博ク其答ヲ探索セシカ、遂ニ其答ヲ以テ文查イブツカヒ電
 氏流轉還滅主張家ノ一人ナリ、ノ著書ニ得タリ、コレヨリ後、王ハ深ク該
 說ヲ信シ、頗ル其弘宣ニ盡力セリ、然レモ不幸ニ怨ヲ法王ニ結ヒ、遂ニ
 之カ滅ス所トナル、王亡ヒルノ後、異教者流轉還滅說ヲ主モ亦亡滅セ
 リ、
張スル人ヲ云フ

上以太利ノ亞比朗士學派ハ、永ク其位地ヲ維持シ、威納斯ノ貴族ハ、該說
 ヲ知ラサルキハ、他ノ侮辱ヲ蒙ル程ノ勢ヒナリシモ、遂ニ寺院ノ處分スル
 所トナリ、耶蘇紀元千五百十二年、拉丁蘭公會ハ、之ヲ擯斥スヘシト布告
 ス、然レモ、此等ノ嚴令アルニモ拘ラス、世界過半ノ人類ハ、尙該說ヲ以テ
 眞トスルノ一事ハ、吾人ノ深ク腦漿ニ銘シ置クヘキコトナリ、

第六章 世界説ノ軌轍

經典ノ説ニ據レバ大地ハ平面ナル事 附 天堂地獄所在位置ノ事
 實學ノ説ニ從ヘハ地形ハ圓ナル事 附 其大小ノ事○大陽系統
 中地球所在位置ノ事 附 其關係ノ事○閻龍德、加馬、馬基蘭ノ三大
 航海ノ事 附 地球周遍航海ノ事
 歌白尼孤發明ノ事○望遠鏡新發明ノ事○駕里良、教法裁判所ニ
 召喚セラル、事 附 其所刑ノ事○諸寺院大ニ失敗スル事○太陽
 系ノ大小廣狹ヲ測量セント企ツル事○金星ノ經過ヲ見テ太陽
 ノ變位ヲ測ル事○宇宙ノ鴻洪ナルニ比スレハ地球人間ハ極メ
 テ卑小ナル事
 宇宙ノ大小廣狹ニ就テノ諸説○星辰變位ノ事○貌路那世界許
 多アルノ説ヲ主張スル事○教法裁判所貌路那ヲ捕ヘテ之ヲ火

第六章 世界説ノ軌轍

經典ノ説ニ據レバ大地ハ平面ナル事 附 天堂地獄所在位置ノ事
 實學ノ説ニ從ヘハ地形ハ圓ナル事 附 其大小ノ事○大陽系統
 中地球所在位置ノ事 附 其關係ノ事○閩龍德、加馬、馬基蘭ノ三大
 航海ノ事 附 地球周遍航海ノ事
 歌白尼孤發明ノ事○望遠鏡新發明ノ事○駕里良、教法裁判所ニ
 召喚セラル、事 附 其所刑ノ事○諸寺院大ニ失敗スル事○太陽
 系ノ大小廣狹ヲ測量セント企ツル事○金星ノ經過ヲ見テ太陽
 ノ變位ヲ測ル事○宇宙ノ鴻洪ナルニ比スレハ地球人間ハ極メ
 テ卑小ナル事
 宇宙ノ大小廣狹ニ就テノ諸説○星辰變位ノ事○貌路那世界許
 多アルノ説ヲ主張スル事○教法裁判所貌路那ヲ捕ヘテ之ヲ火

殺スル事

前章已ニ第二譯ヲ畧説シ了ル、今當ニ進テ第三譯、即チ世界ノ性質如何ノ問題ヲ説明スヘシ、

夫レ宇宙ノ現象ヲ看過シ去ルキハ、地ハ平カニシテ廣ク、天ハ圓カニシテ之ヲ覆ヒ、以テ天水ト地水トヲ分界シ、日月星辰ハ、其體小ニシテ、東西ニ旋轉ス、就中、人ハ萬物ノ靈ニシテ、庶物皆之ニ附屬ス、而シテ日月星辰ノ如キモ、亦之ニ光明ヲ呈スルノ一物ニ過キストノ説ハ、頗ル其當ヲ得タルカ如シ、

比較神學(諸ノ神學ヲ比較對照スル學問ヲ云フ)ニ依テ之ヲ案スルニ、人智未タ開ケス、文明未タ進マサルノ古代ニ方テ、常ニ世ノ尊信ヲ得シハ、シオセントリックニ以テ、宇宙ノ中(アングロポセントリック)人ヲ以テ、萬物ノ心主體トナス説(靈長トナス説)ノ兩説ニ過ルモノナシ、コレ皆ニ世界ノ事理ニ暗キニ因テシカルノミニ非ス、抑亦

宗教默示ナル者ハ、此説ヲ以テ基礎トナスニ因テナリ、而シテ、默示ノ所説ハ、尙之ヨリ甚シキモノアリ、曰ク、彼ノ蒼天ノ上ニ歡樂天ナル者アリ、其天ノ光明ハ、尽クル期ナク、上帝ノ宮殿アリ、神使ノ邸宅アリ、又吾人死後ノ住家アリ、而シテ大地ノ下ニ常夜ノ苦國アリ、是レ惡人死後ノ住所ナリト、是レ耶蘇教ノ以テ其基礎トナスノ説ナレハ、信徒其利害ヲ感スルヤ、固ヨリ少々ニアラス、故ニ會、其誤謬ヲ矯正セント欲スル者アレハ、熱心之ニ抵抗シ、甚シキニ至テハ、鮮血以テ之ニ次グアリ、(天堂地獄ノ位置ニ關シ、頗ル人位ヲ損害スルノ恐レアレハナリ)

夫レ入ノ天地ニ俯仰シ、其理ヲ考究スルニ當テヤ、(古説ノ誤謬ヲ矯正セント欲スルハ、亦已ヲ得サルノ勢ト云フヘシ)皆必ス以爲ラク、大地ハ實ニ無限ノ平面トイハマ、日々吾人ヲ照ス所ノ太陽ヲ異ニセサルヲ得ス、然ルニ決シテ此理ナシ、然ラハ則チ、其日々ニ出沒スル所以ノ者ハ何シ

ヤ、他ナシ、是レ毎夜大地ノ下面ヲ經過シ、以テ東天ニ昇ルニ過サルノミ、此理ヲシテ果シテ實ナラシメハ、大陽ハ何レ其經過スル所ノ大地ノ下面ヲ照サ、ルコトヲ得ンヤト、此思想ハ、既ニ大地ノ球形ナル理ヲ含蓄スルモノニアラスヤ、

大地無限ニ廣キカ、大陽何ヲ以テ東隅ニ還ル、若シ一小穴ノ之ヲ通スヘキモノアリトセンカ、四時ノ出沒其所ヲ一ニセス、况ヤ無數ノ星辰、循環過ム時ナキニ於テヲヤ、故ニ曰ク、地下必ス大道ナカルヘカラスト、
耶蘇教徒ハ、此等ノ新説ヲシテ、默示ニ符合セシメント欲シ、種々ノ術ヲ尽セリ、即チコスマスイソゴブリアステスハ、(耶蘇教風土記ナルモノヲ作り、之カ答辨ヲナシテ曰ク、平地ノ北方ニ大高山アリ、大陽其背部ニ至テ夜陰ヲ生スト、(九十七、八ノ二丁)ヲ參看スベシ)

凡ソ物八方ヨリ之ヲ照スニ、其影同ク圓滿ナルキハ、其物體モ亦圓滿ナ

ラサルヲ得ス、吾古今ノ歴史ニ據テ之ヲ徵スルニ、月蝕ハ大地ノ影ニシテ、而モ常ニ圓形ナリ、故ニ地球モ亦圓形ナラサルヲ得ス、其他地ノ球形ナルヲ證スルノ諸説ハ、今人ノ昔ク熟知スル所ナリ、然リト雖モ、唯地形ノ變定ハ、未ダ以テ其主體ナルヲ妨クルニ足ラス、地球ハ他ノ萬物ヨリ大ナルカ如ク、萬物ハ之ヲ合スルモ、其大未ダ地球ニ及ハサルカ如クナレハ、地球ハ實ニ世界ノ中心ナルノミナラス、實ニ唯一世界ナルニ似タリ、
地球説(大地ヲ以テ、球狀圓體ナリトスルノ説)カ、當時ノ耶蘇教思想上ニ及ボセシ影響ハ、大ハ則チ大ナリト雖モ、之ヲ其大小説(大地ノ大小ヲ論スル説)ヨリ及ボスモノニ比スレハ、實ニ些少ナリト云フヘシ、抑、地球表面ニ度ノ距離ヲ知レハ、以テ其全體ヲ推測スルヲ得ルハ、僅カニ幾何學ノ初步ニ通スル者ノ解得スル所ナリ、然ルニ、上古之ヲ測ルモノ多シト雖モ、惜哉其功ヲ奏スルニ至ラ

アルノミ、

亞里士達查士氏以爲ラク、彼坐額拉派、頗ル其實ニ適フト、乃チ之ヲ依用ス、之ヲヘリオセントリックシステムト云フ、即チ太陽ヲ以テ中心主體トシ、地球ヲ以テ、之ヲ廻轉スル六遊星ノ一トナスノ説ナリ、蓋シコレ、太陽ノ距離極遠、形體極大ナルヲ認知セシノ結果ナリ、

亞里士達查士氏カ、天文學ノ賜ヲ貽ス、豈啻此ニシテ止マランヤ、氏ハ地球ノ運動ハ、以テ他ノ遊星チシテ、變位セシムルニ足ラサルモノアルハ、コレ地球ト其遊星トノ距離、之ヲ太陽ト地球トノ距離ニ比スルモ、其幾千倍ナルヲ知ルヘカラサルヲ悟リ、吾地球ハ、之ヲ衆星ノ距離ニ比スルハ、其小、實ニ蒼海ノ一滴ニモ及ハサルヲ識リ、吾人ノ頭上ニハ、虚空ト星辰トノ外、他物アルコトナキヲ信セリ、故ニ拉巴禮士氏言ヘルコトアリ、曰ク、亞里士達查士氏ハ、古來宇宙ノ宏大無邊ナルヲ悟レル第一人ナリト、

古代致知格物ノ道、未ダ進マサルノ時ニ方テ、亞里士達查士氏ノ遊星説ハ、敢テ世ニ用ヒラレズ、而シテ德禮密法ハ、却テ其シノタキヲス、(書ト共ニ、大ニ世ニ賞翫セラル、德禮密氏ヨリ彼坐額拉派、亞里士達查士氏ノ用ヒ

シ説)ニ向テ難スル所數條アリ、其一ニ曰ク、若シ汝カ所説ノ如ク、大地正ニ運動スルモノトセハ、空氣其他ノ輕體ハ、當ニ後邊ニ殘留スヘシト、故ニ氏ハ地ヲ其中心位ニ置キ、月、水、金、日、火、木、土ノ諸星ヲシテ、其周圍ヲ廻旋セシム、而シテ土星ノ軌道以外ハ、之ヲ恒星ノ蒼天トナセリ、以テ當時格物學ノ不完全ナルヲ證スヘシ、

德禮密法ハ之ヲ「ジオセントリックシステム」ト名ツケ、地球ヲ以テ、之カ主體トナスノ法ナリ、故ニ其天體論ハ、能ク回々教、若シハ耶蘇教ノ怨望ヲ避ケ、其名譽ヲ保持セルコト千四百年(第二世紀ヨリ第十六世紀ニ至ル)ノ久シキニ及ヘリ、

或ハ上帝ノ性質ヲ詠ヒ、或ハ教權ノ掌握ヲ争ヒ、或ハ經典ハ事物ノ智識
 ナリト妄信シ、若シ之ヲ疑フモノアレハ、寺權以テ之ヲ壓ス、耶蘇教國ノ
 宇宙ノ理ヲ究メサルヤ久シ、偶々天文ノ問題アレハ、纔カコ之ヲ擧^ト頓^ト士^ト丁^ト
 若クハ落^ト坦^ト查^ト士^トノ著書ニ求メ、又宇宙ノ顯象如何ヲ願ヒス、徒ラニ教法
 學ヲ推尊シテ、世俗學ヲ蔑視ス、千五百年ノ久シキ、耶蘇教徒中、一ノ天文
 家ヲ生スルナキ、亦宜ナラスヤ、
 回々教國民ハ、大ニ之ニ異ナルモノアリ、宗祖ノ死後、僅カニ六年ヲ經テ、
 耶蘇紀元六百三十六年ニ、亞勒山德黎亞府落城ス、此時己ニ其學術研究
 ノ端ヲ開ケリ、後、未ダ二百年ヲラズシテ、能ク希臘ノ理學著述家ノ貴キ
 ヲ知ル、回々教主亞爾、麻滿氏ガ、密查兒第三世ニ乞フテ、德禮密王(シ^ンダ
 キ^オス)ノ寫ヲ得タルハ、予己ニ之ヲ説ケリ、教主ハ速カニ之ヲ亞刺伯譯
 ニ附ス、後、其書ハ大ニ撒拉仙天文學之基柱タリ、撒拉仙入ハ、之ニ依テ以

テ學術上ノ要題ヲ註解シ、地球ノ大小ヲ測リ、衆星ノ目錄ヲ製シ、其最モ
 大ナルモノニハ、之ガ名ヲ付ス、其名ハ當時モ尙吾人ノ天圖、渾天儀ニ存
 スル者多シ、其他一年ノ日數ヲ定メ、天文上光線ノ曲屈ヲ發明シ、振子時
 計ヲ王風シ、度星光器ヲ改良シ、大氣中光線ノ彎曲路ヲ定メ、地平面ニ
 ル日月ノ顯象ヲ説明シ、其出前没後ニ之ヲ見ルノ理如何ヲ究メ、大氣ニ
 高サヲ計リテ、之ヲ十八里ト定メ、東方白及ヒ星光ノ正說ヲ示シ、始メテ
 觀象臺ヲ歐洲ニ建築ス、而シテ其觀天ノ術、頗ル密ナルヲ以テ、拉巴^{ラバ}禮^レ士^シ
 氏ノ如キハ、其著書(システマデユモンド)ニ於テ、亞爾、巴多格尼氏ノ觀察
 ヲ引證シ、以テ地球軌道ノ中心ヲ減スルノ確證トナス、又氏ハ、黃道ノ斜
 傾、及ヒ木星土星ノ不齊(行星ノ正路ヲ失フコトナ^ルハ、以テ文入^ニ泥^ノ說ニ據
 レリ、
 以上ハ、亞刺伯天文家カ、世界ヲ説明セシモノ、一小部分ノニ、然ルニ、耶

蘇教國ハ、只管偶像ノ禮拜、マラノスツブスタチエトシヨシ(化體ト譯
ス、麵包ヲ變シテ耶蘇ノ肉トナシ、酒ヲ化シテ其血トナスヲ云フ)及ビ
不可思議等ノ事ニ惑迷シ、頑然トシテ事物ノ理ヲ放擲シ、敢テ之ヲ顧ミ
ルモノナシ、

第十五世紀ノ終リニ至リテ、他ノ刺衝ヲ受ケ、コ龍シ德カ加マ及ビ法エ耳ル的テ難
馬シ基カ蘭ノ三氏ヲシテ、僅ニ地形ノ疑問ヲ決定セシムルニ至レリ、而シテ
其刺衝ハ、學術上ノモノニ非ス、通商貿易ヨリ生スルモノナリ、

夫レ亞細亞貿易ハ、歐洲各國ノ財府ト云フベシ、中古上伊太利ハ、之カ中
心トナリ、南北兩線ヲ以テ貿易ヲナス、北線ハ治那亞ヲ以テ其主地トナ
シ、黑海及ビ裏海ヲ經テ更ニ駱駝結隊ヲ以テ之ニ通商シ、南線ハ威納斯
ヲ以テ之ガ牙營トナシ、西里亞埃及ノ諸港ヲ經テ、亞刺伯海ニ傍ヒ、之ニ
交易ス、此線ノ諸商人ハ、別ニ十字軍ノ運禮物アリテ、大ニ其金囊ヲ富マ

セリ、

且ツ威納斯人ハ、大ニ西里亞及ビ埃及兩政府ノ愛ヲ博シ、其領事館ヲ亞
勒山德黎亞府及ビ大馬士革ニ設クルヲ得タリ、該所ハ皆兵乱ノ地ナリ
ト雖モ、益々繁榮ヲ極メリ、北線即チ治那亞ハ、大ニ之ニ異ルモノアリ、鞏固
土耳其ノ侵入、及ビ其國ニ生ゼシ軍務政務ノ紛紜ニ依テ、商賈漸ク衰弱
ヲ來シ、商權全ク地ニ墜ントスルノ兆アリキ、

海岸ニ立テ船ノ出入ヲ見ルニ、出船ハ去ルニ從テ漸ク減没シ、入船ハ來
ルニ從テ漸ク現出ス、コレ治那亞航海者ヲシ、大地ノ球形ナルヲ信セシ
メシモノナリ、此思想モ、實ニ回々教中ノ天文家、及ビ理學家ガ歐洲ニ傳
播セシメ、頗ル耶蘇教徒ノ惡ミヲ受ケシモノナリ、治那亞ニ一人アリ、以
爲ラク、若シ彼ノ說ヲシテ真正ナラシメハ、何ツ治那亞商權ノ衰微ヲ惹
ヘンヤ、日巴拉大ノ海峽ヲ過ギ、西ノ方大西洋ニ進航セハ、終ニ東印度ニ

達スベシ、果シテ然ラハ、大ニ陸運ノ勞費ヲ省キ、手ニ唾シテ、以テ治那亞
ノ商權ヲ回復スベシト、此一入トハ果シテ何人ヅヤ、彼ノ哥里士多富閣
龍氏即チ是レナリ、

閣龍氏曰ク、予ヲシテ之ヲ企テシモノハ、亞比朗士氏ノ著書ナリ、而
シテ之ヲ助ケシモノハ、佛稜府ノ人ニシテ、深ク大地ノ球形ナルヲ信セ

シ、多加尼里氏（天文學ヲ研究シ、地球說ノ大家トナリタル人ナリ）是レナ

リト、閣龍氏其利ヲ以テ諸侯ニ遊説スルコト數年、遂ニ西班牙僧侶ノ達

宗ヲ以テ誣告スル所トナリ、撒拉滿加公會ノ判決ヲ受ケタリ、抑該公會

ハ、（舊約全書中、初メ五卷）「アサルム」頌歌（プロフェシー）預言

記（ゴスペル）經典（エピストル）徒弟信書及ビ聖哥里阿士頓氏、聖、埃頓士丁

氏、聖、日羅臺氏、聖、格勒格力氏、聖、巴西爾氏、聖、安伯羅士氏等ノ書籍ニ沈醉

セルモノナリ、

然レモ、氏ハ其志ヲ屈セス、遂ニ西班牙ノ依撒伯女王及ビ巴羅士ノ航海

大家、賓孫一族賓孫家中ニハ、自ラ閣龍氏ニ隨行セシモノアリ、ノ助ケヲ

得テ、法耳的難王ヨリ、韃靼王ヘノ國書及ビ多加尼里氏ノ地海圖ニ依テ

製シタル新圖ヲ携ヘ、耶蘇紀元千四百九十二年八月三日、三小艇ヲ儀シ

テ、巴羅士港ヲ發セリ、而シテ同年十月十一日、夜將ニ半、ナラントスルノ

時、前路遙ニ火ノ動クヲ見タリ、尙進航スルコト二時間、初メテ陸地ノ橫

ハルヲ認タム、而シテ其ノ翌日、太陽將ニ東天ニ昇ラントスル時、閣龍氏

初メテ新世界ニ上陸セリ、

氏ノ歐洲ニ販ルヤ、世人皆以爲テク、氏ノ達セシ所ノ地ハ、亞細亞ノ東部

ナラン、然レハ氏ノ航海ハ、其功實ニ豫想ニ當レリト、氏モ亦生涯之ヲ自

信セリ、然ルニ、其後數回ノ航海ハ、以テ亞米利加海濱ノ標柱ヲ定メ、且ツ

巴窩阿氏ノ大南洋ヲ發見セシヨリ以來、漸ク其實事ヲ發明シ、閣龍多加

カ

尼里兩氏ガ歐洲ト亞細亞トノ距離ハ、若シ之ヲ西方ニ航スルトキハ、以太利ヨリ、キニニ幾内亞灣ニ至ルノ里程ニ越ヘストノ思想ハ、甚シキ誤見ナルコトヲ証セリ、
 氏ノ初メテ亞米利加ニ航海スルヤ、耶蘇紀元千四百九十二年九月十三日ノ夜亞爾群島ノ一ナル可爾窩ノ東、二度半ニ至リテ、羅經針東ニ傾カスノ西ニ傾クヲ覺ル、其航路進ムニ從テ、其差愈甚クシ、抑、此變事ハ、氏以前既ニ發見セシ人多シト雖モ、其東西ニ傾カス、正シク眞北ヲ指針スルノ線ヲ發明セシハ、氏ヲ以テ第一トナス、氏ハ其航路ニ當テ、深ク變化ニ注目セシニ、航路進ムニ從テ、西傾漸ク減シ、果シテ期スル所ノ子午線ニ及テ、全ク正北ヲ指針シ、是レヨリ歐洲海岸ニ至ルマテハ、漸ク其東傾ノ増加ヲ發見セリ、是ニ於テ、氏ハ其正北ヲ指スノ點ヲ以テ、地理學上、東西兩半球ノ疆線ナリト決定セリ、之ヨリ先キ、西班牙、葡萄牙、其國境ヲ爭

ヲ、耶蘇紀元一千四百九十三年、第六世歷山法王、勅シテ該線ヲ以テ、永ク西班牙ト葡萄牙トノ境界トナシ、以テ其爭ヲ斷ス、後、該線ノ少シク東方ニ偏スルヲ發明シ、遂ニ耶蘇紀元一千六百六十二年、龍動ノ子午線ト一致セリ、
 是レヨリ後、葡萄牙領ハ、眞北線以東ニ限レリ、時ニ埃及ナル希伯來人、該政府ニ建言スルモノアリ、曰ク、亞弗利加大陸ハ、其南邊ノ地峽ニ傍テ進路ヲ取ラハ、易々之ヲ廻航スルヲウヘシト、乃チ、一千四百九十八年七月九日、華斯哥、德、加馬ヲシテ、船三艘ヲ將井テ、之ヲ航海セシム、十一月二十日、地峽ヲ廻航シ、明年五月十九日ヲ以テ、印度ノ濱甲谷他ニ着ス、此航
カカ行ヤ、實ニ葡萄牙人ヲシテ、法王ノ勅ニ從ヒ、印度ノ商權ヲ掌握セシメタルモノナリ、
デカ德、加馬氏ノ船隊ハ、地峽ヲ回航セント欲シ、漸ク南進スレバ、北極星愈、沉

落シ、其船隊赤道直下ニ達スルニ及テハ、復タ之ヲ見ルコトナク、却テ南半球ノ新星ハ、漸ク光輝ヲ發スルニ至レリ、是レ大地ハ球形ナリト云フノ議論ニ符合スルモノト云フヘシ、然レモ、法王政府ハ、從來ノ口碑政策ニ依ルニ、經典ニ説ク所ノ地平説ヲ他ヲ許スヲ得ズ、然レモ、虛ハ固ヨリ實ニ勝ツヘカラス、故ニ其狼狽推シテ知ルヘシ、威納斯ノ貿易ハ、治那亞ト俱ニ衰ヘ、歐洲前面ノ大勢大ニ一變シ、海權ハ地中海ノ諸州ヲ去リテ、永ク大西洋ノ海濱ニ遷レリ、

西班牙政府ハ、其競商者葡萄牙ガ鉅萬ノ外府ヲ創見セシヲ見テ、垂涎措ク能ハサルナリ、時ニ法耳的船馬基蘭氏策ヲ獻シテ曰ク、臣願クハ、新世界一中ノ海峡ヲ得テ、更ニ西方ニ長航セハ、必ク印度及ヒ斯巴以士諸島ニ達セン、若シ幸ヒニ之ニ達スルヲ得バ、我モ亦、彼レ葡人ニ均シク、法王ノ勅ニ從フニ、印度ノ商權ヲ得ベシト、西班牙政府大ニ喜ブ、乃チ之ニ水

夫二百三十七人、船五艘ヲ與ヘ、耶蘇紀元一千五百十九年八月十日紀費爾港ヲ解纜セシム、

氏ハ直ニ勇航シテ、南亞米利加ノ濱ニ達シ、大南洋即チ太平洋ヲ云フニ、通スルノ海峡ヲ求メ、同線内ニ漂泊スルコト七十日ナリ、水夫等頓ヲ擧メ相弔シ、曰ク、是、無風國ニ陷ケルナリ、吾人復タ生テ飯ルヲ得スト、或ハ脱隊ヲ謀ルモノアリ、或ハ暴舉ヲ企ツルモノアリ、然レモ、氏ハ、百折撓マズ、千挫屈セス、一年ノ長航ヲ經テ、遂ニ一ノ海峡ヲ發見セリ、今尙之ヲ馬基蘭海峡ト稱ス、此時氏ニ陪從セル以人、彼駕富底氏曰ク、上帝馬基蘭氏ヲシテ、南海即チ太平洋ノ危ヲ踏マシムルノ緒ヲ開キシキ、氏ハ、歡涙ヲ以テ其膝ヲ濕セリト、

既ニシテ船中漸ク饑ニ苦ム、乃チ繩皮ヲ食ヒ、腐水ヲ飲ミ、纜カニ餘命ヲ支フ、然レモ、或ハ饑渴ニ死シ、或ハ壞血病ニ死ス、氏ノ志氣尙屈セス、直チ

ニ西北ニ勇進スルコト四ヶ月、此間一島ノ以テ人ヲ住セシムルモノナ
 シ、氏以爲テク、太平洋ヲ航スル已ニ一萬二千英里餘ナリト、已ニシテ赤
 道ヲ横キリ、再ビ北極星ヲ見テ、遂ニ拉達命士島ニ上陸ス、偶、蘇門答刺ヨ
 リ來レル暴徒ニ逢ヒ、終ニ此島ニ殺サル、(果シテ野蠻人ノ毒手ニ死セシ
 歟、將々其隊中謀殺ニ係ル歟、遂ニ其説ヲ詳カニセズ)乃チ次官塞巴斯德
 央、得根氏代リテ將タリ、氏亦能ク苦難ニ堪ヘ、喜望峰ニ向テ直進シ、更ニ之
 ヲ廻リテ第四回ノ赤道ヲ横ギリ、三年有餘ノ長航ヲ經テ、耶蘇紀元千五
 百二十二年九月七日、紀費爾近傍ナル聖路加港ニ、サン、ピットリア「號」ノ鐵
 ヲ投セリ、嗚呼、人史アリテヨリ以來、未ダ世界周航ノ如ク盛ナルモノハ
 アラサルナリ、サン、ピットリア「號」ガ唯西進以テ出發ノ地ニ版着セシヨリ
 後、耶蘇教ノ地平説ハ、復之ヲ救フヘカラザルニ至レリ、
 馬基蘭ノ大業奏功ノ後五年ニシテ、耶蘇教國ハ、始メテ地ノ大小ヲ測量

セント欲セリ、即チ佛蘭西ノ格物家、法耳尼爾氏ハ、巴理府ニ於テ北極星
 ノ高度ヲ測リ、北ノ方其之ヨリ高キコト、正ニ一度ナルノ地ニ至リ、兩所
 間ニ車輪ノ回旋シタル數車ニハ豫メ其回旋數ヲ示スノ裝置ヲナセリ、
 ヲ以テ之ヲ測リ、地球ハ、其周圍二萬四千四百八十(以太利里ナリト定量
 セリ、爾後、各國競テ測量スルモノ多ク、士尼爾氏ハ、荷蘭ニ於テシ、諸宇達
 氏ハ龍動ト育間ニ、於テシ、彼加達氏ハ大學理學部ノ助ヲ以テ、之ヲ佛蘭
 西ニ行フ等、枚擧スルニ遑アラズ、就中、彼加達氏ノ測量法ハ、三角量法ヲ
 以テ、二箇ノ点ヲ結合シ、其結合線ノ間ニ截斷セラレタル、子午弧線ノ長
 ヲ測量シテ、之ヲ天體測量ヨリ得タル、緯度ノ差ニ比較スルコトナリ、三
 角測量ハ、巴理近傍ナルマルボイシント、アミエン近傍ナルソールドン
 トノ間ニ於テシ、天體測量ハ、デルタ、カシオピア星ト、頂天トノ距リニ依
 レリ、彼加達氏ノ測量ニ就テハ、兩箇ノ要点アリ、一ニハ、眼鏡設置器ヲ用

ウルノ嚆矢ナルヲ、二ニハ、牛董氏ヲシテ、一般ノ引力説ヲ決定セシキル
 ノ基礎トナリタルヲナリ、(下文ニ詳説ス)
 當時器械學上ニ依テ推測スルニ、地球ハ廻轉スルノ體ナルヲ以テ、其形
 眞ニ圓圓ニ非ス、兩極稍平ラカナルノ橢圓ナリ、故ニ赤道ノ一度ハ、之ヲ
 兩極近邊ノ一度ニ比スレハ、其長短同シカラストノ説アリ、牛董氏ノ説
 出ルニ及ンテ、其論益正確トナレリ、

佛蘭西大學校ハ、測量ヲ八方ニ施シ、佛國精地圖ヲ撰ヒ、以テ彼加達氏ノ
 業ヲ繼ント欲セシカニ、遷延果サス、耶蘇紀元一千七百十八年ニ至リ、始
 メテ北、ダンキルクヨリ着手シ、南佛蘭西ノ境ニ至ル迄、精シク之ヲ測量
 セリ、然レモ、甲ハ曰ク、地球ハ長圓體ニシテ、其狀恰モ檸檬ノ如シト、乙ハ
 曰ク、橢圓體ニシテ、其形ハ頗ル橙實ニ似タリト、其説區々ニシテ、議論一
 決セズ、是ニ於テ、佛政府ハ之カ當非ヲ定メント欲シ、更ニ大學校ニ命シ

テ、測量家二隊ヲ派遣シ、甲隊ヲシテ赤道直下、彼露ノ子午線ヲ測ラシメ、
 乙隊ヲシテ北方瑞西ラバ蘭ノ子午線ヲ測ラシム、此間兩隊ノ辛苦云々
 ハ、カヲ大然レモ、彼露使ハ九年ヲ經テ其功ヲ奏シ、ラバ蘭隊ハ、之ニ先シ
 シテ復命セリ、コノ兩隊ノ結果ハ、果シテ學術上ノ考案ニ背カス、地球ハ
 橢圓形ナルコトヲ證明セリ、コレヨリ後、之ガ測量ヲ企ツルモノ、比々少
 カラズ、英人ノ之ヲ英國及ヒ印度ニ施セシカ如キ是レナリ、就中、佛國ノ
 デランブレ及ヒメナヤインノ兩氏ガ、ダンキルクト巴西羅挪トノ間ヲ
 測リ、後ビオット、アラゴノ兩氏ガ、更ニ之ヲ擴メテ、米諾架近傍ノオルメテ
 ラ島ニ及ボセンガ如キ、實ニ一大事業ト云フヘシ、其距離ハ正ニ十二度
 半ノ長キニ及ヘリ、
 コノ實地測量ノ外、更ニ異緯度ニ於テ、振子震動ノ多少ニ依テ、地形ヲ定
 メンコトヲ欲セシニ、振子ハ漸ク赤道ニ近ツクニ從ヒ、其震動益減減シ、

赤道ハ地球ノ中心ヲ距ルコト、尤モ甚シキヲ示シ、嘗テ一度間ノ測量ニ依テ、之カ形狀ヲ定メシニ比スレバ、尙一層橢圓ノ甚シキヲ證セリ、就中、尤モ信用スベキノ測量ヲ以テ、地球ノ周圍ヲ定メシモノ左ノ如シ、

| | |
|-------------|-----------|
| 最大即チ赤道ノ直徑 | 七千九百二十五英里 |
| 最小即チ兩極間ノ直徑 | 七千八百九十九英里 |
| 兩所ノ差即チ兩極ノ橢平 | 二十六英里 |

地ノ形狀大小ニ關シテノ議論ハ、概テ上ニ述フルガ如シ、然レモ、此議未ダ一決セザルニ、更ニ又他論ヲ生シ、其勢焰頗ル熾ンナリ、其他論トハ何ツヤ、大陽及ビ諸遊星ニ對シテ、地球ノ位地即チ是レナリ、
 耶蘇紀元千五百零七年、普魯士人歌伯尼孤氏、天體運轉論ヲ著ス、氏幼ニシテ、以太利ニ遊ビ、深ク天文ヲ修メ、數學ヲ羅馬ニ學ビ、更ニ德禮密、彼坐額拉ノ兩學ヲ修シ、頗ル彼坐額拉派ノ說ニ皈セリ、氏ノ天體運轉論ヲ著

スヤ、亦彼坐額拉派說ヲ主張スルナリ、氏以爲ラク、此論固ヨリ默示說ニ反ス、故ニ必ラズ寺院ノ嫌忌スル所トナラムト、即チ豫メ之ガ辨解ヲナシテ曰ク、抑予ガ此論ヲ著スヤ、古來ノ天動說ヲ以テ之ヲ論スルハ、地動說ヲ以テ之ヲ說クノ却テ解シ易キニ若ザルヲ以テ、唯試ミニ之ヲ著ス、ノミ、是レ世人ノ其所皈ニ從テ、事物ヲ論辨スルニ異ナラザルナリト、面シテ其序ハ、法王法兒第三世ニ上ツルノ文體ヲ以テセリ、
 氏私カニ以爲ラク、彼坐額拉ノ前例ニ從ヒ、予モ亦述ヘテ作ラサルニ若カズト、遲疑シテ其書ヲ出版セザルコト三十六年、偶、大教師長スチヨンボルグ氏ノ乞ヒニ依テ、耶蘇紀元千五百四十三年、遂ニ之ヲ出版セリ、氏ハ將ニ死ナントスルノ時、其病床ニ於テ、其試摺一部ヲ得タリ、氏ノ先見果シテ違ハズ、教法裁判所ハ之ヲ異端ナリト認メ、書目集ニハ、之ヲ全ク經說ニ違背スル、彼坐額拉家ノ妄說ト明記セリ、

天文家ハ皆曰ク、氏ノ(テ、レボリユシヨナス) (書名)ハ大ニ學術ノ體面ヲ一新セシモノナリト、此評實ニ當レリト云フヘシ、同書ハ、確乎タル太陽系統説ニシテ、地球ハ之ヲ恒星ノ距離極遠ナルニ比スレハ、纔カニ天体中ノ一小點ニ過ギザルヲ論セリ、又氏ハ牛董氏ニ先テ、太陽大陰其他ノ天體悉ク皆引方ヲ有スルヲ覺レリ、氏嘗テ火星ノ軌道ヲ視察スルニ、隨時其直經ノ同シカラザルヲ見タリ、コレ氏ヲシテ其説アラシメシモノナリ、唯惜ラクハ、天體ノ順環ヲ以テ、眞圓運動ナリト誤解セシノ一事ナリ、若シ氏ガ地球ヲ論スル如ク、其主位ヲ奪ヒ、其權威ヲ削リ、以テ凡星ニ同シカラシメハ、上帝殊ニ大地ヲ眷愛スルノ經説成立シガタシ、數千萬ノ星辰、各皆一ノ太陽ニシテ、其周圍ニハ、又若干ノ遊星ヲ具シ、其遊星中ニハ、皆吾人ニ均シキ有情物アリトセンカ、吾人ノ落罪ヲ愍シテ、上帝畏クモ其一子ヲ殺シ、其罪惡ヲ贖ヒシ如ク、又此數千百萬星ノ有情物ヲ救ハ

ザルヘカラズ、此諸遊星ノ有情物ハ、罪惡ナシトセンカ、將タ有リトスルカ、毫モ其罪惡ナクンハ止ナン、苟モ其罪惡アリトセバ、其救世主ハ何處ニ在マヌヤ、僧官カ歌白尼孤説ヲ經テ、(示)ニ違スルノ邪説トナスニハ、多少ノ焦慮ヲナセシト云フヘシ、
 耶蘇紀元千六百〇八年、荷蘭人カ彼兒西氏、二箇ノ眼鏡ヲ取り、之ヲ結合シ、以テ遠體ヲ見ルニ、頗ル其明瞭ナルヲ發見シ、遂ニ望遠鏡ヲ創製セリ、翌年佛稜人駕里良氏、遙カニ之ヲ傳聞シ、亦自ラ一器械ヲ發明シ、漸次之カ改良ヲ加ヘ、遂ニ三十倍ノ測天鏡ヲ工夫セリ、氏、該器ヲ取テ大陰ヲ望ムニ、大陰ニモ亦吾地球ノ如ク、山影ヲ受クルノ谷アルヲ認知セリ、古來ノ口碑ニ、七曜星ハ、初メ七星ナリシト雖也、故アリテ中古一星ヲ減シ、今ハ唯六星ヲ留ムト云ヘリ、氏乃チ測天鏡ヲ轉シテ之ヲ望ムニ、獨リ七星ヲ見ヨアラズ、四十有餘ノ星アルヲ見タリ、其他之ヲ以テ四方ヲ望ムニ、

處トシテ肉眼以テ見ル能ハサルノ星辰アルヲ見出サバハナシ、
 耶蘇紀元千六百十年一月七日、氏、半夜木星ジュピター近圍ノ一直線ニ於テ、三小星
 ノ之ヲ回旋スルヲ見、後又數日ヲ經テ、更ニ第四星アルヲ發見セリ、氏以
 爲ラク、コレ即チ歌白尼孤說ノ縮圖ナリト、一タビコレノ奇聞ノ江湖ニ達
 スルヤ、世人皆以爲ラク、若シ肉眼以テ之ヲ見ル能ハサルノ衆星アラバ、
 天ノ斯星ヲ製スルヤ、唯人ニ光明ヲ與ユルノ爲ニハアラザルベシ、必ラ
 ズヤ、他ニ大ナル、目的ノ存スルアリテ然ルナラント、故ニ僧官ハ以爲ラ
 シ、コレノ說將コ人類ノ爲ニ、萬物ヲ製スルノ經說ヲ破ラントス下、乃チ
 大ニ防禦ノ術ヲ盡セリ、
 歌白尼孤說ニ就テ一難アリ、曰ク、若シ水、金ノ二星ハ、地球ノ軌道ヨリ内
 道ヲ廻旋スルモノトセバ、此兩星モ亦月ノ如ク、其面ニ各、盈辰アルベシ、
 就中、金星ノ如キハ、其光輝尤モ明赫ナレバ、其盈辰モ又更ニ分明ナルベシ

シト、歌白尼孤氏モ亦頗ル之ヲ大難トシテ、數之ガ辨明ヲ企テタルモ、遂
 ニ充分ノ効ヲ奏セザリキ、今駕里良氏、測天鏡ヲ取テ之ヲ望ムニ、果シテ
 新月ノ時アリ、半月ノ狀アリ、遂ニ又凸圓月、滿月ノ形アリ、歌白尼孤氏以
 前ノ人ハ、皆以爲ラク、遊星ハ皆各、自光アリト、然レハ、今火星マーズ譯者按ズル
 リナラ、金星ノ盈辰ニ由テ之ヲ觀レバ、其光明ハ、皆太陽ノ反射ナルヲ明
 カナリ、亞里斯度德學派ノ說ニ曰ク、天體ノ以テ地体ニ異ナル所以ハ、唯
 其明晰圓滿ナルニアリト、然レハ、今駕里良氏ノ發明ニ由テ、月ニモ亦山
 アリ、谷アリ、太陽ノ面ニモ、小点アリテ圓滿ナラズ、且ツ其軸ニ於テ、自轉
 スルモノアルコトヲ知ラバ、豈其誤リヲ彌縫スルヲ得ンヤ、
 其他測天鏡ヨリ生スル種々ノ大發明ハ、將ニ愈、歌白尼孤說ノ眞理ナル
 ヲ証セントス、是ヲ以テ、寺院ノ周章益、甚シ、其文盲僧侶ハ、之ヲ邪說妄論
 ナリト譏毀シ、或ハ曰ク、望遠鏡ナル者ハ、唯以テ地上ノ物ヲ見ルベシ、以テ

天体ヲ伺フベカラスト、或ハ曰ク、コレ唯井底ヨリ天ヲ見レバ、白晝モ尙
 星辰ヲ見ルヲ得ルト、アリ亞里斯多德アリストテレス説ヲ適用セシモノノミト、誹議百出、
 遂ニ駕里良ガリレオ氏ヲ指テ、異敎家、神敵家ト稱スルニ至ル、氏乃チ書ヲアツベ、カ
 ステリ氏ニ贈リ、其冤ヲ訴テ曰ク、夫レ經典ノ物タルヤ、唯人ニ德行ヲ勸
 ムルニ止リ、毫モ學術區内ニ立入、ノ權ナシト、然レト、此書ハ、徒ニ彼レヲ
 シテ怒ヲ増サシムルノ媒介トナレリ、遂ニ氏ヲ敎法裁判所ニ召喚シ、違
 經説、即チ太陽系地動説ヲ主張セシコトヲ以テ、之ガ罪科トナシ、且ツ之
 ヲ却カシテ曰ク、汝今コシテ其前非ヲ改メ、異端ノ念ヲ翻サズ、尙カ白尼
 孤ノ説ヲ主張シ、之ガ著書ヲ出版スルコトアラハ、今汝ヲ禁獄ニ處セン
 ト、是ニ於テ氏以爲ラク、真理ノ顯彰ハ、何ソ致命者ヲ待タン、今我レ彼レ
 ガ毒手ニ窘ムモ、真理ニ於テ益ナキナリ、若カズ陽ニ彼レニ屈從シ、而シ
 テ其時ヲ待タンニハト、乃チ其命ニ從ヒ改説セシコトヲ確ク誓フ、爾來、屈

從ノ久シキ十六年ヲ經、耶蘇紀元一千六百三十二年ニ至リ、奮テ世界組
 織論ヲ公コシ、カス歌白尼孤ノ説ヲ述フ、是ニ於テ、羅馬ノ敎法裁判所、復タ氏
 ヲ召喚シ、再タヒ地動説ヲ以テ有罪ナリトシ、之ニ追テ、經典ヲ握リ、前罪
 ヲ懺悔セシメント欲ス、嗚呼、蓋世ノ大家、氏ノ如キ人ニシテ、其真理ノ卓
 説ヲ以テ、妄説邪論ト爲サレバ、生命忽地ニ斷ニントス、其酸毒果シテ
 如何アヤ、然レトモ、氏ハ強剛不屈、敢テ其命ニ從ハス、乃チ之ヲ獄ニ下メ
 シ、頗ル苛酷ヲ極ム、氏、獄窓ニ呻吟スル幾ント十年、遂ニ獄中ニ憤死ス、裁
 判所ノ怒リ猶未ダ解ケズ、之ヲ墓地ニ葬ルヲ許サズ、棄テ、蠅蚋姑ノ腹
 ヲ肥サシム、嗚呼、此クノ如キノ處置ヲ以テセザレバ、其道ヲ閑ル能ハキ
 ルナリ、然レバ則チ其説シトコロノ者ハ、固ヨリ推シテ知ルベキナリ、果
 セル哉、此裁判所所執ノ説ノ如キハ、現今文明ノ諸國ニ於テハ、之ヲ排斥
 シテ措カザル所ナリ、

右ニ就キ、現今著名ナル數學大家ノ説アリ、曰ク、コレ吾儕ノ生息スル地球ノ品位ヲ定ムルノ問題ナレバ、之ヲ至要ノモノト云フベシ。若シ夫レ地球ハ宇宙ノ中心ニ在テ、不動ノ物体ナリトセバ、人ハ萬物ノ靈トモ云フベク、又天地ノ上賓也云フベシ。然レハコレニ反シテ、地球ハ唯太陽ヲ廻旋スル一遊星ニシテ、太陽系中ノ一物ニ過ギストセバ、地球ハ吾儕人類ニ對スルキハ、大ハ則チ大ナリト雖也、之ヲ廣大無邊ノ天體ニ比スレバ、其小殆ンド見ルベカラザルノ一塵ニ過ギズト、

抑、世ニ望遠鏡ノ發明アリシハ、コレ將來歌白尼孤説ノ勝ヲ論陣上ニ制スルノ兆ナリ、コレヨリ後、歐洲各國ノ天文家ハ、皆舉テ太陽爲主説ニ左袒シ、我地球ニハ常ニ兩重ノ運動アルヲ信ゼリ、其一ハ太陽ヲ廻リテ公轉シ、其二ハ地軸ニ於テ自轉ス、地球公轉ノ一証ハ、ハリス貌刺達里氏ノ大發明タル、恆星ノ斜行即チ是レナリ、抑、ハリスヨノ恆星ニ斜行アルハ、半ハ光線ノ進

動ニ因ルト雖モ、半ハ地球ノ運動ニ因レリ、氏ガコレノ斜行ノ發明ハ、彼ノ平分點先進ノ發明ト共ニ、永ク天文學上ノ必要事タリ、嘗テハリス勞墨耳氏ガ光線進動ヲ發明スルヤ、フオンテ豐底勒氏ハ之ヲ駁シ、カスニ加西尼氏亦之ヲ駁サ、シシモ、遂ニ世人ノ公認スル所トナレリ、予ハ次ニ太陽ト地球ノ距離、即チ太陽系統ノ廣狹如何ヲ、簡單ニ説明スルノ要用ナルヲ信ズ、

歌白尼孤氏ノ時ニ方テ、世皆以爲ラク、太陽ト地球ノ相距ルハ、殆ンド五百万英里ナラント、而シテ人或ハ之ヲ過遠ナリトスルモノアリ、然ルニ結ブ布勒氏及ハリス殆朝、ハリス伯刺希氏數回ノ觀察ニ依レバ、前説ハ却テ近キニ失シ、其距離千三百万英里以上ナリト測シ、又耶蘇紀元千六百七十年カ加西尼氏ハ、之ヲ千五百万英里ナリト算シ、前記兩説ノ不當ヲ駁セリ、耶蘇紀元千七百六十九年、六月三日、金星、太陽ヲ經過スルヲ前知スルヤ、

コレ年來ノ大問題ヲ決スルノ好機ニシ、實ニ千歲ノ一時ナリトテ、各政府
 競テ之ヲ測量セシム、其測量場ノ數ハ、歐洲ニ於テ五十箇所、亞細亞ニ於
 テ六箇所、及ヒ亞米利加ニ於テ十七箇所ナリ、彼ノ英政府ガ、加比天、哥克
 氏ヲシテ、有名ナル第一航行ヲナサシメタルモ、亦偏ヘニ之ガ爲メナリ、
 氏ハオクダヘイトニ到リ、善ク其目的ヲ達スルヲ得タリ、此日、天氣晴朗、空
 翠流レント欲シ、終日一点ノ雲ヲ見ス、金星ノ經過ハ、午前第九時半ニ始
 マリ、午後第三時半ニ至テ終レリ、故ニ氏ハ、百方之ガ觀察ヲ極ムルヲ得
 タリ、

然レモ、各所ノ異說紛々トシテ、近キハ八千八百万英里ナリトシ、遠キハ一
 億九万英里トナシ、更ニ一ノ定說アルヲ見ス、故ニ有名ナル數理家、圖及
氏ハ、耶蘇紀元千八百二十二年及ヒ二十四年、再ヒ之ヲ測量シ、太陽ノホ
 リヅンタル、バラルラクス、即チ太陽ヨリ地球半徑ノ角度ハ、之ヲ八秒ト

千分ノ五百七十六ナリトシ、其距離九千五百二十七万四千英里ナリト
 定量セリ、後、漢仙氏亦之ヲ改測シ、九千六百六十五万九千英里ナリト定メ、
 尙降リテ勒威里亞氏ハ、之ヲ九千九百七十五万九千英里ナリトシ、エイ
リー、ストーンノ兩氏ハ、更ニ別法ニ依テ、之ヲ九千四百四十万英里ナリト
 計リ、ストーン氏ハ、又獨リ古法ニ從テ、之ヲ九千七百七十三万英里ナリト
 測リ、終リニフォーコルト氏、并ニフヒシュユー氏ハ、更ニ光線ノ速力ニ依
 テ、之ヲ九千四百四十万英里ト定計セリ、是レニ由テ之ヲ觀レハ、來年耶蘇紀
元千八百七十四年、治七年、即我明ノ金星經過、其確說ヲ定メサル間ハ、地球ト大
 陽トノ距離ハ、且ラ之ヲ九千二百萬里以近ト云ハサルヲ得ス、
 若シ眞ニ此距離ヲ知り得ルキハ、太陽系ノ大小、亦隨テ知ルヘキナレド、
 今且ラシ現時ノ說ニ依ルキハ、我遊星中、其尤モ遼遠ナルモノヲ土星ト
 ナス、而シテ同星ト太陽トノ距離ハ、之ヲ吾地球ニ比スレハ、凡ソ三十倍ノ

遠キニアリ、

是レニ由テ之ヲ觀レハ、彼レ耶蘇教ノ説ノ如ク、萬物ハ、果シテ人類ノ爲ニ作リシモノナルヤ否、推シテ知ルヘキナリ、若シ人大陽ニ在リテ望見スルキハ、我地球ノ如キハ、纔カニ其光輝ヲ受タルノ一微塵ノミ、讀者尙精密ナル理ヲ究メント思ハ、乞フコノ(○)一小點ヲ、五六尺ノ距リヨリ見テ、其數百分一ヲ以テ、大陽地球ヲ見ルノ大小ヲ知レ、嗚呼、其微小モ亦甚シカラズヤ、

宇宙ノ大ヲ以テ、我地球ニ對スレバ、之ヲ與奪生滅スル、亦難キコアラズ、而シテ、古來嘗テ未タ此變ニ逢遇セザルモノハ、幸ヒコシテ免レタリト云フベシ、コノ微小殆ンド見ルヲ得ザルノ地球ニ就テ、宇宙ハ果シテ何等ノ利害ヲ感スベキヤ、況ンヤ、之ニ生息スル、數千億ノ極微人蟲ニ於テヲヤ、況ンヤ、其喜怒哀樂ノ情ニ於テヲヤ、

歌白尼孤説興隆ノ時、之ヲ駁スル者多シ、其内下抹ノ天文家、殆朝、伯刺希

氏曰ク、若シ地球ハ、一年ヲ以テ大陽ヲ一周スルモノトセバ、六ヶ月間ニハ、其軌道ヲ半周シテ、其出立シタル點ヨリ、眞反對ノ地位ニ到ルベシ、故ニ六ヶ月前ニ比スレバ、天体中ニ於テ、地球軌道ノ直徑丈、之ニ近キシ一場所アルベシ、果シテ然ラバ、恒星中、必ラス多少ノ變位アラソ、譬ハ、地球ノ甲乙恒星ニ近ツキシトキハ、其星座互ニ相離レ、其之ニ遠ザカリシトキハ、其星座相接スルヲ見ルベシト、是レ亞里士達查士氏が嘗テ彼坐額拉説ヲ駁セシ説ナリ、

星ノ變位ハ、其星ヨリ引ケル、二線一ヲ大陽ニ引キ、一ヲ地球ニ引ク、間ニ含マレタル角度ヲ云フナリ、
當時、大陽ト地球トノ距離ノ思想ハ、甚ダ近キニ失セリ、若シ之ヲシテ方今ノ如ク、其距ハ九千万英里餘ニシ、地球軌道ノ直徑ハ、實ニ一億八千万

英里計ナルヲ知ラシメバ、此難問ノ勢力ハ益強大ナリシヲナラン、
 歌白尼孤學派、殆朝氏ニ答ヘテ曰ク、凡ソ物、其距離甚ダ遼遠ナルキハ、其
 變位モ亦從テ減ス、今恒星ハ、其距離極メテ遼遠ナリ、故ニ、其變位モ亦之
 ヲ覺知シ難シト、此答實ニ其當ヲ得タリ、
 且、現今ノ所説ニ從フトキハ、南半球ノ恒星中、其尤モ近キモノヲ、(ア
 ルファ)、セントーリ、複星トナス、耶蘇紀元千八百三十二年、及ヒ三年、喜望
峯ニ於テ、顯德孫氏及ヒビマクリール氏始メテ其變位ヲ測量シ、之ヲ一秒
 ノ十分九トナス、故ニ其地球トノ距離ハ、之ヲ太陽地球ノ距離ニ比スレ
 バ、凡ソ二十三万陪ニ下ラズ、其ノ系中ノ衆星ハ、同星ヲ一周スルニハ、實ニ
 八十一年ノ久シキヲ要ス、嗚呼亦大ナラズヤ、然リ而シテ、我地球ヨリ之ヲ
 見ルニ、其系中ノ衆星ヲ惣合スルモ、我太陽ノ大ニ及ハザルコト遠シ、是レ
 ニ由テ之ヲ推スニ、若シ同星ヨリ我太陽ヲ見バ、仮リニ我太陽ヲシテ、地

球軌道ニ充滿セシモノトスルモ、(直徑一億八千萬英里ノ太陽僅カニ一小
 点ニ過ギザルベシ、
 第六十二、サイグニ星ハ、其大サハ第六等ニ位ス、耶蘇紀元一千八百三十
 八年、別西爾氏其變位ヲ測リ、之ヲ一秒ノ三分一ナリト定ム、故ニ其地球
 トノ距離ハ、之ヲ太陽地球ノ距離ニ比スレバ、無慮五千万倍以上ナリ、其
 系中ノ諸星ヲ引カノ中心ヲ一周セシムルニハ、(諸遊星、其太陽ヲ一、實
 ニ五百二十年ノ星霜ヲ費ス、而シテ其系中諸星ヲ合体スルモ、僅カニ大
 陽三分ノ一ニ見ユルノミ、
 天体中ニ於テ、其尤モ輝クモノヲ、シリウス大星トナス、其距離ハ、(アル
 フ)、セントーリ、複星ノ距離ニ六倍ス、是レニ由テ之ヲ推スニ、其直徑ハ、凡ソ
 千貳百万英里ニシテ、其光輝ハ、太陽光輝ノ貳百倍ナルベシ、然レニ、測天鏡ニ
 緣レハ、纔カニ之ヲ視ルコトヲ得ルモ、尙之ヲ計ルベキ直徑ナク、唯一塵ノ

光體ニ類セリ、
 衆星ノ大小、各、其差アルコト、此クノ如クソレ然リ、嗚呼、其尤モ我地球
 ニ接近スルノ星モ、尙且ツ其距離ヲ測量スル能ハザルモノアリ、況ンヤ、
 其發輝スル所ノ光線、我地球ニ來達スルニ、數百万年間ヲ要スルノ諸星
 ニ於テヲヤ、嗚呼、我大陽系中ノ限界、猶之ヲ窺知スルニ方ナシ、況ンヤ、他
 ノ系中ニ於テヲヤ、故ニ世界ノ十方ニ累列スルヤ、猶塵埃ノ深淵ニ充滿
 スルカ如シト云フハ、決シテ謬言ニ非サルナリ、
 此巨大ナル空間ニ散列スル數星ハ、其數千万ハ、肉眼之ヲ視ル能ハサル
 ノ極遠處ニアリ、果シテ彼、耶蘇教ノ説ノ如ク、唯夜光ヲ與フルヲ以テ、其
 目的トスル乎、噫、亦思ハザルノミ、此等無數ノ大星ハ、他系中運動ノ中心
 ニ處リ、其勢力ノ中心ニ立チ、各々亦他世界ニ於テ、一ノ大陽ニ位スルヤ
 必セリ、

事實ノ發明、未ダ此ニ至ラザルトキ、(寧ロ議論未ダ此ニ達セザルトキ、)以
 太利人若達那、シヨネ貌路那氏、シヨネ歌白尼孤氏ノ死後七年ニ生ル、(宇宙無邊論)祭日
 夜話シヨネ歌白尼孤説ノ注釋及ヒ(萬物一因論)ヲ著ハシ、且ツ耶蘇紀元一千五
 百八十四年、(驅猛獸論)ナル漫筆ヲ著セリ、又氏ハ、一千五百七十二年、忽然
 トカシシヨピア(北半球ニアル)一星宿ノ名)ニ現出セシ所ノ新星ヲ觀察シ、大ニ後
 八ヲ益セリ、此星ハ、白晝ト雖モ、明カニ之ヲ認ムルヲ得ベク、其光輝實ニ
 衆星ニ冠タリ、十一月十一日ニ至リ、俄然、宛カモ金星ノ如キ光輝ヲ發シ、
 翌年三月、最第一ノ大サニ達シ、コレヨリ數月ノ間、種々ノ光色ヲ呈シ、終
 ニ一千五百七十四年三月ニ至テ、亦忽然トシテ隱没シ去レリ、
 結布勒氏ノ時、即チ耶蘇紀元千六百〇四年、亦セルペンテリアス(亦北半
 ル一星宿ノ名ナリ、一)ニ俄然、新星ノ發現スルアリ、始メハ光輝金星ヨリ
 名、オフヒヤチヨス(ト云フ)ニ、俄然、新星ノ發現スルアリ、始メハ光輝金星ヨリ
 モ明カニシテ、凡ソ一年ノ間、紫、黃、紅、等ノ數色ヲ呈セシガ、是レモ亦遂ニ

消滅シ去レリ、

貌路耶氏ハ、幼ニシテ寺院ニ入り、達美尼格教派ノ徒トナレリ、然レモ密
フレイイニ疑ヲ化體等ノ秘事ニ抱キ、誤テ之ヲ他人ニ語り、深ク僧官ノ嫌忌スル
 所トナル、故ニ瑞西、佛蘭西、英吉利、日耳曼等ニ逃走セシモ、教法裁判所ノ
 追跡、日ニ嚴ナルヲ以テ、到ル所其居ヲ安セズ、再タビ以太利ニ皈リ、遂ニ
 縛ニ威納斯ニ就キ、話スルニ朋友ナク、對スルニ筆硯ナシ、空ク獄窓ノ月
 ニ呻吟スルコト、六裘葛ノ久シキニ至レリ、
 氏ノ嘗テ英吉利ニアルヤ、多世界論文ヲ草シ、且ツ以太利語ヲ以テ、緊要
 ノ書籍數種ヲ著セリ、氏常ニ其爲害者(僧官)ノ詐欺多キヲ罵テ曰ク、予ハ到
 ル所ニ、彼レ僧官輩ガ、虚飾以テ衆人ヲ誑カスヲ見ルナリ、抑、予ガ排撃ス
 ル所ノ者ハ、彼ノ道德堅固ノ信者ニアラズシテ、此不徳不善ノ妄信者ニ
 アルナリト、願フニ此等ノ言ハ、益、爲害者ヲシテ激セシメタル者ナラン、

其祭日夜話ニ曰ク、經典ハ、唯道德ヲ人ニ教ユルノ具ニシテ、實學ヲ教ユ
 ルノ書籍ニアラズ、故ニ、毫モ嘴ヲ天文生理等ノ學ニ容ル、ヲ得ズ、就中、
 大地ハ平カニシテ、砥ノ如ク、圓柱之ヲ支ヘ、蒼天之ヲ覆フ、而シテ天堂其
 上ニアリト云フ經說ノ如キハ、尤モ尊信スルヲ得ザルノ說ナリ、吾儕ハ、
 大ニ之ニ反シテ、左ノ說ヲ確信スルナリ、曰ク、宇宙ハ廣大無邊ニシテ、無
 數ノ諸世界(透明世界アリ、不透明世界アリ)其中ニ散布ス、而シテ此諸世
 界中、多クハ住民アリ、此他、吾儕ノ上下左右ハ、星宿及ヒ空間ノ外、更ニ別
 物アルコトナシト、氏ノ持論此クノ如クナレバ、其亞比朝士氏ノ說ヲ以
 テ、大ニ眞理ニ近シトスル、亦宜ナラズヤ、其說ニ曰ク、智力アリ、能ク宇宙
 ヲ變現ス、世界廣シト雖モ、萬物多シト雖モ、一トシテ此ノ智力ノ分出物
 ニアラザルハナシ、智中ノ力ハ、能ク萬物ヲ序テ、又能ク之ヲ任持ス、若シ
 一朝此力ヲ奪ヒ去ラバ、萬物悉ク消失スベシト、氏以爲テク、コノ常住普

遍ノ智カハ、即チ是レ上帝ナリ、上帝ハ一切萬有ニ住シ玉ヘリ、故ニ萬物ハ、上帝ト同体ニシテ、上帝ハ萬物ノ大因ナリト、
 是レニ由テ、理學者ハ貌路那氏ノ説ヲ以テ、アビラ亞比朗士氏ト、スビ斯比那撒氏トノ中間ニ在ルモノトセリ、スビ斯比那撒氏ノ説ニ曰ク、上帝ト宇宙トハ同体ナリ、事物ハ、皆避クルヲ得ザル一定ノ天然法ヨリ生ズ、上帝ハ、不可變不可争ノ天力ニ依テ、至要ノ行爲ヲ續生セシムルノ宇宙ナリト、
アブル貌路那氏、威納斯ニ幽セラル、コト六年ニシテ、再タビ僧官ノ命ニ由テ、アブル羅馬府ニ護送セラレ、其教法裁判所ノ獄ニアルコト、更ニ二年、遂ニ神託ノ宗教ヲ蔑視シ、贖罪ノ事ヲ嘲笑シ、剩サヘ經典ニ反スル多世界説ヲ布教ス、其罪大ナリト雖モ、特ニ寬典ヲ以テ、敢テ一滴ノ鮮血ヲ出サズ、之ヲ火刑ニ處スルモノナリトノ宣告ヲ受ク、氏以爲ク、火能ク我肉体ヲ燻クト雖モ、豈奚ンゾ我説ヲ燒クヲ得ンヤ、後世必ラズ其流布スルヲ見ント

乃チ從容判官ニ謂テ曰ク、子ガ此宣告ヲナスノ憂苦ハ、子ガ之ヲ受クルノ心ヨリモ尙甚シカラン、何トナレバ、子モ亦其心中、予ガ説ヲ信ズルノ人ナレバナリト、遂ニ之ヲ羅馬ニ火殺ス、嗚呼、此日ハコレ何等ノ日ゾ、實ニ耶蘇紀元一千六百年二月十六日ナリキ、
 宗論ノ異同ニ依テ、流派分裂シ、怨恨相重ナルノ際、各派熱心ニ信徒、相次テ屢、火刑ニ處セラル、ノ狀ヲ想起セバ、何人カ慘然トシテ之ヲ哀マザランヤ、然リト雖モ、彼レ信徒ノ臨終ニ於テハ、自カラ信シテ以爲ラク、全能無失ナル上帝ノ保護アリ、今世ヲ去リテ來世ニ至ルノ路ハ、仮令ヒ殘逆ナル拷問ノ苦楚アルモ、即チ是レ瞬時ノ苦界ヲ脱シテ、永久ノ樂土ニ走ルノ路ナリ、濁世ノ惡逆ヲ離レテ、天堂ノ快樂ヲ得ルノ路ナリト、又以爲ラシ、其冥々タル深谷ヲ行クニ當テハ、信義ノ故友アリテ、其火 苦ヲ慰メ、其手ヲ取リテ之ヲ恤ハリ、徐々トシテ前路ヲ導クベシト、貌路那氏

ハ則チ然ラズ其生涯ヲ委ネタル理學說ハ前途ノ快樂ヲ示シテ其心ヲ
 慰ムベキニアラズ其最後ノ一戰モ單身赤手ニシテ闘ハザルヲ得ズ氏
 ガ孤立助ケナク巍然タル法廳ノ下固執頑冥ナル判官ノ前獄丁刑具ノ
 傍ラ端然屹立スルノ時ヲ追想セバ自ラ莊嚴無限人ヲシテ感嘆措ク能
 ハザラシムルモノアルニアラズヤ神聖ナル僧官ト自稱スル黒衣ノ魔
 族ガ竊カニ其前後ヲ徘徊スルヲ見ルノ外一ノ告發者ナク又証據物件
 ナシ豈焉ゾ辨護人ヲ許サンヤ單ニ汝カ此世界ノ外ニ他ノ世界アルヲ
 主張セルハ甚タ邪教者タルノ疑ヒアルヲ以テ反然其說ヲ改メヨト強
 ルノミ氏如何ソ自ラ確知スルノ眞理ヲ棄擲センヤ況ンヤ判官其人ト
 雖トモ胸中竊カニ之ヲ是認スルモノナルニ於テヲヤ遂ニ從容火殺ノ
 苦ヲ受ケタリ嗚呼氏ガ眼ヲ眞理ニ注ヒテ剛強不屈ナル就死ノ狀ト之
 ヨリ前千五百年カイアアス祭司長ノ殿ノ火傍ニ於テ鷄鳴曉ヲ報セ

シトキ主身を回して彼得を見たまへる（路加傳第二十二章六十一節ヲ
 參觀セヨノ觀トハ其徑庭果シテ如何ツヤ然レハ貌路那氏ヲ苦ムル斯
 クノ如ク甚シキニ至ラシムルノ威カヲ以テ寺院ニ傳ヘタル者ハ即チ
 是レ彼得其人ニ外ナラザルナリ、

然レハ其子孫祖先ノ惡業ヲ悔ヒ貌路那氏ノ肖像ヲ塑シ之ヲ羅馬殿堂
 ノ中ニ安置シ其大罪ヲ償ハントスルノ日蓋シ遠キニアラザルベキナ
 リ、

第七章 地球年紀ニ關スル爭論

經典ノ説ニ大地ハ纔カ六日間ノ創造ニシテ其後纔カニ六千年ヲ經タリト主張スル事○族祖等ノ記録ハ之ヲ其年齡ニ由リテ書セシ事○異譯經典異筭紛亂ノ事

大洪水ノ俚談○人種再殖ノ事○巴威爾高塔ノ事○言語錯亂ノ事○大古言語ノ事

加西尼木星ノ楕圓形ナルヲ發明スル事○牛董亦地球ノ楕圓形ナルヲ發明スル事○種々ノ造作因アリテ地球ヲ摸型セシ事○地質學暗礁ノ發明及ヒ古代有機遺物ノ究索ニ由リテ前説確定スル事○果シテ然ラバ極遠ノ時日ヲ要スル事○創造説進化説廢立ノ事○人間過去極遠ノ時ニ存生セルコトヲ發明スル事○世界ノ時處不定ノ事○此章ヲ世界ノ年紀ニ關スル爭論ト名シ

評
此章舉
地球質
測地質
學破創
世記之
妄駁宗
教之墳
補也

ルハ記者ノ大ニ注意アル事

地球ノ宇宙ニ對スル眞地位ハ、永ク論題トナリ、寺院ハ、威力以テ其說ヲ主張シ、甚シキニ至テハ、死刑以テ之ニ繼キタリト雖モ、遂ニ眞理ヲ歴スルコトヲ得ズ、歌白尼孤說ノ証據ハ、日一日ヨリモ明ラカナルヲ以テ、太陽ハ世界ノ中心ニアリテ主体ナリ、而シテ地球ハ之ヲ廻旋スルノ一遊星ノミトノ說ハ、遂ニ社會公衆ノ輿論トナレリ、耶蘇教寺院ハ、此失敗ニ因テ、少シク内ニ顧ミル所アレバ、世界年紀ノ議論ニ就テハ、大イニ其抵抗ヲ緩フス、蓋シ其意以爲ラク、抑、大地ノ地位ヲ貶スコトハ、頗ル默示說ヲ傷ルト雖モ、年紀ニ至テハ之ト異ナリ、之ヲ破セラル、モ大害ナシ、況ンヤ、彼輩亦甚シキ駁撃ヲナサザルベキヲヤト、然レモ、世論ハ此豫想ノ外ニ出デ、駁論日ニ甚シク、遂ニ其危險ハ前論ニ下ラザルニ至レリ、
 布拉多、嘗テ其「タイムーデス」ニ於テ、此世界ノ起原ヲ論シテ曰ク、予モ君

モ、與ニコレ一箇ノ人ニ過キス、故ニ古來ノ神說ハ、唯之ヲ信シテ之ヲ搜ルベカラスト、^{セントオーカスチ}聖、^{セントオーカスチ}頓士丁以後、耶蘇教徒ハ、經典ヲ以テ、百般學術ノ度量トナシ、遂ニ經典ヲ取テ、開闢論及ヒ年代記ヲ撰ヒ、大イニ將來文化ノ進歩ヲ妨ゲタルヲ以テ、吾人ハ布拉多ノ說ニ從テ、之ニ甘心スルヲ得ザルナリ、

今其開闢論等ノ綱領二三ヲ擧ゲ、以テ其大旨ヲ示サント欲ス、其說ニ曰ク、上帝ノ一日ハ、人間ノ一千年ニ均シト、果シテ然ラバ、六日創造、第七日安息ノ經說ニ據ルモ、世界ハ六千年ノ勞作ト、一千年ノ休息トヲ經タリトセム、而シテ大地ノ年齢、凡ソ四千歳ナルトモ、耶蘇初メテ誕生ストハ、コレ世間普通ノ所論ナリ、然ルニ歐洲ハ、其年代ヲ定ムルノ疎漏ナル、
 纒カニ耶蘇紀元五百二十七年ニ至リ、羅馬僧大阿尼社士、以幾士格、一名
 丁尼士、日、勒士、始メテ耶蘇紀元ヲ定メタリ、
 大阿尼社士、以幾士格、一名
 丁尼士、日、勒士、始メテ耶蘇紀元ヲ定メタリ、

上古ノ記録時日ヲ求ムルノ方ハ、唯古人ノ壽命ニ因リテ、起算セシモノナリ、故ニ之ガ矛盾ヲ避クルノ困難ナルハ、素ヨリ論ヲ待ザルナリ、仮リニ蒙昧時代ノ信ニ從テ、摩西五經ハ、實ニ摩西ノ著述ナリトスルモ、其記事ハ、皆其誕生前、二千餘年ノモノナレハ、之ヲ完全ノ神書ナリト信シガタシ、其寫本ニ異時ノモノアリ、其說皆異ナリ、撒馬利亞本ハ、開闢ヨリ大洪水ニ至ルノ間、千三百七年ナリト記シ、希伯來本ハ、之ヲ千六百五十六年ナリト示シ、西彼藤仁太本ハ、之ヲ二千二百六十三年ナリト算ス、又西彼藤仁太本ニ記スル、創造ヨリ亞伯刺罕ニ至ル間ノ年代ヲ以テ、希伯來本ノ年記ニ比較スルトキハ、實ニ千五百年ノ違算アリ、然レモ、世間普通ノ說ハ、創造後二千年ヲ經テ大洪水アリ、更ニ二千年ヲ經テ耶蘇誕生ト云フ是レナリ、古來少シク意ヲ茲ニ注ギシ人ハ、救世者出現ノ年ニ就テ、凡ソ一百三十二ノ異說アルヲ發見シ、之ガ說ヲ作テ、曰ク、經典ハ只其

大數ヲ說クモノナレハ、精シク之ヲ算シガタシト、是レニ由テ之ヲ觀レバ、上帝其異義ヲ生ゼザラシムルノ標準ヲ與ヘス人ヲシテ正シク之ヲ解セシムルノ神助ナキヤ明瞭ナリ、其最モ尊信スベキモノニ於テモ、往々彌縫シガタキノ誤說アリ、即チ西彼藤仁太本ニハ、米坐西拉洪水後ニ尙存命スルガ如キ是レナリ、
神學者皆以爲ラク、世界未タ大洪水アラザル前ハ、一年ハ三百六十日ナリキ、或ハ附會ノ說ヲ作テ曰ク、コレ環圈ヲ三百六十度ニ分ツノ濫觴ナリト、然レモ大洪水ノ時ニ於テ、太陽ノ運動一變シテ、年々五日ト六時間ヲ伸バセリ、此大洪水ハ、世界ノ年齢千六百五十六歲、九月二日ニ始マレリトノ說、尤モ其力ヲ得タリ、然レモ達格多華以士頓ハ、百方精查シテ、之ヲ九月二十八日ト云ヘリ、其他、甲ハ曰ク、洪水前ハ虹霓ナシト、乙ハ曰ク、當時始メテ、其証票トシテ之ヲ顯セリト、又曰ク、洪水前ノ人ハ、皆植物ヲ

以テ食トス、故ニ、方舟ヲ出シトキ、始メテ肉食ヲ許サレタリト、此大洪水ニ於テモ、聊カ地理上ノ變化ナカリシト見ヘ、那亞ハ其前ノ地理ニ因リ、之ヲ分テ三部トナシ、歐羅巴洲ヲ雅弗ニ與ヘ、亞細亞洲ヲ閃ニ授ケ、亞弗利加洲ヲ含ニ賜フ、那亞未タ我カ亞米利加洲アルヲ知ラズ、故ニ之ガ祖先ヲ設ケサルナリ、乃チ三族祖ハ、泥濘腰ニ及フノ沼ヲ涉リ、刺殼臂ヲ摩サクノ林ヲ跋リ、寂闕無人ノ境ニ赴キ、各、其大陸ニ再値セリ、後七十年ニシテ、亞細亞族大ニ増殖シ、其數、百ヲ以テ數フ、遂ニ米所波太迷亞ノ平原ニ遷リ、何等ノ目的ヲ有スルニヤ、頭尖天ニ達スベキノ高塔ヲ築クコト四十年、忽チ言語錯亂ノ事アルヲ以テ之ヲ休メ、人民普ク地上ニ散布ス、聖安伯羅士ノ曰ク、此俄然譚話ヲ混亂セシムルガ如キハ、神爲ニアラザルヨリハ、人事ノ決シテ能ハザル所ナリト、阿里全ノ曰ク、獨リ唯人類ノミナラズ、天使ト雖トモ、恐クハ之ヲナス能ハザルベシト、

言語錯亂ノ事ハ、神學者ヲシテ、太古ノ人語如何ニ就テ、數多ノ奇説ヲ生セシメタリ、或人ノ曰ク、亞當ノ語ハ、全ク唯名詞ヨリ成リテ、單ニ一綴語ナルモノアリ、尤モ長キモノハ七八綴ナルモノアリ、ノミナリシト雖モ、此錯亂アルニ及ンデ、乃チ二綴以上ノ語ヲ生セリト、然レモ、コレ(創世記)ニ記スル所ノ、上帝ト亞當、惡蛇ト夏巴ノ問答、談話等ヲ知ラザルモノニ似タリ、此等ノ談話中ニハ、種々ノ語類アルニアラズヤ、然ルヲ彼神學者流ハ、單ニ之ヲ名詞ノミト云フ、豈甚タ違ヘルニ非ズヤ、太古ノ人語ハ、希伯來語ナリトノ説ハ、世人ノ概チ許ス所ニシテ、諸族祖ノ一般ニ然ラザルヲ得ザルノ説ナリ、

希臘僧ノ曰ク、彼ノ人民散布スル時、忽チ七十二ノ國民ヲナセリト、聖埃額士丁亦此説ニ同ス、然レモ、大學者達格德、沙福達ノ名著「世界法俗合史」(原名オン、セ、サクレッド、アソ、デ、プロフェン、ヒ)ニ曰ク、彼ノ人民ヲ以テ、若シストリ、オ、フ、セ、ウ、ォ、ー、ル、ド、コ、ン、チ、ク、テ、ッ、ド)ニ曰ク、彼ノ人民ヲ以テ、若シ

七十二國ヲナセリトセバ、此等ノ國々ハ、僅カニ二十一二人ニ過ギサルノ、男女老幼ヲ以テ成レリト云フベシト、氏ハカヲ盡シテ、巧ミコ之ヲ論セシ人ナルニ、氏ニシテ此説アリ、希臘僧ノ議論、亦之ヲ信ズルニ足ラザルナリ、

此年代記方ノ要点ハ、其基礎タル所ノ族祖ノ長壽ナルコト是レナリ、彼レ耶蘇教徒皆以爲ラシ、世界未ダ洪水アラザル以前ハ、晝夜常ニ平分ニシテ、宇宙永ク温和ナリキ、然レモ、一タビ此變事ヲ生ゼシヨリ、地軸ノ變動ヲ來タシ、季候ノ嚴烈ヲ致シ、且ツ地面ニ大沼ヲ現シ、遂ニ人ヲシテ、壞血病ニ苦シマシムルノ酸況ヲ現セリ、從テ人壽モ亦其半ヲ減シテ、聖詩家ノ比ヨリハ、定命減シテ七十歳ニ至レリト、

神學者中、或ハ其族祖ノ壽命長キニ過グルノ難ヲ避ケテ曰ク、此等ノ聖史ニ記スルノ年ハ、大陽曆ニアラズシテ、太陰曆ナリト、果シテ然ラバ、コ

ノ尊重スベキ族祖ノ壽命ハ、聊カ短縮スベシト雖モ、他ニ又一難ノ避クベカラザルモノアリ、何ツヤ、曰ク、若シ之ヲ太陰曆ニ改算スレバ、其族祖輩ハ、年甫メテ五六歳ナルトキ、已ニ其子女ヲ擧ゲザルベカラズ、嗚呼、是レ豈前門虎ヲ拒テ、後門狼ヲ入ル、ノ類ニアラズヤ、

耶蘇教僧侶ノ主張スル所ノ宗教實學ハ、左記ノ條款ヲ説明スルモノナリ、

第一 天地開闢ハ甚ダ永遠ニアラズ、耶蘇前凡ソ四五千年比ニアリト云フ事、

第二 宇宙ハ六日ヲ以テ創造セラレタル事、

第三 大洪水ハ萬國ヲ沉没セリ、故ニ今生存スル動物ハ、皆方舟中ニ蓄藏セラレタルモノナル事、

第四 亞當ハ上帝之ヲ造リシトキ、已ニ充分ノ智徳ヲ具有セシム、然

ルニ、遂ニ其罪ヲ犯セルヲ以テ、其罪科ハ、其子孫タル吾人ニモ波及セシ事、

就中僧官等ガ尤モ熱心シテ主張スルノ説ニアリ、一ニ曰ク、天地創造ノ日今尙淺シト、蓋シ創造ノ日愈、遠ケレバ、審判日ノ辨解益、煩勞ナリ、若シ極遠時ニ於テ、之ヲ創造セリトセバ、上帝ハ、耶蘇前幾億万世ノ衆生ヲ棄テ、救ハズ、地球將ニ滅セントスルノ末世ニ至リテ、僅カニ其一小部分ノ人民ヲ救フガ爲メニ、其愛々ノ一子ヲ殺セリトノ難アレバナリ、二ニ曰ク、上帝ハ亞當ヲ完全無缺ニ造出セリト、若シ亞當ヲシテ、完全無缺ナラザラシメバ、之ヲシテ落罪セシムルコト能ハズ、已ニ落罪ナシ、豈之カ贖罪ヲ要センヤ、遂ニ落罪、贖罪ノ二説ヲ害スレバナリ、故ニ神學者ハ、世界ノ創造ヲシテ、極遠時ナラシムルノ説、及ビ回々教中ノ、人間醇化論(人ハ最初甚ダ不完全ノモノナリシト雖モ、永遠ノ年月ヲ

經テ、終ニ今日ノ狀ニ進達セリト云フ説、ヲ説クヲ聞カバ、忽チ怒髮朱眼、之ニ抵抗スルヲ怠ラザルベシ、以上記スルガ如キ、兒戯ニ均シキ、自家撞着ノ狂説ニ由リ、之ヲ見レバ、其所謂神聖學術ナルモノハ、極メテ不完全ナルノ説ト云フモ、敢テ經言ニハアラザルベシ、蓋シ前文ニ抄出シタル、達格德、沙福達氏ハ、誠意誠心ニ其前後ヲ彌縫セント欲シ、頗ル腦力ヲ費セシト雖モ、遂ニ其効ヲ奏スル能ハズ、左ノ評語ヲ以テ之ヲ斷セリ、曰ク、古時耶蘇教寺院ノ和尙輩ハ、善人タルニ妨ケナシト雖モ、之ヲ宇宙ノ大理ニ通セルノ人トハ云フベカラズト、耶蘇教ノ天地開闢論ニ依レバ、上帝手ツカラ之ヲ煉製セリト説キテ、其第二因ノ之ヲ助クルアルヲ許サズ、若シ實學ノ所論ニ依レバ、大イニ之ニ異ナルモノアリ、順次ニ之ヲ左ニ陳述セン、

抑實學ノ天地開闢論ト云フハ、以太利ノ天文家、加西尼氏カスニ（佛蘭西帝路易第十四世ハ、氏ノ爲メニ特ニ觀象臺ヲ巴理ニ立タリ）ガ望遠鏡ニ縁リテ、木星ハ眞ノ圓体ニアラス、兩極扁圓ノ橢圓形ナルヲ發明セシノ日ニ始マレリ、器械理學ヨリ之ヲ論ズレバ、粘製体ハ之ヲシテ廻轉セシメバ、其形必ラズ橢圓トナルベシ、廻轉ノ度愈、急速ナルハ、其橢平ノ度モ亦益、大ナリ、是ヲ以テ、赤道ノ凸出ハ從テ益、甚シキナリ、

牛董氏ニウトン以爲ラク、（純然タル器械的ノ工夫ヨリ）地球モ亦多少橢圓形ナルベシト、而シテ平分点ノ先進ヲ以テ、其赤道凸出ニ皈セリ、此先進ノ一周ハ、二万五千八百六十八年ヲ要ス、又魏刺達里氏ハ、地軸ノ章動ヲ發明セリ、（予輩ハ既ニ前章ニ於テ、赤道ノ直徑ト、兩極間ノ直徑トハ、二十六英里ノ差アル事ヲ記セリ）

地形ノ橢圓ナルコトハ、左ノ二箇條ヲ證明スルナリ、第一ニ、地球ハ初メ

粘摸質ノ物体ナリシ事、第二ニ、器械學的ノ理、即チ第二因アリテ之ヲ模形セシ事、

其所謂器械學的ノ因ハ、啻ニ其廻轉圓形ノ外部ヲ製セシノミナラズ、尙ホ其内部ノ物質順序ニ於テモ、大イニ其働キヲ顯セリ、今ソノ水中ノ岩礁ヲ見ルニ、其厚サ實ニ數英里ナルモノアリ、抑、此岩礁ノ質タルヤ、上古大陸ノ分離物ニシテ、其曾テ水路ニアルモノ、漸々水ノ洗流スル所トナリ、更ニ礙固蓄積シテ、遂ニ此大顯象ヲ現セシナリ、吾人ノ目撃スル所ニ因リテ、其蓄積ヲ計算スルニ、百年ノ久シキヲ歴ルモ、未ダ寸餘ニ上ボラザルナリ、是レニ由テ之ヲ觀レバ、彼ノ万尺ヲ以テ數フルノ岩礁ヲ生ズルニハ、果シテ何万年ノ時日ヲ要セシヤ、吾人ハ之ヲ計フル能ハザルナリ、

二千余年、人ノ熟知スル、今ノ埃及海岸ハ、其以前、尼羅河ヨリ洗流セシ砂

石(碎物)ノ地中海ヲ填メテ、其水面ヲ蠶食セシ者ナリ、獨リ只然ルノミニアラズ、下埃及モ亦皆同一ノ原因ニナレリ、米西悉比河口近圍ノ濱邊ハ、五百年間ニ於テ、其墨其哥灣ヲ蠶食セン事ハ、殆ンド測知スベカラズト雖モ、其三了江地ハ、嘗テ聖路易コアリタルノ證アリ、現時ノ江地ハ聖路易ヲ距ルヲ七百英里ノ地ニアリ、是レニ由テ之ヲ觀レバ、埃及並ニ米國(其他ノ與地萬國皆然ヲザルハナシ)ノ河ハ、寸一丈陸ヲ海中ニ擴ムルヤ明ラカナリ、コノ百年微塵ノ功ヲ積テ、彼ノ廣大ノ事業ヲ成スニハ、實ニ莫大ノ時日ヲ要スルハ、識者ヲ埃テ後ニ知ラザルナリ、其他湖水ノ淤填ニトテヘルチン石ノ凝固、山岳ノ陷沒、海濱ノ崩流、岩石ノ顛覆、大氣氷若クハ炭酸ニ因リテ岩石ノ消耗等ヲ見レバ、亦同シク年數功力ノ大ナルコトヲ知ラム、

又沈渣層ハ、其始メハ、平ラカナル並行線ナリシモ、漸ク年月ヲ經過スル

ニ從ヒ、漸次傾斜シテ、種々ノ角度ヲ現シ、殆ント並行ノ地ナキニ至ル、コノ著シキ傾斜、隆陷ノ方ヲ辨明スルニハ、何等ノ說ヲ以テスルモ、現時ノ傾斜ニ至ラシムルコトハ、必ラズ莫大ノ年數ヲ要スルモノナリ、

石炭層ノ如キモ、亦漸次ノ填沈ニ成レルモノナリ、而ルニ、威爾西ノ石炭層ハ、其厚サ一萬貳千「フット」ノ深キニ達シ、諾法斯哥西亞ノ石炭層ハ、其厚サ一萬四千五百七十「フット」ノ底ニ達ス、而シテ每層必ラズ大木ノ埋レシモノアリ、層ノ厚サ四千五百十五「フット」ノ間ニ、都合十七段ノ木株列アリ、願フニ此埋株ハ、舊木舊地ト共ニ埋レ、新木又新地ニ生植シ、數之ヲ埋メ、數之ヲ生シテ、遂ニ之ヲ致セシナラン、而シテ此埋株ハ、其直徑、四尺以上ニ達セシモノアリ、以テ其埋沒交代ノ遲久、年月ヲ要スルヲ知ルベシ、又悉德尼ノ石炭坑ノ如キハ、其層中ニ、五十九段ノ巨材アルヲ發見セリ、

評
如我邦
末松是
也

海岸ヲ距ルコト極メテ遠キ山頂ニ於テ、往々蠣殻等ノ附着スルアルヲ見ルヤ、彼レ神學者輩ハ、揚々得色ヲ顯ハシテ曰ク、果セル哉、コレ大洪水ノ、普テク世界諸山ヲ沈没セシノ証ナリト、嗚呼是レ只皮相ノ見ノミ、若シ地質學ニ依テ之ヲ論セバ、地球ノ表層ハ、其層ノ密多ナル、恰カモ書籍ノ紙ノ如シ、ヨシヤ何等ノ大事變アルモ、決シテ一朝ノ製造ニアラズ、層々皆清水ト湖水トノ交代ヨリ成レリ、コレ世界水平面ノ變換ト、風土ノ變更トニ因テ、同一ノ局地ガ、或ハ陸地トナリ、或ハ河床海底トナリ、數、清水若クハ湖水ノ浸潤ヲ經タルノ証ナリ、嗚呼、コノ一回ノ變遷モ、尙且數千百年ノ久シキヲ要ス、況ンヤ其無數變換アリシニ於テヲヤ、地層ノ廣厚、及ヒ層質ノ一オラザルコトノ外ニ、尙地球ノ永遠ナルコトヲ證スルモノアリ、凡ソ動物ト植物トヲ問ハズ、上古ヨリ今日ニ至ルマテ、有機体ニ於テハ、必ラズ遅久ナル生理的ノ進歩アルナリ、現今地球上

ニ生植スル、各種ノ物体ヲシテ、今日ノ發育ヲ得セシムルニハ、數千萬ノ族滅セシモノアリ、故ニ今日地球上ニ生息スル動物ハ、多ハ即チ多ナリト雖也、之ヲ古來生々死々セシ所ノ者ニ比スレバ、實ニ大海ノ一滴ノミ、軟体生ノ時代ト云ヒ、匍匐生ノ時代ト云ヒ、胎生々ノ時代ト云フ、各、其ノ徵候スル所判然ニシテ、彼此混合スベカラザルニ似タリ、然レバ、是レ皆自然ノ醇化進發ヨリ達スルモノニシテ、一朝偶然ノ創造ヨリ成ルモノニアラズ、百世微塵ノ醇化ヲ積ンテ、漸ク其極点ニ達シ、其徵候完全ナルニ及ンデ、更ニ後時代ノ動物ニ醇進シ、遂ニ霄壤比スベカラザルノ大變化ヲ得タリ、以テ年月ヲ要スルノ莫大ナルヲ思フベシ、但シ歷史上ニ於テハ、其醇化ヲ經タルノ事蹟ヲ證スル能ハザルガ故ニ、或ハ之ヲ疑フベシト雖也、若シ地質學上ノ時ヲ以テ之ヲ説カバ、其醇化ニ族滅セシモノ、勝テ之ヲ算スルニ違アラズ、

丹津曰
論得至
奇駁得
至妙

抑、ユノ醇化ノ事タルヤ、決シテ人ノ經驗スル能ハザルモノナレバ、人、或
ハ之ヲ駁撃シテ、萬物各、其創造ヲ異ニスル說ヲ主張スルモノアラシ、然
レト、空無一物ヨリ、偶然之ヲ創造ストノ說ニ比スレバ、前物ノ一部ヲ變
シテ、以テ後物ヲ現生ストノ說ハ、寧ロ理論ニ合フニアラズヤ、若シ人ノ
之ヲ經驗セシモノナキヲ以テ、コノ說信スルニ足ラスト云ハ、世界中、
誰カ能ク造物主カ、空無一物ノ虚空ヨリ、偶然有機体ヲ製造セシヲ見タ
リヤ、

偶然頓生ノ創造ハ、或ハ神力ノ不可思議ヲ説明スルニ足ルベシト雖ト、
如何セン、上古ヨリ今日ニ至ルマデ、有機体ノ銖銖相通シテ、前録後録ニ
接シ、漸次ノ發育ヲ受クルモノナルヲ、而シテコノ銖銖ハ、啻ニ動物ノ發
育ハ、自然ノ定法アルヲ證スルニ止ラズ、又此定法ノ常住不變ナルヲ證
ス、嗚呼、縱令ヒ世ヲ代フルコト千萬ナリト雖ト、誰カ能クコノ定法ヲ變

評徵考
確實與
彼荒唐
說不可
同年而
語之

換スルモノアラシヤ、

以上數節ハ、以テ地球年紀ノ疑問ニ就テ、其證據ノ一斑ヲ示スニ足ルベ
シ、若シ地質學者ガ、熱心以テ蓄積セシノ詳說ニ涉ラバ、實ニ數百冊ヲ要
スルナリ、夫レ地質學ハ、岩石ノ諸種ヲ觀察考究シ、水岩ノ厚薄及ヒ其位
置、形狀ハ如何、河生ノ物ト海生ノ物ト相混合スルキハ如何、大陸ノ隆陷、
海濱ノ浮沈ハ如何、海床若クハ海岩ヲ内地ニ變遷セシムル事、巨大ノ体
ト雖ト、自然ノ力ニ依テ、徐々遂ニ耗滅シ去ル事、及ヒ大地面ヲ再造スル
事等ヲ論シ、動物學本草學ニ據テ、動植物ハ、何等ノ正シキ順序ヲ以テ、混
沌タル上古ヨリ、今日ニ至ルマテ、其有機体ヲ相續セシヤヲ參考シ、石炭
ノ蓄積ハ、諸ノ腐敗植物ヨリ生スルノ理ヲ究メテ、大氣ハ、啻地球上ニ於
テ變化スルニアラズ、宇宙一般、氣候ノ變化アルヲ說キ、更ニ他ノ實事ニ
由リテ、甚シキ寒暖ノ轉變アリ、或ハ中熱ノ時代アリ、或ハ氷雪ノ時代(兩極

ノ氷雪ヲ以テ、現存大陸ノ大半ヲ蓋フ、アルヲ證明セリ、
 地質學者ノ一派ハ、頗ル有味ノ證據ニ據テ、吾人ニ教ヘテ曰ク、地球ハ、元
 鎔解体(若シクハ蒸發體)ナリト雖モ、光線ヲ放射スルノ久キ、遂ニ熱氣ヲ
 減シテ、今日ノ溫度ニ至レリト、天文就中大陽系統ノ諸遊星体ニ關スル
 天文ノ觀察ハ、頗ル威重ヲ此說ニ與ヘリ、地球密度ノ輕小ナル事、地ヲ掘
 ルニ從テ、溫度ノ増加スル事、礦脈、火山、火岩及ヒ化石ノ顯象モ、亦皆此說
 ノ憶造ナラザルヲ證ス、而シテ同學派所說ノ變化ヲ成サシムルニハ、實
 ニ數百世紀ヲ要スルナリ、
 歌白尼孤ノ說ニ據テ之ヲ考フルモ、吾人ハ、特リ地球ノミノ起原、經歷
 ヲ思考スルニ止ラズ、必ラズヤ同系中ノ諸遊星ヲモ結合シテ、之ヲ思考
 セサルヲ得ズ、又只獨リ大陽系ノミニ止ラズ、衆多ノ星辰世界モ、亦共ニ
 之ヲ思考スルナリ、吾人ハ已ニ諸星辰ノ、互ニ相距ルコト甚ダ遠遠ナル

丹津曰
 審判公
 正不聞
 怨嗟之
 聲

ヲ說テリ、故ニ亦其起原ノ極遠時ナルコトヲ推知スベシ、彼ノ衆星ノ中
 ニハ、光線ノ速カヲ以テスルモ、尙其光線吾地球ニ達スルニハ、實ニ數千
 年ヲ要スルモノアリ、其起原ノ數千万年ノ前コアルコト、贅辨ヲ待タズ
 シテ明ラカナリ、
 地質學者ハ、皆一人ノ異論モナク、地球年紀ノ極遠ナルコトヲ贊成シ、之
 ガ精算ヲナサント欲シ、或ハ天文ニ據リ、或ハ格物ニ依リ、最後ノ氷雪時
 ヨリ以來、二十四万年ヲ經過セリト算ス、地質學的年歲ノ莫大ナルハ、世
 ノ普テ公認スル所ナリト雖モ、此計算ノ如キハ、必スシモ確正ナリト
 云フベカラザルナリ、
 現今實學上ノ地位ヨリ、之ヲ論スルニ、耶蘇教記者カ、所謂摩西記錄(モ
 タチューナ即チ摩西)ナルモノ、所說ハ、甚ダ之ヲ信シ難シ、古來耶蘇教家
 ニシテ、數、默示說ヲ以テ、發明說ニ一致合和セシメント欲スルモノアリ

ト雖也、到底其功ヲ奏セザリキ、抑、創世記ノ説ハ、其創造ノ順序正シカラズ、上帝ノ干涉ハ煩ニ失シ、年代ノ時日ハ短ニ失ス、故ニ、假令ヒ一時ハ人心ヲ瞞着スルヲ得ルモ、人智發達シ、天地間ノ理ヲ辨明スルノ今日ニ至テハ、宇宙ノ廣大ト、地球ノ賤小トヲ知り、遂ニ該説ノ信心ヲ冷却セリ、近來地質學ノ發明ニ於テ、頗ル吾人ノ注意スヘキコトアリ、何ツヤ、太古ノ人骨、及ビ其器具ヲ掘出セシコト是ナリ、此等ノ古物ハ、歴史上ヨリ之ヲ論ズレバ、甚ダ極遠時ノモノナリト雖也、地質學上ヨリ之ヲ論ズレバ、之ヲ新物ト謂フベキノミ、

歐洲ノ洞窟、墜道、泥炭床等ノ中ヨリ、巨人ノ骸骨、及ビ荒燧石、截燧石、截石骨、真鍮等ノ諸器具ヲ掘出セリ、コレ野蠻人民ガ、纔ニ漁獵ヲ業トセシ時代ノモノナルベシ、近世ノ究索ニ依リテ、之カ見解ヲ下タスルハ、人ハ不充分ナガラモ、第三時ノ前ニ於テ、正ニ生存セシコトヲ証スルニ足ル、彼

ノ巨人骸骨ノ如キハ、南部ノ大象、リノセロス、レプトリフス、河馬ト同時ノ者ナリ、或ハ只然ルノミニ非ラズ、又、マストドン（大象ヨリ大ナルコトハ唯其遺骸）同時ノ人ナリシヤモ知ルベカラズ、（大象ヨリ大ナルコトハ唯其遺骸）同時ノ人ナリシヤモ知ルベカラズ、

第三時ノ終リニ至リ、北半球ノ温度頓ニ下リ、温地變シテ氷地トナレリ、之ヲ久シフシテ、溫度再タビ騰リ、結氷亦從テ解ク、已ニシテ溫度復タ沈下シテ、氷雪全地ヲ庇ヘリ、然レ也、之ヲ前回ニ比スレバ、時限稍短シ、コレ將ニ第四時ニ遷ラントスルノ時ナリ、漸ニシテ温暖今日ノ度ニ達セリ、第四時ノ始メニ當リテハ、洞熊、穴獅子、水陸並住ノ河馬、内部ニ鼻穴アル犀、及ビ巨象（古代ノ動物ニシテ、現時ノ大象ヨリモ大ナルヲ數層）等ノ住スルアリ、願フニ、始メ巨象ハ、實ニ群居セシト雖也、此獸ノ性ヤ、極メテ北方ノ寒冷ニ適セリ、故ニ熱ノ漸ク増加スルニ從ヒ、漸ク其性ヲ傷フモノアリ、加フルニ、馴鹿、牛馬、其餌ヲ奪フ、是ヲ以テ、遂ニ地球上ニ遺族ナキニ至レリ、而シテ中央歐洲

ニ於テハ、馴鹿モ亦其跡ヲ絶テリ、コノ巨象ノ絶滅ハ、實ニコレ第四時ノ終リナルヲ示ス、

人ノ地球上ニ出現シテ、彼ノ季候ノ大變遷ニ遭遇シ、此動物ノ大交代ヲ經過スルヤ久シ、而シテ此等ノ大變遷ノ如キハ、現ニ吾人カ之ヲ目撃スルモ、其變易ヲ測知シ能ハザル程、遲滯ノ小變化ヲ積ンテ、終ニ之ヲ致セシナリ、故ニ其之ヲ致サシムルニハ、果シテ幾千万年ヲ要スルヤ、否、筆紙ノ能ク及ブ所ニアラザルナリ、

嘗テ「チリオシク」年代ニ於テ、巴士給士族ニ類似ノ人種アリント云フハ、敢テ其理ナキニアラザルナリ、當時ノ英吉蘭嶋ハ、現時ノ斯干的那維半島ノ如ク、其水平ニ變化ヲ生シ、蘇格蘭ハ隆リ、英吉蘭ハ陷レリ、又「ブレイス」年代ニハ、中央歐洲ニ、以士給母族ニ類スル、野蠻ノ漁獵人種アリタリ、

嘗テ人ト大象トノ骸骨ヲ、蘇格蘭古代氷洞中ヨリ發掘セシ者アリ、コレ予ガ上ニ説ク所ノ緯ノ南北ヲ問ハズ、地ノ山野ヲ論セズ、歐洲大部ハ、殆ンド氷雪ヲ以テ、封結セラレタル時ノ物ナリ、動物ノ此時ニ族滅セシ者、其數ヲ知ラズ、幸ニシテ人類ハ、唯纔ニ族滅セラレザルヲ得タリ、凡ソ泥炭床ハ、昔時其地方ニ絶滅シタル埋木ノ下ニアルモノナリ、故ニ其年代ハ、少クハ、四五万年ヨリ下タラザルベシ、而シテ此泥炭床ニハ、人骨ト器具トヲ埋没スル者アリ、試ニ之ヲ取テ、仔細ニ檢スル所ハ、其年代ノ順序、判然トシテ証セラルベシ、地面ヲ距ル最モ近キ所ニ、真鍮ノ具アリ、次ニ骨製ノ器アリ、次ニ研石ノモノ、截石ノ者、荒石ノ者アリ、然レハ、人ハ初、其野蠻ナル時ニ方リテ、草根木菓、蠟貝ヲ以テ、僅ニ其食トスルモ、業ニ已ニ火ヲ鑽ルノ方ヲ知り、將來能ク開化スベキノ兆徴ヲ顯ハセリ、佛蘭西等ノ洞窟ヲ檢スルニ、石器時代ノ斧、小刀、鏃、鏟具、及ビ石椎アルヲ

發見セリ、矢筈ハ、其弓ヲ發明シテ、保守生活ヨリ、進取生活ニ遷ルヲ証シ、
 鏃ヲ具スルノ矢筈ハ、其事物ヲ發明スルノ才アルヲ証シ、骨鏃ハ、其能ク
 禽獸ヲ捕獲シタル敏捷ヲ証シ、骨製ノ管子笛ハ、其數人協同シテ、犬ヲ以
 テ其獵具トナシタルヲ証シ、石製ノ剝皮具ハ、其獸皮ヲ以テ、衣服ニ供シ
 タルコトヲ証シ、粗製ノ錐針ハ、其皮ヲ縫裁スルノ術アルヲ証シ、其飾リ
 貝殼ニ穴アルハ、其既ニ人体ヲ裝飾スルノ風致アルヲ証シ、其彩色具ア
 ルハ、其既ニ身体ヲ粉粧墨黥スルノ智アルヲ証シ、其位階鳩杖アルハ、其
 既ニ社會ノ順序ヲ制定スルノ濫觴タルヲ證ス、嗚呼、纒ニ、截石時代ヨリ、
 磨石時代ニ遷ルノ間スラ、其久シキコト、山犬ヲ化シテ家犬トナスノ時
 日ニ均シク、實ニ數万年ヲ要スベシ、況ンヤ、其他無數ノ變遷ニ於テヤ、
 此古代、歴史未ダ始マラザルノ人民中、既ニ技術ノ萌芽アルヲ見ルハ、豈
 吾人ノ一快事ニアラズヤ、其象牙骨角等ニ、當時ノ獸類ヲ粗彫セシモノ

評似吾
上古萬
國同一
轍

ヲ見ルニ、巨象ノ圖アリ、馴鹿相闘フノ圖アリ、漁人ノ漁又ヲ以テ魚ヲ刺
 スモノアリ、裸體獵夫ガ、唯一ノ投箭ヲ持テ屹立スルモノアリ、其工、或ハ
 之ヲ看ル者ヲシテ、此クノ如キ人民ハ、唯外貌少シク他ノ動物ニ超過シ、
 纒ニ火ヲ作ルノ法ヲ知リタル、一種ノ動物ニ過ザルノ感覺ヲ發サシム
 ルニ足ルベシ、
 骨、貝殼ノ積ンテ塚ヲ爲スモノアリ、之ヲ發掘スルニ、眞鍮時代前ノ石器
 ヲ埋藏シ、火ヲ利用シタル證據ヲ留ムルモノ多シ、此等ノ貝塚ハ、多クハ
 現時ノ海岸ヨリ、五十英里以近ノ内地ニアリ、コレ家畜獸ノ前、絶滅獸類
 前後ノモノニシテ、無慮十万年ニ下ラザルノ星霜ヲ閱セシモノアリ、
 瑞西ノ湖家レイキョウカ湖水ノ底ニ於テ發見シタル古代ノ家屋ハ、其用具ニ據リテ
 之ヲ判スルニ、コレ石器時代ニ始マリ、眞鍮時代ニ終リシモノナリ、其眞
 鍮時代ニ至リテハ、農業ヲ以テ家計トシタルノ證據多シ、

彼ノ地質學者ガ示ス所ノ人類文明ニ進ムノ時代ハ、讀者認リテ、全人類同一時ニ起リシ、偶然ノ時代ト思フコト勿レ、現ニ今米國ノ漂泊土人ハ、石製ノ銳器ヲ以テ、其武器トナスモノアルニアラズヤ、是レ尙^ホ石器時代ヨリ遷ル能ハザルモノナリ、偶^ニ馬、鉄、及^ヒ火器ノ利用ヲ知ルモノアルハ、輒近白哲人種ノ傳^ル所ナルノミ、

以上ノ究索ニ依リテ之ヲ論スレバ、人類ノ生存ハ、實ニ千百万年ノ前ニアリト云ハザルヲ得ズ、但シ此究索ヤ、纔ニ輒近ノ究索ニシテ、其區域甚マ狹隘ナリ、若シ人ノ根元住地ナリト思考スルノ地方ヲ究索セバ、其果シテ何等ノ古物ヲ發見スルヤ、未^ダ之ヲ知ルベカラズ、讀者幸ヒニ之ヲ思ヘ、

吾人ガ族祖年代記(六千年)ノ外ニ出ルヤ既ニ遙カナリ、前回歐洲ノ氷雪時代スレ、尙^ホ且ツ二十五万年ニ下ルベカラズ、況ンヤ人ノ生存ハ、其前幾

時代ニアルヤヲ知ルベカラザルヲヤ、吾人ガ信スル所ハ、尙^ホ之ヨリ大ナルモノアリ、何ツヤ、曰ク、人モ亦其初メ、殆ンド一箇ノ動物ニシテ、永遠ノ年月ヲ積ミ、遂ニ現狀ニ發達セシモノナリト、

嗚呼此賤陋見ルベカラザルノ野蠻風ハ、彼ノ以^レ丁花園ノ樂園トハ、豈啻雲壤ノ差ノミナランヤ、其原罪說ト相戾ルヤ、推シテ知ルベシ、

予ハ本章ニ於テモ、一層精シク世界ノ性質ヲ論シ、以テ前章ノ缺ヲ補ハシ、コトヲ欲シ、頗ル其年紀外ノ事ヲ縷述セリ、抑^テ地球年紀ニ關スル議論ハ、眞理準繩ノ軌轍(宗教改革後、尙^ホ久ク版決セズ、實ニ今世紀ニ至ルマデモ、或ハ之ヲ諍フモノアリ、然レモ、其爭ヤ激烈ナラズ、是レ予ガ、本章ニ命スルニ、軌轍ノ字ヲ以テセズシテ、故ラニ爭論ノ字ヲ用キシ所以ナリ、地質學ハ、天文學ノ如ク、甚シキ抗抵ヲ受ケズシテ、其說ヲ成立セリ、而シテ、地球ノ古物タルコトハ、地質學者ノ熱心主張スル所ナリト雖モ、其數